

日本地質学会 *News*

Vol.27 No.7 July 2024



第131年学術大会（2024山形）プログラム

会期：2024年9月8日（日）～10日（火）

会場：山形大学 小白川キャンパス 基盤教育1-3号館

日本地質学会 *News*

Vol.27 No.7 July 2024

The Geological Society of Japan News

一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル 6F

編集委員長 松田達生

TEL 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156

main@geosociety.jp (庶務一般)

journal@geosociety.jp (編集)

http://www.geosociety.jp

Contents

第131年学術大会 (2024山形) プログラム…… (1) ~ (33)

入会申込書…… (34)

日本地質学会会長就任にあたって (山路 敦) ……1

2024年度新執行理事紹介……2

案内……4

産業技術総合研究所地質調査総合センター研究室見学会/地質調査総合センター研修会

各賞・研究助成……4

2024年度「朝日賞」(自然科学) 候補者推薦依頼

公募……4

新潟大学教育研究院自然科学系地質学准教授公募/新潟大学若手教員スイングバイ・プログラム(若手教員一括採用育成制度)新潟大学自然科学系人類紀巨大災害科学分野助教の公募
東京大学地震研究所令和6年度第3回大型計算機共同利用公募研究の公募/福井大学学術研究院教育・人文社会系部門教員養成領域教育学部「地学および小学校理科」担当教員公募/岡山大学惑星物質研究所教員の公募

博物館・ジオパークで地球を学ぼう! ……6

山形県立博物館: 東北の老舗博物館と自然史 (瀬戸大暉)

支部コーナー……8

関東支部: 学生・若手会員向け「地質調査の基礎講座」城ヶ島巡検実施報告

地質学雑誌: 新しい論文が公開されています……9

CALENDAR……10

2024年地質の日報告……11

西日本支部: 第16回「地質の日」企画『身近に知る「くまもとの大地」』開催報告

学会記事……12

2024年度第1回理事会議事録

印刷・製本: 日本印刷株式会社 東京都豊島区東池袋4-41-24

一般社団法人2024年度総会議事録
……13

表紙: 2024年山形大会

写真提供:

日本地質学会第131年学術大会実行委員会

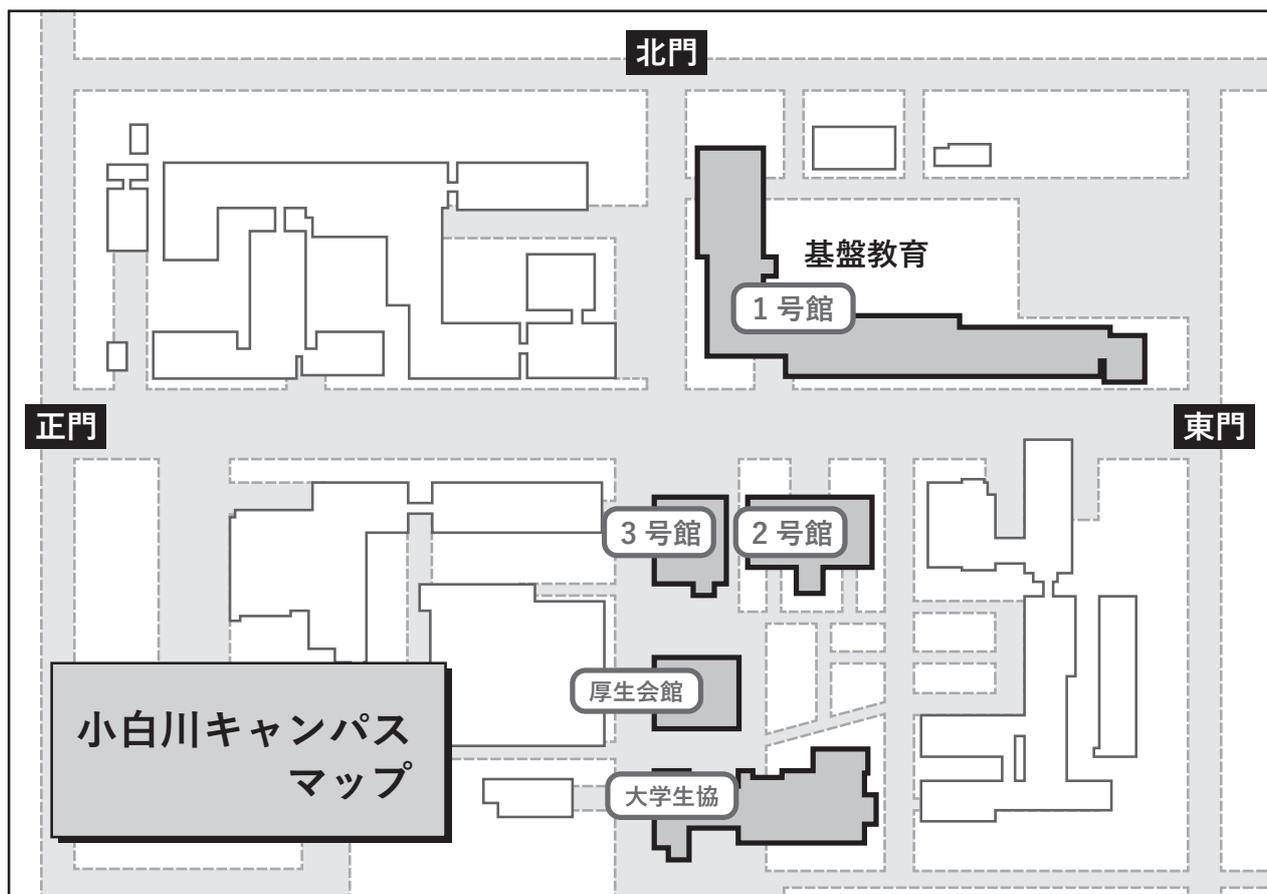
日本地質学会第 131 年学術大会（2024 山形） プログラム

会期：2024 年 9 月 8 日（日）～ 10 日（火）

メイン会場：山形大学小白川キャンパス（山形市小白川町）基盤教育 1～3 号館

地質情報展：山形テルサ（山形市双葉町）

後援：山形大学



2024 山形大会ホームページ

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/geosocjp131>

事前参加登録：8 月 20 日（火）18 時締切



プログラムもくじ

キャンパスマップ	(1)	会場での注意点	(4)
会場へのアクセス	(2)	問い合わせ先	(5)
当日の受付について	(2)	全体日程表	(6)
会員顕彰式・各賞表彰式・受賞記念講演	(3)	講演会場フロアマップ	(7)
懇親会	(3)	発表者へ（口頭発表／ポスターセッション／学生優秀発表について）	(8)
巡検	(3)	ランチョン・夜間小集会の予定	(9)
企業等団体展示／書籍販売	(3)	関連行事（地質情報展 2024やまがた／市民講演会／ジュニアセッション／山形城と石材見学会／学生のための地質系業界説明会ほか）	(11)
その他のお知らせ（手荷物について／Wi-Fi接続について／大会期間中のお食事について）	(3)	講演プログラム（口頭）	(13)
CPD 単位取得	(4)	講演プログラム（ポスター）	(26)
ダイバーシティ認定ロゴ導入の取り組み	(4)		
お子様をお連れになる方へ	(4)		

メイン会場（山形大学小白川キャンパス）へのアクセス

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/geosocjp131/content/access>



山形駅前から

- ①山交バス（宝沢行 [E31](#)，関沢行 [E32](#)，唐松観音行 [E30](#)，県庁北口行（注） [E12](#) [小白川一丁目下車]（注）県庁北口行は K10 コースもありますが，K10 は大学近くを通りません。ご注意ください。
- ②山形市内循環バス（べにちゃんバス東くるりん [山大前下車]）

当日の受付について

大会の受付時間
8日（日）8：00～16：30
9日（月）8：00～16：30
10日（火）8：00～15：00

■ 事前参加登録者

- ・「**会員カード**」を持参して下さい。会員カードでの受付は、裏面バーコードを読み込むだけで簡単スピーディです。お持ちの方は、忘れずに「会員カード」を持参してください。確認がスムーズに行えますよう、ご協力をお願い致します。当日「会員カード」をお持ちでない方（新入会の方、非会員の方、忘れた方等）は、お名前を確認いたします。
- ・会場受付にてネームカードホルダーをお渡しします。「会員カード」を入れ、名札として会場内で身に付けてください。カードをお持ちでない場合は、無記名の名札をお渡します。ご自身で名前を記入して身につけて下さい。



会員カードを忘れずに！

【入金済みの場合】 領収書のダウンロード URL とオンラインプログラム（要旨閲覧）へアクセスするためのログイン情報（ID/PW）を事前にメールでお知らせします。

【期日までに入金確認が取れていない場合】 会場受付で代金の清算をして下さい。請求金額は「当日参加登録費」の金額となります。期日を過ぎて入金された場合でも、差額分のご精算をお願いします。その際は、入金時の控え等を会場にお持ちください。入金完了するまで、オンラインプログラム（要旨閲覧）のログイン情報を発行できません。ご注意ください。

巡検参加者の受付：巡検当日に集合場所にて名簿を確認します。巡検参加の CPD 単位のための参加証明書や領収証は巡検当日に各コースの案内者からお渡しします。

領収書について：入金済みの方に対して、領収書のダウンロード URL をメールでお知らせします。各自 PDF ファイルをダウンロードしてください。PDF 以外の領収書が必要な方は、会場受付もしくは学会事務局までお申し出ください。

■ 事前登録をしていない方

会場にて当日受付を行います。参加登録費の有料・無料に関わらず備え付けの『参加登録票』に必要事項を記入し当日受付で、手続きしてください。その際オンラインプログラム（要旨閲覧）へアクセスするためのログイン情報（ID/PW）も発行します。

当日参加登録費（税込）

正会員（一般会員）：8,000円

正会員（シニア会員）※2024年4月1日時点で65歳以上の
正会員：5,000円

正会員（学生会員の院生）：3,500円

名誉会員／非会員招待者／学部生：無料

非会員（一般）：15,000円

非会員（院生）：9,500円

その他

発表料金 /1 題（講演する方）：1,500円

(注) 当日のお支払いは、現金のみの取扱いとなります。クレジットカードはご利用いただけません。

会員顕彰式・各賞表彰式・受賞記念講演

日程：9月8日（日）15:30～17:45
会場：山形大学 基盤教育2号館221教室

1. 会長挨拶，来賓挨拶（玉手英利 山形大学学長）
 2. 新名誉会員授与
 3. 50年会員顕彰
 4. 各賞授与
 5. 受賞記念講演
- 16:10～16:25 小澤儀明賞受賞記念スピーチ：羽田裕貴会員
鮮新世～更新世の古海洋・古地磁気復元：ハイレゾ分析から見える北西太平洋の千年スケール変動
- 16:25～16:40 柵山雅則賞受賞記念スピーチ：奥田花也会員
地震発生メカニズムの解明にむけた沈み込み帯を構成する物質の摩擦特性
- 16:40～16:50 2023年度柵山雅則賞受賞記念スピーチ：大柳良介会員
- 16:50～17:10 H.E.ナウマン賞受賞記念スピーチ：岡本 敦会員
岩石と流体の反応を読み解く：「かたち」と「うごき」
- 17:10～17:40 都城秋穂賞受賞記念講演：Gregory F. Moore氏
「Effects of seamount subduction on the northern Hikurangi margin – subduction erosion or accretion?」

懇親会

日時：9月8日（日）18:00～2時間程度
会場：山形大学 厚生会館食堂

会費（事前予約価格）：

正会員（一般会員） 7,000円

正会員（シニア会員） 4,500円

※2024年4月1日時点で65歳以上の正会員，名誉会員，会員の家族

正会員（学生会員） 3,500円

準備の都合上，前金制の予約参加とします。たくさんの方々，特に院生・学生などの若手会員のご参加をお待ちしております。山形県には51の酒蔵，19のワイナリーがあります。2023年の全国新酒鑑評会では山形県が金賞受賞数日本一に返り咲きました。鏡割りは山形市の銘酒「秀鳳」を，また予算の許す限り多くの地酒を用意する予定です。山形の芋煮や蕎麦などともにお楽しみください。余裕があれば当日参加も可能ですが，予定数（定員150）に達し次第締切ります。当日受付の参加費はプラス1,000円です。非会員の会費は会員に準じます。

※締切後の参加取消の場合は会費の返却できかねます。ご了承下さい。

巡検

巡検参加事前申込みは8月1日に締め切りました。参加者への連絡などは大会ホームページもしくは，案内者よりご連絡いたします。

巡検案内書は，個別の冊子体は作成せず，地質学雑誌130巻（J-STAGE掲載）に掲載いたします。J-STAGE<<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>>

なお，予告記事でもお知らせの通り，巡検参加者には各参加コース箇所の巡検案内書を巡検当日に配布します。

企業等団体展示 / 書籍販売

企業・団体・研究機関などによる展示を行います。会場は，基盤教育1号館2Fを予定しております。7月15日現在，以下の各社よりお申込がありました。

- ・メイジテクノ株式会社
- ・安井器械株式会社
- ・南京濱正紅仪器有限公司
- ・東北大学変動地球共生学卓越大学院プログラム
- ・㈱マリン・ワーク・ジャパン
- ・株式会社建設技術研究所
- ・Thermo2025（第19回国際熱年代会議）
- ・株式会社アイ・アール・システム

また，同場所では，**書籍・物品の展示販売コーナー**を設けます。以下の各社よりお申込がありました。

- ・株式会社ニチカ
- ・シュプリンガーネイチャー・ジャパン

※最新の情報は大会ホームページをご覧ください。

その他のお知らせ

- ・手荷物について：会場内での手荷物のお預かりは致しません。参加者各自での管理をお願い致します。
- ・会場内でのWi-Fi接続について：大会会場では eduroamが利用可能です（地質学会専用のWi-Fiサービスの用意はあ

りません)。なお、eduroam加盟機関に所属する高等教育機関や研究機関からの参加者は、事前に所属機関でアカウントを取得しておくことで、会場内の無線アクセスポイント設置箇所からWi-Fi接続が可能です。必ず事前に所属機関で接続テストを行い、正しく接続できることを確認してください。大会会場では不具合等に対応できません。

※eduroamは、国内外の大学等教育研究機関の間でキャンパス無線LANの相互利用を実現するサービスです。アカウント取得は、所属機関の担当者にお問い合わせください。なお、eduroamのアカウントが無い方（大学等所属でない方）には、ゲストアカウントを発行します。大会受付の窓口にてお申し出ください。（数に限りがあり、先着順となります）

・大会期間中のお食事について：

学内には、生協飲食店及び厚生会館食堂があります。原則、日・祝は営業いたしません。厚生会館食堂は9/8（日）もメニューを限定して営業予定です。

・生協飲食店：9/9（月）、9/10（火）通常営業

・厚生会館食堂：9/8（日）メニュー限定で営業予定。9/9（月）、9/10（火）通常営業

大学の周辺には飲食店は幾つかありますが多くありません。徒歩15分で中心街に行くことができます。コンビニエンスストアは大学の前に一つと、徒歩約5分範囲内に複数あります。また、Max valueとツルハが徒歩約5分範囲内にあります。

※講演会場内は飲食可能です。

CPD 単位取得

学術大会でCPD単位が取得出来ます

日本地質学会は、地質技術者への継続教育の一環として、大会参加者・発表者へCPD単位を発行します。希望者は、専用申し込みフォームからお申し込みください。会期後PDFメール添付にて参加証明書をお送りいたします。

【CPD単位】

（注）昨年8月よりCPDの登録区分の一部見直しが行われました。取得単位は下記を参照して下さい。

- ・学術大会参加：時間に応じて 例）7時間聴講 = 7単位
（注）休憩時間等は除きます。オンラインの場合は、ログイン履歴を確認の上、証明書を発行します。
- ・口頭発表：5×発表時間（h） 例）口頭発表15分の場合：
 $5 \times 1/4h = 1.25$ 単位
- ・ポスター発表：5×コアタイム時間（h） 例）コアタイム90分の場合： $5 \times 1.5h = 7.5$ 単位（注）CPDの登録区分（教育分野・教育形態）、CPD単位数（重み）の考え方が2023年4月から変更されました。
- ・巡検参加：1×受講時間（h）例）日帰り8時間程度=8単位
日本地質学会は、土質・地質技術者生涯学習協議会ジオ・スクーリングネット（GEO・Net：<https://www.geoschooling.jp/>）に加入し、地質技術者の継続教育（CPD）に携わっています。

大会への参加だけでなく、講演や巡検の参加についてもそれぞれ単位が取得出来ます。またGEO・Netに掲載されている協議会加盟団体（支部主催行事も含む）のイベント情報についても同様に検索・参加申込などができ、参加した場合はCPD単位が取得できます。積極的にGEO・Netをご活用下さい。技術者継続教育、CPD単位については、下記をご参照ください。

<http://www.geosociety.jp/engineer/content0003.html>

ダイバーシティ認定ロゴ「ECS・EDI」導入の取り組み

日本地質学会は、「ダイバーシティ認定ロゴ」を導入しています。



EDI : Equity, Diversity & Inclusion

セッションへのダイバーシティ認定ロゴです。開催セッションが、多様な背景を持つ会員を包摂し、Early Career Scientistsを応援するものであることを示すものです。

＜EDIロゴ対象項目＞

- ・世話人が複数の性別で構成されている。
- ・世話人にECS（Early Career Scientist）が含まれる。
- ・多様な国籍（2国籍以上）の世話人構成または発表者。



ECS : Early Career Scientist

学生・院生、またPDの場合は博士号取得後7年以内（ただし公私事由によるキャリア中断年数の加算可）の方で、年齢を問いません。ECSである事を示す事で、就職相談や、先輩会員からの研究上の助言など、様々な支援を受け易くなる効果を期待しております。

詳しくは、大会HPをご参照ください。

<http://geosociety.jp/engineer/content0063.html>



お子様をお連れになる方へ

ご家族で学会に参加される会員で、大会期間中に保育施設のご利用を希望される方には、学会から利用料金の一部を補助いたします。会場内には保育室を設けませんので、近隣施設をご紹介します。

補助対象利用日：2024年9月8日（日）～10日（火）

対象者：山形大会に参加する会員（保護者）のお子様（小学生まで）

補助額：基本保育料の60%（上限8,500円/日、おやつ、レンタル用品等オプション料金は補助の対象にはなりません）
 詳しくは、<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/preview/event/geosocjp131/content/kids>

会場での注意点

■発表終了時には拍手をお願いします

1題の口頭発表はわずか15分で終了します（セッションの場合）。しかし、その発表の裏には、発表者の弛まぬ努力と、研究や発表準備に費やした多くの時間があるはずで、講演終了時には、惜しめない拍手をお願いします。

■無断で撮影をしてはいけません！

口頭発表・ポスター発表を、発表者に無断で写真撮影・ビデオ撮影してはいけません。撮影には発表者の許可が必要です。また、それらを発表者の許可なく、SNS等で配信もしてはいけません。

■軽装でお出かけ下さい

9月初旬の山形はまだまだ暑さの厳しい時期です。大会参加の皆様には軽装でお出かけ下さい。ご理解、ご協力をお願いします。

問い合わせ先

【大会期間中（9/8～9/10）の問い合わせ】

日本地質学会第131年学術大会山形大会事務局
 （株式会社ソウブン・ドットコム 高橋・奥田）
 電話 大会サイトをご確認下さい

【上記以外の問い合わせ先】（平日9:30～18:00）

○日本地質学会行事委員会／地学教育委員会／学会事務局
 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F
 TEL：03-5823-1150 FAX：03-5823-1156
 e-mail：main@geosociety.jp

○日本地質学会第131年学術大会山形大会事務局（担当：高橋・丸山）
 （株式会社ソウブン・ドットコム 高橋・奥田）
 TEL：03-3893-0111
 E-mail：gsj2024yamagata@soubun.org

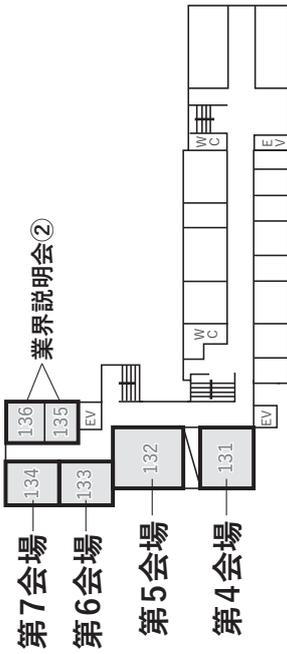
日本地質学会第131年学術大会(2024山形) 全体日程

会場		1日目 9月8日(日)			2日目 9月9日(月)			3日目 9月10日(火)			
		8:45-12:00	12:30-13:30 ランチョン	13:30-15:00	8:45-12:00	12:30-13:30 ランチョン	13:30-15:00	8:45-12:00	12:30-13:30 ランチョン	13:30-15:00	
1 1F 2 2F 3 2F 4 3F 5 3F 6 3F 7 3F	112 (210)	S1. 能登半島地震と・・・ 8:45-12:00	12:30-13:30 ランチョン	13:30-15:00	T18. 令和6年能登半島地震 8:45-12:00	15:00-17:30	18:00-19:30 夜間集会	T17. 沈み込み帯 15:00-17:15	17:30-19:00 夜間集会	年代用語	
	121 (132)	G9. ★ 地球化学 G3★ 岩鉱	構造定例 法地質	海洋	T5. ★ 原子力 T8. ★ 都市地質	T14. 沖縄トラフ 15:00-17:30	J-DESC 環境	T9. 九州弧の地体構造 9:00-12:00			
	122 (210)	T10. 岩鉱の変形と反応 8:45-12:00	法地質	応用地質	T1. 変成岩とテクトニクス 8:45-12:00	T7. テクトニクス 15:00-17:30	環境	T11. 鉱物資源研究 8:45-12:00			
	131 (132)	T13. 堆積地質学の最新研究 9:00-12:00	法地質	岩石	T3. 文化地質学 8:45-12:00	G1. ★ 応用地質 T13. ★ 堆積地質	南極	T1. 変成岩とテクトニクス 8:45-12:00			T2. 南極地質 15:00-17:00
	132 (210)	T13. 堆積地質学の最新研究 9:00-12:00	法地質	構造若手	T3. 文化地質学 8:45-12:00	G1. ★ 応用地質 T13. ★ 堆積地質	地質学史懇話会	T3. 文化地質学 8:45-12:00	文化地質		
	133 (154)		法地質	堆積	T13. 堆積地質学の最新研究 8:45-12:00	T12. 漂流軽石 15:00-17:30	炭酸塩	T16. 地球史 8:45-12:00			T16. 地球史 15:00-17:00
	134 (154)		法地質	火山	T6. マグマソールズ 8:45-12:00	T15. 地域地質 9:30-12:00	漂流軽石	G2. 海洋地質 8:45-10:45			G6. 第四紀 15:00-16:30
ポスター 基盤教育3号館 1-2F		G9. ジェネラル★(地球化学) 10:15-11:15 G3. ジェネラル★(岩石・鉱物・火山) 11:30-12:00 ※表彰式・記念講演会 15:30~/懇親会 18:00~	T5. 原子力と地球化学★ 9:15-10:30 T8. 都市地質学★ 10:45-11:45	G1. ジェネラル★(応用地質) 15:00-16:15 G8. ジェネラル★(地学教育) 16:30-17:00 T13. 堆積地質★ 15:00-16:15 T16. 地球史★ 16:30-17:00	G5. ジェネラル★(構造地質) 11:00-11:30 G6. ジェネラル★(第四紀) 11:30-12:00 T4. ジオパーク★ 11:00-12:00	博物館生涯教育委	T1. 変成岩とテクトニクス / T2. 南極地質 / T3. 文化地質 T9. 九州弧 / T11. 鉱物資源 / T16. 地球史 / T17. 沈み込み帯 G ジェネラル (古生物, 第四紀, 海洋地質)	ジオパークで働く			
その他		T10. 岩石・鉱物の変形 / T13. 堆積地質 / T15. 地域地質順序 G. ジェネラル (地域地質, 地学教育, 地球化学) J. ジュニアセッション	T5. 原子力 / T6. マグマソールズ / T7. テクトニクス / T8. 都市地質 T12. 漂流軽石 / T13. 堆積地質 / T14. 沖縄トラフ / T15. 地域地質順序 T18. 能登半島 (G. ジェネラル (応用地質, 岩石鉱物, 堆積))	表彰式・記念講演会 (22) 教室・基盤教育2号館 ※ 懇親会 (厚生会館) ※	企業展示・販売 (終日: 基盤教育1号館 124~128) 地質系業界説明会 (13:00-17:00: 会場 基盤教育1号館 123,135,136)	企業展示・販売 (終日: 基盤教育1号館 124~128)					

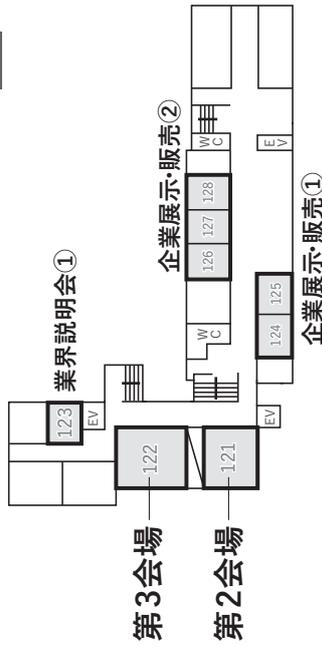
※会期前9/7(土) 学生・若手のための交流会 (16:30-19:00: 会場 山形テルサ)

講演会場 フロアマップ

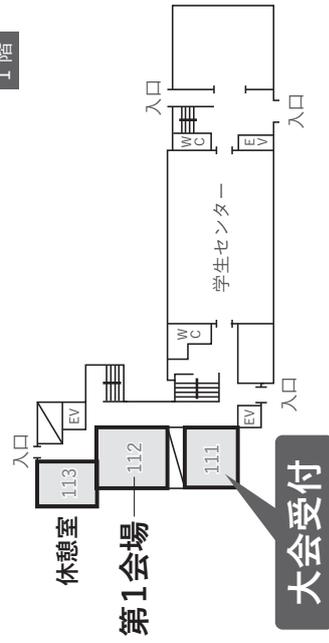
3階



2階

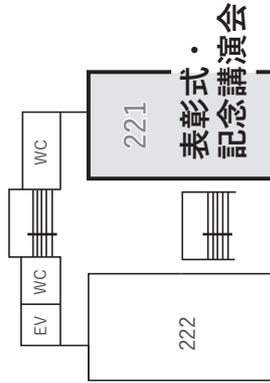


1階

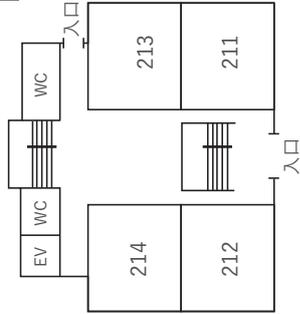


基盤教育1号館

2階



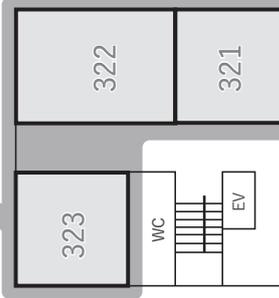
1階



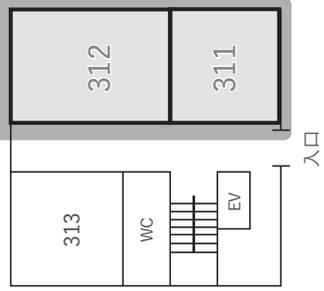
2号館

2階

ポスター会場



1階



3号館

発表者へ

発表者は本学会または共催学協会の会員に限ります（招待講演者を除く）。共同発表の場合は、この制限を代表発表者（プログラムに印のついた著者）に適用します。やむを得ない事情により、あらかじめ連記された共同発表者内で発表者の変更を希望する場合は、必ず事前に行事委員会（会期前は学会事務局、会期中は学会本部）に連絡して下さい。この場合も、シンポジウムおよびアウトリーチセッション以外の場合は「会員に限り1人2題」の制限を守るものとします。代理人の代読、会場内での突然の発表者変更、発表順序の変更は認められません。口頭発表者は発表時間を厳守して下さい。持ち時間15分のうち、発表は10～12分とし、質疑応答と講演者の交代時間を確保してください（30分の招待講演の場合、発表20～25分）。発表に際しては座長の指示に従い、会場運営がスムーズに行われるようご協力下さい。

なお、何らかの理由で自身の発表時間に間に合わない場合（遅刻）であっても、発表時間帯の変更は行いません。遅刻の場合、原則その発表はキャンセルと判断し、その時間帯は休憩時間といたします。

口頭発表

- ・1題15分（質疑応答と講演者の交代時間3～5分を含む）。ただしシンポジウムとセッション招待講演は除きます。
- ・口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコン（OS：Windows 11、PowerPoint2019がインストールされています）を用意します。発表はできるだけ会場備え付けのWindowsパソコンをご使用下さい（ただしMacご利用の方、動画を使用する方などはご自身のパソコンをご用意下さい）。セッション開始前に試写し正常に投影されることを必ず確認してください。
- ・確認作業の混雑とそれによるセッション開始の遅れを防ぐため、早めの確認作業をお願いします。なお、発表者が事前確認を怠ったために発表時にトラブルが生じても時間延長等の措置は取りません。

講演ファイルをUSBメディアでご持参の方

ファイルのインストールは、セッション開始前に、講演会場前方パソコン設置台にて行ってください。各会場のパソコンのデスクトップ上には日付（例0908）のフォルダが配置されており、その中にセッション番号のサブフォルダ（例T1）が配置されています。そのサブフォルダ内に講演ファイルを保存してください。ファイル名は「発表番号_演者氏名」にしてください（例：S1-O-1 山形太郎、T1-O-13 蔵王花子）。インストール後、ファイルが正常に投影されることを必ず確認してください。特に、会場のPCと異なるバージョンで作成されたパワーポイントのファイルは、レイアウトが崩れる場合がありますのでご注意ください。フォントは特殊なものではなく、PowerPointに設定されている標準的なものを使用して下さい。セッション終了後、世話人がファイルを削除します。

【ご自分のパソコンを使用して講演する方】

Macパソコンをお使いになる方、ソフトの互換性からレイアウトが崩れる可能性のある方、パワーポイント以外のプレゼンテーションソフトをご利用の方は、ご自身でパソコンをご用意ください。会場の液晶プロジェクターにパソコン接続ケーブル（ケーブル形状はHDMI）を用意します。会場に準備されている講演用パソコンからケーブルを外し、ご自身のパソコンに接続してください。ご利用のパソコンによってはコネクタが必要になる場合があります。必ずHDMIケーブルが接続可能となるアダプターをご持参ください（会場にはありません）。接続は発表者自身が責任を持って行ってください。セッション開始前に試写し、正常に投影されることを必ず確認してください。

なお、例年Macパソコンの接続トラブルが発生しています。講演時間確保を優先し、万一来ない備え、PDFファイルや

USBに保存したデータをぜひご用意ください。スムーズなセッション進行にご協力をお願いいたします。

ポスターセッション

- ・掲示する際のチェスピンを準備いたします。テープは利用できません。
- ・掲示可能時間は9:00～17:00です。撤収は必ず18:00までをお願いします。**最低掲示時間帯（10:00～16:00）は必ず掲示して下さい。**
- ・コアタイムは、3日間とも13:30～15:00です。この時間は必ずポスターに立ち会い、説明して下さい。その他の時間は各自の都合により随時説明を行って下さい。
- ・ポスターのサイズは、高さ210cm、幅90cm以内で作成して下さい。ただし、ポスター発表1件につき、幅150cm程度のスペースを確保する予定です。
- ・ポスターには、発表番号・発表題名・発表者名を必ず明記して下さい。
- ・コンピューターやビデオを使用される場合、機器の準備は各自で行ってください。電源は確保できませんので、予備バッテリーをご準備下さい。

ORのポスター発表について

ORアウトリーチセッションは一般公開のため、9月8日（日）地質情報展会場（山形テルサ；山形市双葉町）での掲示となります。

学生優秀発表賞について

運営規則第16条2項（12）により、優れた学生会員の発表に対して「日本地質学会学生優秀発表賞」を授与します。**口頭発表、ポスター発表ともに審査の対象となります。また、優秀発表賞はエントリー制です。**

受賞資格者（エントリーできる人）：エントリーの段階で学籍があり、学生会員として登録している人が受賞資格を有します。エントリーした本人が発表者であり、筆頭著者であることを必須とします。学生会員でも学籍がない人（例：2年バック・3年バックで入会し、現在は卒業または修了した人）はエントリーできません。

審査有資格者（審査する人）：行事委員・セッション世話人・理事・代議員が審査資格を有します。これらの方々には、「審査員登録フォーム」を用いて事前（プログラム発表後～学会1週間前の金曜日：8/30まで）に審査可能な発表をあらかじめ挙げていただきます。審査員数が少ない発表については、全会員の中から審査員を追加指名することがあります。

審査方法：審査は、「発表審査フォーム」(口頭・ポスター共通；発表当日～学会終了週の金曜日：9/13まで入力可)を用いて以下の手順で行います。なお、「審査員登録フォーム」で登録した以外の発表についても評価可能です。

(フォーム入力内容)

- ・審査員氏名・メールアドレスを入力
- ・役職(行事委員・セッション世話人・理事・代議員)をリストから選択
- ・審査する発表を選択
- ・自身が共著の発表、利益相反(親族・指導者・共同研究者)にあたる発表でないことを確認
- ・次の①から⑤の項目について、それぞれ5段階で審査(5が最高点、1が最低点、平均的な発表は3点)。①研究テ

マおよび手法 ②結果の妥当性・説得力 ③プレゼンテーション ④インパクトの大きさ・重要性・発展可能性 ⑤総合評価

行事委員会が審査結果を集計し、①～⑤の合計点をもとにその結果をもとに各賞選考委員長が受賞者を決定します。なお、受賞者数の目安は、エントリー数の20-30%とします。表彰は geo-Flash およびニュース誌で行い、賞状は郵送します。

(注) 申込時にエントリーをしたポスター発表で、最低掲示時間帯(10:00～16:00)に掲示していないポスターは、エントリーしていても審査対象から除外されます。くれぐれもご注意下さい。

ランチョン・夜間小集会の予定

ランチョン

昼休みの時間帯を利用した会合です。昼食の用意はありません。各自でご用意下さい。都合により急遽会場が変更になる場合がありますので、会期中の掲示にご注意下さい。

9月8日(日) 12:30-13:30

第1会場 構造地質部会定例会(世話人：森 宏・濱田洋平)
構造地質部会の予算・決算と活動報告、今後の活動等についての議論と、JpGU 提案予定のセッションについて、部会承認をおこなう。

第2会場 法地質学研究会(世話人：川村紀子)
海や陸での科学捜査の紹介と委員会の活動報告を予定しています。飛び入り参加OK、子連れ参加OKです。お気軽に昼食持参でお越しください。

第3会場 ジェンダーダイバーシティ委員会情報交流会(世話人：堀 利栄・大友幸子)
対面でのジェンダーダイバーシティ委員会委員および関係学会のダイバーシティ推進関係委員との交流・意見交換。本委員会に関心のある方も歓迎します。委員以外の参加歓迎。是非ご参加ください。

9月9日(月) 12:30-13:30

第1会場 海洋地質部会(世話人：小原泰彦・三澤文慶・松崎賢史)
海洋地質部会を構成する主要機関の代表から近況の活動報告を行うとともに、情報交換を行う。

第2会場 応用地質・災害地質学分野の将来(世話人：山崎新太郎)
能登半島地震など、地質災害が相次ぐ中、応用地質・地質災害・技術に関連する研究者を集め、役割を議論すると共に、情報交換を行う。

第3会場 岩石部会(世話人：宇野正起)
岩石部会に関連した事項について、審議・報告を行う。

第4会場 地構造地質部会若手発表会(世話人：濱田洋平・森 宏)
構造地質分野の若手支援と部会員の研究交流促進を目的とし、学生や若手研究者の研究発表会をおこなう。1～2名による15～30分程度の発表を予定している。

第5会場 堆積地質部会(世話人：足立奈津子)
堆積地質部会の活動報告および国内外の堆積学に関する情報交換

第6会場 火山部会(世話人：石毛康介)
火山部会に関連した事項について、審議・報告を行う。

第7会場 地域地質・層序部会合同ランチョン(世話人：佐藤大介)
両部会の人事の承認と、学術大会の状況等の情報交換および各種検討課題の議論

9月10日(火) 12:30-13:30

第4会場 文化地質学(世話人：大友幸子)
文化地質研究会会員・会場参加者の近況・感想等の交流、文化地質研究会の紹介と連絡。

第7会場 ジオパークで働く(世話人：天野一男・郡山鈴夏)
ジオパークの「専門員」は様々な専門性を活かし、各地の活動を支える役割を担っている。このランチョンは、ジオパークに関心がある人と専門員との双方向の「交流の場」とし、業務の実体や雇用情報について紹介する。

夜間小集会

都合により急遽会場が変更になる場合がありますので、会期中の掲示にご注意下さい。また会場の都合上、終了時間は厳守して下さい。

9月9日（月）18:00-19:30

第1会場 J-DESC 夜間小集会：JTRACK から IODP3 へ（世話人：池原 実・森下知晃・神谷奈々・濱田洋平）
IODP 最後の掘削航海である 100 日に及ぶ東北沖 JTRACK (Exp.405) が9月から始まり、2025年1月からは国際海洋科学掘削計画 (IODP3) がスタートする。科学掘削を支える国際的な枠組みの転換期の動きをレビューし、これからの掘削科学について情報交換する。

第2会場 環境地質部会（世話人：田村嘉之）
山形県内の環境地質に関する講演（予定）、部会活動報告及び役員について

第3会場 南極地質研究委員会（世話人：外田智千）
議題：第 65 次南極地域観測隊（2023/24）地質調査報告 / 南極地質将来計画について / その他

第4会場 地質学史懇話会（世話人：会田信行）
広く地球科学史に関する資料を閲覧し情報交換をおこなう。

第5会場 炭酸塩堆積学に関する懇談会（世話人：松田博貴・白石史人・足立奈津子）
炭酸塩堆積学に関する最近の話題・トピックスについて討論するとともに、最新研究動向・情報について意見交換を行う。

第6会場 海域火山および漂流軽石に関する懇談会（世話人：石毛康介）
海域火山および漂流軽石に関する最近の話題・トピックスについて討論するとともに、研究展望や展開について意見交換を行う集会です。希望者は3～5分程度の自身の研究等の紹介をすることができます。聴講のみの参加も歓迎します。

第7会場 博物館・生涯教育委員会（世話人：先山 徹・田口公則・笠間友博）
生涯教育委員会を中心に、博物館や生涯教育に関わるすべての会員を含めた拡大委員会として、広く情報共有及び生涯教育の在り方を議論し、今後の運営に取り入れる機会とします。

9月10日（火）17:30-19:00

第1会場 地質年代用語を考える（世話人：鈴木寿志）
地球の歴史を語るのに必要不可欠な地質年代用語。この用語の日本語表現に種々の問題が見られます。本夜間小集会では課題を話し合い、日本語として適切な地質年代表現を考えます。研究者・教育関係者・博物館学芸員・文筆家など、老若男女を問わずご参加下さい。

関連行事

地質情報展 2024 やまがた 山と盆地をつくる大地のヒミツ

日程：2024年9月6日（金）～8日（日）

（注）学術大会の会期とは異なります

6日（金）9:30～17:00

7日（土）9:30～17:00

8日（日）9:30～16:00

（ただし6、7日の入場は16:30まで、8日の入場は15:30まで）

会場：山形テルサ3階アプローチ（山形市双葉町1-2-3）[入場無料]

主催：産業技術総合研究所 地質調査総合センター・東北センター・福島再生可能エネルギー研究所、一般社団法人日本地質学会

共催：鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会

後援：山形県立博物館、山形市教育委員会、日本ジオパークネットワーク、東北地質調査業協会、NHK山形放送局、山形新聞・山形放送、エフエム山形

協力：リトルリバーリサーチ&デザインジャパン

概要：山形を象徴する山と盆地。それらはどんな地質で構成されているのか、またそれらの形成に火山や地震の活動がどのように関係するのか、さらにそこからどんな資源が生み出されるのか、わかりやすく展示・解説する特別展です。体験学習コーナーでの実験・実演や専門家による講演会も予定されています。山形の地質について研究者とともに楽しみながら学べる3日間です。

展示内容：山形の地史・地質、火山、地震・活断層等、地下水・地中熱の利用、鉱物資源・温泉・油田と微生物、地球化学図の各種解説パネル展示、各種体験コーナー（化石レプリカ作り、石割り体験、地盤の揺れ実験、地盤の液状化実験、鳴り砂、水路堆積実験、火山噴火実験、ロックバランシング、塗り絵）※一部、時間帯により閉鎖するコーナーもあります。

講演会：7日（土）14:00～16:00 1階大会議室 [事前申込不要]

「山形の火山・地震・地下水」講師：及川輝樹、吾妻 崇、内田洋平（産総研地質調査総合センター）

地質学会コーナー：第15回惑星地球フォトコンテスト入選作品等の展示

問い合わせ先：産業技術総合研究所 地質調査総合センター

「地質情報展 2024 やまがた」事務局

TEL：029-861-3540

e-mail：M-johoten2024-ml@aist.go.jp

※展示の内容は予定です。予告なく変更あるいは取りやめになる場合がございます。

市民講演会「樹氷と出羽三山を知る」

日時：2024年9月8日（日）13:00～15:00

会場：山形テルサ 1F 大会議室

入場無料、事前申込不要。どなたでもご参加いただけます

司会 大友幸子（山形大学）

講演

・「樹氷（アイスモンスター）」から見る地球環境の変化（山

形大学名誉教授：柳澤文孝）

・出羽三山信仰の背景としての自然景観（山形大学名誉教授、現深田地質研究所：八木浩司）

問い合わせ先：

一般社団法人日本地質学会

メール：main@geosociety.jp

第22回日本地質学会 ジュニアセッション

コアタイム日時：2024年9月8日（日）13:30～15:00

会場：山形大会ポスター会場（基盤教育2号館1-2階）

日本地質学会地学教育委員会では、地学普及行事の一環として、地学教育の普及と振興を図ることを目的として、学校における地学研究を紹介する発表会をおこなっています。山形大会でも、小・中・高等学校の地学クラブの活動、および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を予定しています。昨年に引きつづき、学術大会セッションと同様の対面でのポスター発表となります。

※参加校（11校21講演を予定、順不同）

- ・兵庫県立姫路東高等学校 科学部地学系研究部マグマ班
- ・愛媛大学附属高等学校
- ・宮城県仙台第三高等学校
- ・熊本県立宇土高等学校
- ・山形県立山形南高等学校
- ・市川学園市川高等学校
- ・鹿児島県立国分高等学校サイエンス部地学班
- ・新潟大学附属長岡中学校 / 新潟大学理学部科学人材育成事業
- ・中央大学附属高等学校
- ・名古屋高等学校・名古屋中学校
- ・國學院大學栃木高等学校

山形城と石材見学会

山形城の歴史を学びながら、霞城公園を巡り石垣等に使われている石材を見学します。

開催日時：2024年9月7日（土）13:00-15:30（集合：東大手門に13時）

開催地：霞城公園

対象：一般市民（児童・生徒・大人）、日本地質学会会員、2024山形大会参加者等

募集人数：30名

案内者：大友幸子（山形大学）、五十嵐貴久・齋藤 仁（山形市文化スポーツ部文化創造都市課文化財係）

参加費無料・要事前申込

申込方法：WEB専用申込フォームよりお申し込みください。（定員になり次第締切ます）

お問い合わせ：大友幸子

メール yukiko@e.yamagata-u.ac.jp

電話 023-628-4424 または 080-6055-3470

学生のための地質系業界説明会

「2024年度 学生のための地質系業界説明会」～その業界の仕事を知るためのサポートサービス～

今年も多く企業・団体様に参加されます。学部生や院生などの学生の皆様に、将来の就職先の選択肢の一つとなる地質系業界の実態や各社の業務内容などを知っていただくために開催する当学会の恒例行事です。専門就職をお考えの学生の皆様をはじめ、ご関心をお持ちの教員の皆様のご来場をお待ちしております。

1. 対面説明会

- ①開催日時：2024年9月9日（月）12:00～17:00（予定）
- ②開催場所：山形大学小白川キャンパス（基盤教育1：123・135・136教室で開催予定）
- ③参加費：無料（会員・非会員問わず）
- ④参加企業・団体数：35社
- ⑤参加方法：事前予約を優先しますが、当日来場の参加も受け付けます。
- ⑥訪問時間：1ブース当たり30分程度、最大10社程度の訪問が可能です。

2. オンライン説明会

- ①開催日時：2024年9月13日（金）13:00～17:00（予定）
- ②開催方法：Zoomを用いたオンライン方式
- ③参加費：無料（会員・非会員問わず）
- ④参加企業・団体数：36社
- ⑤参加方法：事前予約を優先しますが、当日来場の参加も受け付けます。
- ⑥訪問時間：ブレイクアウトルームを利用した30分ごとの入替制。学生1人当たり、最大8社程度のオンライン訪問が可能です。

【申込方法】下記のQRコードもしくは大会サイト <https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/geosocjp131> より参加申込してください。

9/9 対面説明会

【申込期限：8/29（木）】



9/13 オンライン説明会

【申込期限：9/5（木）】



【注意事項】

・学部生や院生などの学生が本説明会のみに参加される場合は、学術大会への参加登録は不要、かつ、日本地質学会の会員／非会員を問わず参加費は無料です。大会受付で本行事への参加をお申し出ください。なお、**学術大会の研究発表会およびその他の企画（一部の無料企画を除く）に参加される場合は、学術大会の参加登録を行ってください（参加費も必要となります）。**

【後援】

今年度も、たくさんの大学の地質系学科にご後援をいただき、大学－企業－学会が連携して高等教育を終えた専門技術

者が社会で活躍・貢献されるためのサポートを行います。ご後援の実態を貴学科のキャリア教育の実績として活用していただければ幸いです。**後援に賛同くださる学科は下記の学会事務局にご連絡ください。なお、後援に係る費用はありません。**

【問い合わせ先】

一般社団法人日本地質学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル 6階

e-mail：main@geosociety.jp

電話：03-5823-1150

【2024 山形大会参加企業一覧】

（※あいうえお順、*印は賛助会員）

申込企業・団体名	対面	オンライン	資料のみ
1 株式会社アースデザインコンサルタンツ	●		
2 株式会社アーステック東洋	●		
3 株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング	●	●	
4 株式会社エイト日本技術開発*	●		
5 応用地質株式会社*	●	●	
6 株式会社奥村組	●		
7 株式会社開発工営社	●		
8 株式会社開発調査研究所	●	●	
9 川崎地質株式会社*	●	●	
10 共立工営株式会社*			●
11 クミネ工業株式会社		●	
12 原子力発電環境整備機構		●	
13 株式会社建設技術研究所*	●	●	
14 鉱研工業株式会社	●	●	
15 国土防災技術株式会社	●		
16 株式会社サクセン		●	
17 山陰開発コンサルタント株式会社*		●	
18 産業技術総合研究所		●	
19 三洋テクノマリン株式会社*	●		
20 三和ボーリング株式会社	●	●	
21 シンワ技研コンサルタント株式会社		●	
22 住友大阪セメント株式会社		●	
23 住鉱資源開発株式会社		●	
24 石油資源開発株式会社*	●		
25 株式会社大建コンサルタント		●	
26 大日本ダイヤコンサルタント株式会社*	●	●	
27 太平洋セメント株式会社*	●	●	
28 株式会社高田地研	●		
29 株式会社田中地質コンサルタント	●	●	
30 株式会社地圏総合コンサルタント*	●	●	
31 地熱エンジニアリング株式会社	●		
32 中央開発株式会社*	●	●	
33 株式会社中部森林技術コンサルタンツ*	●		
34 株式会社ドーコン		●	
35 飛鳥建設株式会社		●	
36 ドリコ株式会社	●	●	
37 株式会社日さく*	●	●	
38 日鉄鉱業株式会社*	●	●	
39 日特建設株式会社	●	●	
40 日本海洋事業株式会社*	●	●	
41 日本工営都市空間株式会社		●	
42 株式会社ニュージェック*	●	●	
43 日本工営株式会社*	●	●	
44 ハイテック株式会社		●	
45 株式会社バスコ*	●	●	
46 株式会社阪神コンサルタンツ	●		
47 株式会社美蓉コンサルタント		●	
48 明治コンサルタント株式会社*	●	●	
49 八千代エンジニアリング株式会社*	●	●	
50 山北調査設計株式会社*	●		

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月8日（日）午前

会場	第1会場（基盤教育1号館112）	第2会場（基盤教育1号館121）	口頭第3会場（基盤教育1号館122）
	S1. 能登半島地震とそれによる自然災害の地球科学的理解を目指して 座長：坂口有人, 山口飛鳥	G9. ジェネラルサブセッション：地球化学 座長：林圭一, 戸丸仁	T10. 岩石・鉱物の変形と反応 座長：岡崎啓史, 宇野正起, 向吉秀樹
8:45	08:45 趣旨説明 09:00 S-O-1 (招待講演) 能登半島周辺海域の地質構造と活断層. *岡村行信, 井上卓彦, 佐藤智之, 大上隆史, 有元純 09:25 S-O-2 (招待講演) 2020-2024年の能登半島地震活動に伴う地殻変動. *西村卓也, 平松良浩, 太田雄策 09:50 S-O-3 (招待講演) 2024年能登半島地震のオフフォルト余震活動と周辺活断層への影響. *遠田晋次 10:15 休憩 10:30 S-O-4 (招待講演) 日本海東部の活構造・地殻構造から検討した能登半島周辺の海底活断層の構造. *石山達也, 野徹雄, 佐藤比呂志 10:55 S-O-5 (招待講演) 沿岸の隆起痕跡に基づく能登半島地震の履歴. *宍倉正展 11:20 S-O-6 (招待講演) 2024年能登半島地震による新潟市での液状化被害. *卜部厚志, 片岡香子, 西井稜子, 河島克久, 松元高峰, 渡部直喜, 新屋啓文, 渡部俊, 高清水康博, 藤林紀枝, 宮縁育夫 11:45 総合討論ほか	10:15 G9-O-1 鳥取県沖の海水に溶存するメタンの地球化学的特徴：ガストムニーから放出されたメタンの起源と動態. *戸丸仁, サクテンユウ, 池本苑華, 近田みのり 10:30 G9-O-2 固形試料の非破壊多元素定量分析のための1mmφ蛍光X線分析法の開発. *早坂康隆 10:45 G9-O-3 オーストラリア北西大陸棚のブラウズ堆積盆地で産する天然ガスの起源と組成. *稲場土誌典, 森田宜史 11:00 G9-O-4 北海道内の温泉に付随する可燃性天然ガスの化学組成および同位体比に基づく起源推定. *林圭一, 大森一人, 鈴木隆広, 坂上寛敏, 實崎颯太	09:00 T10-O-1 (エントリー) 大陸プレート境界断層での歪の解放に伴う地質構造と組織の観察. *吉朝開ECS, 安東淳一, DAS Kaushik., Sarkar Dyuti Prakash 09:15 T10-O-2 2000年鳥取県西部地震余震域の断層岩に記録された地震性すべりと方解石シーリングの繰り返し. *大橋聖和 09:30 T10-O-3 (エントリー) 緑泥石-アクチノ閃石片岩と青色片岩の変形機構とレオロジー. *山崎悠翔ECS, 氏家恒太郎, 重松紀生, イヨトーマス 09:45 T10-O-4 マイカフィッシュを利用した歪量絶対値推定の試み：静岡県水窪の珪質マイロナイトの例. *増田俊明, 鈴木知陽, 楠賢司, 大森康智 10:00 T10-O-5 高温・高封圧下におけるメノウの変形実験：石英の定常再結晶組織と差応力の関係. *中小路一真ECS, 清水以知子 10:15 休憩 10:30 T10-O-6 人工石英脈作成実験-組織形成と流体圧振動-. *岡本敦, ヴィニス エドワード 10:45 T10-O-7 (招待講演) CO2-水-玄武岩反応が浸透率に及ぼす影響：流通試験を用いた評価. *西山直毅, 徂徠正夫, 増岡健太郎 11:15 T10-O-8 (エントリー) MgO水和膨張反応における反応-変形-流体流動のフィードバック：水熱反応実験とリアルタイム計測による検討. *坂下福馬ECS, 岡本敦, 吉田一貴, ダンタルオトゴンバヤル, 宇野正起 11:30 T10-O-9 (招待講演) 地質記録とモデリングから読み解くスラブマントル境界における物質移動. *大柳良介ECS, 岡本敦
		G3. ジェネラルサブセッション：岩石・鉱物・火山 座長：伊藤久敏	
		11:30 G3-O-1 流紋岩溶岩の断続的な内部流動に伴う外皮の変形：古地磁気学的証拠. *宇野康司, 古川邦之, 金丸龍夫, 中井耕太郎, 神尾匠真 11:45 G3-O-2 朝日山地中心部における花崗岩類のジルコンU-Pb年代と火成作用の時空間分布. *小笠原正継, 福山蘭子, 堀江憲路, 竹原真美, 根岸義光, 大坪友英, 藤本幸雄, 大平芳久, 庄司勝信, 水落幸広, 田阪登史	

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 131 年学術大会（2024 山形大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月8日（日）午前

会場	第 4 会場（基盤教育 1 号館 131）	第 5 会場（基盤教育 1 号館 132）	第 6 会場（基盤教育 1 号館 133）
		T13. 堆積地質学の最新研究	
		座長：山口悠哉, 松本弾, 沢田健	
9 : 00		<p>09:00 T13-O-1 2011年東北地方太平洋沖地震津波による浅海底への影響と10年後の変化. *横山由香, 大宮颯世, 赤木遥香, 渡邊聡士, 藤巻三樹雄, 佐藤悠介, 坂本泉</p> <p>09:15 T13-O-2 (エントリー) 福島県南相馬市蛭沢地域に分布する沖積層の古環境変遷と15世紀のイベント堆積物. *河崎陸, 清水水康博, ト部厚志</p> <p>09:30 T13-O-3 富山県上市町の下部中新統稲村水中地すべり堆積物の内部変形構造から推定される滑動メカニズム. *荒戸裕之, 山本由弦, 保柳康一, 金子一夫, 國香正稔, 山田泰広, 白石和也, 千代延俊, 藤田将人, 吉本剛瑠, 関山優希</p> <p>09:45 T13-O-4 古土壌が記録したチベット高原南部ムスタン地方における中新世～更新世の気候区の変遷. *葉田野希, 吉田孝紀, Gyawali Babu Ram, 杉山春来, 島田誠明</p> <p>10:00 T13-O-5 (エントリー) 諏訪湖堆積物中の植物由来有機分子を用いた内陸山間地域における最終氷期以降の古植生・古気候変動の復元. *福地亮介, 沢田健, 葉田野希</p> <p>10:15 休憩</p> <p>10:30 T13-O-6 化石燃料資源の起源と, その探査・開発に関わる地質学的知見. *前田純二</p> <p>10:45 T13-O-7 FAに富むケロジェンの堆積過程と石油地質学的意義. *安藤卓人, 八代喬介, Sulhuzair Burhanuddin Muhammad, 千代延俊</p> <p>11:00 T13-O-8 北海道むかわ地域の中新統アベツ層・二風谷層のバイオマーカー分析による古環境変動の復元. 朝日啓泰, *沢田健</p> <p>11:15 T13-O-9 秋田県大館市比内に分布する中新統珪質泥岩の石灰質ナンノ化石層序と石油根源岩能力. 松浦三徳郎, 大柳快晴, 安藤卓人, *千代延俊</p> <p>11:30 T13-O-10 (招待講演) エネルギー資源開発部門をもつ化学会社の堆積盆探鉱とCCSの取り組み. *持永竜郎</p>	

（14）

※講演番号は, シンポジウム (S), トピックセッション (T), ジェネラルセッション (G) のそれぞれに, ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合, 講演要旨を正しいものとします.
 ※ * 太字氏名: 代表発表者, (エントリー): 学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月9日（月）午前

会場	第1会場（基盤教育1号館112）	第2会場（基盤教育1号館121）	第3会場（基盤教育1号館122）
	T18. 令和6年能登半島地震（M7.6） 座長：石山達也, 山崎新太郎	T5. 原子力と地質科学 座長：竹内真司, 梅田浩司	T1. 変成岩とテクトニクス 座長：北野一平, 大柳良介
8:45	08:45 T18-O-1（招待講演） 令和6年能登半島地震：群発地震からM7.6の地震まで。*平松良浩 09:15 T18-O-2 令和6年能登半島地震により形成された海底地震断層露頭。*山口飛鳥, 福地里菜, 小野誠太郎, 大塚宏徳, 吉岡純平, 田村千織, 亀尾桂, 沖野郷子, 朴進午 09:30 T18-O-3 令和6年能登半島地震による地殻変動の不均質-地形地質学的調査と測地学的データの比較。*辻智大, 山田佑哉 09:45 T18-O-4 令和6年能登半島地震（Mj7.6）に伴う河川を遡上した津波の痕跡：能登町九里川尻川の例。*岡田里奈, 梅田浩司, 茂木勁吾 10:00 T18-O-5 能登半島飯田湾の浅海域で採取された津波堆積物。*佐川拓也, ジェンキンズ ロバート, 木谷洋一郎, 小木曾正造, 松原孝祐 10:15 T18-O-6 令和6年能登半島地震の津波堆積物の地球化学。*土屋範芳, Mindaleva Diana, 平野伸夫, 布原啓史 10:30 休憩 10:45 T18-O-7（招待講演） 2024年能登半島地震における斜面崩壊と流れ盤・受け盤との関係。*川畑大作, 阿部朋弥, 巖谷敏光, 宮地良典 11:00 T18-O-8 2024年能登半島地震で発生した砂丘斜面でのランドスライド:内灘砂丘でのケース。*永田秀尚, 加藤靖郎, 大丸裕武, 居川信之, 高見幸恵 11:15 T18-O-9 令和6年能登半島地震における石川県内灘地区のUAV LiDAR計測調査。*中瀬千通, 細矢卓志, 遠藤徳考, ジェンキンズ ロバート 11:30 T18-O-10 令和6年能登半島地震により発生した新潟市西区新通の噴砂の堆積学的特徴。*高清水康博, 河崎陸, 渡部俊, 卜部厚志, 西井稜子 11:45 T18-O-11 令和6年能登半島地震による新潟市西区における液状化・流動化被害の被害と対策。*川辺孝幸, 風岡修	09:15 T5-O-1（招待講演） ナラティブ・アプローチとしての新たなナチュラルアナログの利用法。*佐藤努 09:45 T5-O-2 寿都町, 神恵内村文献調査報告書（案）の地層処分技術WGにおける審議への対応。*兵藤英明, 浜本洋, 加藤誠司, 松本孟紘, 松岡洋, 宮崎遼, 尾上博則, 三枝博光, 高林佑灯, 高畑祐美, 田丸豊浩 10:00 T5-O-3 コンクリーション化剤を用いた高透水層のシーリング実証試験。*竹内真司, 石橋正祐紀, 吉田英一, 村瀬雅之, 刈茅孝一, 山本剛志, 浅原良浩, 齊藤朱音, 前島俊雄, 松本晃治 10:15 T5-O-4 段丘面の表層地すべりの可能性と対策：福島第1原子力発電所の事例。*石渡明	08:45 T1-O-1 長崎変成岩野母ユニットにおける泥質片岩の曹長岩化過程：pulverizationとreaction-enhanced permeability。*森康, 黒木（佐藤）直子, 重野未来, 西山忠男 09:00 T1-O-2（エントリー） 長石の熱水変質に伴う空隙の幾何学的特徴：パーシステントホモロジーによる解析。*藤原秀平, 岡本敦, 吉田一貴, 石井友弘, 木村正雄, 城戸大貴 09:15 T1-O-3（エントリー） 高圧変成蛇紋岩中の変成かんらん石を切る極細粒含水かんらん岩マイクロベインの成因とその地質学的意義：青海メランジュの例。*志関弘平ECS, 辻森樹 09:30 T1-O-4 長崎変成岩野母ユニット中の蛇紋岩メランジュの構成岩種と形成場。*西山忠男, 外山茂樹, 森康, 重野未来 09:45 T1-O-5 高圧変成岩及び蛇紋岩と平衡な水流体の化学的性質に関する熱力学的考察。*辻森樹, 福島諒 10:00 T1-O-6（エントリー） マンタルウェッジにおけるCO ₂ 交代作用の重要性：反応の不均質性がもたらすスロー地震への実験的推察。*沖野峻也ECS, 岡本敦, 喜多侖子, 澤燦道, 武藤潤 10:15 休憩 10:30 T1-O-7（招待講演） レーザーアブレーションICP質量分析法に基づくマルチ変成年代学研究の展開。*仁木創太ECS, 吉田健太, 沢田輝, 大柳良介, 平田岳史 11:00 T1-O-8（エントリー） アルマンディンざくろ石の局所U-Pb年代で読み解く海洋地殻の冷却時間：中米グアテマラ産ローソン石エクロジヤイトの例。*福島諒ECS, 辻森樹, ベラノアグイレ アラツツ, アルバートリチャード, ゲルデス アクセル, マーシャル ホルスト 11:15 T1-O-9（エントリー） 鳥取県若桜のザクロ石角閃岩に伴われるトロニウム岩の年代と成因。*高橋瑞季, 遠藤俊祐, 亀井淳志 11:30 T1-O-10（エントリー） 泥質片岩のレオロジー特性と、南海トラフ地震発生帯との関連。*八木寿々歌ECS 11:45 T1-O-11（エントリー） 沈み込み帯プレート境界にかかる最大剪断応力の推定と沈み込み帯熱モデルの再検討：後期白亜紀、三波川沈み込み帯の例。*小山雪乃丞ECS, ウォリス サイモン, 永治方敬, 青矢陸月
		T8. 都市地質学：自然と社会の融合領域 座長：田村嘉之	
		10:45 T8-O-1 関東平野中央部GS2012-OMY孔コアの中・後期更新世テフラ層序。*中里裕臣, 米岡佳弥, 坂田健太郎, 中澤努, 吉見雅行 11:00 T8-O-2 都市域の3次元地質地盤図：埼玉県南東部における更新統下総層群の層序と地質構造。*米岡佳弥ECS, 中澤努, 野々垣進, 坂田健太郎, 中里裕臣 11:15 T8-O-3 ボーリングデータの地層対比処理の自動化に向けた機械学習アルゴリズムの検討。*野々垣進, 根本達也 11:30 T8-O-4 木津川周辺にみられる堆積環境と河川の変遷について。*北田奈緒子, 水谷光太郎, 井上直人, 伊藤浩子, 三村衛, 肥後陽介	

*講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

*講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

* *太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月9日（月）午前

会場	第4会場（基盤教育1号館131）	第5会場（基盤教育1号館132）	第6会場（基盤教育1号館133）
	T3. 文化地質学 座長：森野善広, 坂本昌弥, 先山 徹	T13. 堆積地質学の最新研究 座長：足立奈津子, 白石史人, 松本 弾	T6. マグマソース・マグマ供給系から火山体形成まで 座長：齊藤 哲, 江島圭祐, 草野有紀
8:45	08:45 T3-O-1 2030年までの自動車エンジン開発におけるSTEM・環境教育を小中学校の教育内容として考察. * 竹林知大 , 竹林克己, 青木克顕, 竹林大介, 熊野善介, 09:00 T3-O-2 札幌軟石の性質を学ぶ学習プログラム. * 岡本研 09:15 T3-O-3 文化財を教材とした南九州の地学教育～特に熊本地震に注目して～. * 坂本昌弥 09:30 T3-O-4 長野盆地千曲川流域の考古学遺跡から見出された4大洪水イベント. * 保柳康一 09:45 T3-O-5 広島県内の自然災害伝承碑の石材について－繰り返しの災害を示す水害碑に着目して－. * 猪股雅美 10:00 T3-O-6 胆振地方東部における17世紀巨大津波の来襲年代の推定－家屋の敷に注目して－. * シン ウォンジ 10:15 休憩 10:30 T3-O-7 山形県置賜地方の二大石材－「高島石」と「成島石」. * 高橋直樹 10:45 T3-O-8 国産建築石材のカタログ作成に向けた黄色系石灰岩石材の組織観察と非破壊化学分析. * 乾陸子 , 中澤努, 西本昌司, 平賀あまな 11:00 T3-O-9 3D技術を活用した足柄層群塩沢層の小規模石切場に残る採石痕の観察. * 田口公則 11:15 T3-O-10 (エントリー) 東谷採掘場跡の大谷石と、これを用いた近代建築の構成材について. * 橋本優子 , 相田吉昭, 石川智治 11:30 T3-O-11 鹿児島県指宿市山川産の火砕岩起源の石材「山川石」－薩摩藩島津宗家歴代藩主の墓石は沸石岩－. * 石橋隆 , 朝倉顯爾, 大木公彦, 松崎大嗣, 坂本昌弥, 西本昌司 11:45 T3-O-12 但馬国城崎温泉産「コハメシイシ」の文化地質学. * 川村教一	08:45 T13-O-11 浅海－陸棚斜面の堆積プロセスの遷移：中新統秩父盆地層群秩父町層. * 西田尚央 09:00 T13-O-12 白亜紀後期～中新世の道央～日高沖～三陸沖前弧～前縁堆積盆の変遷と堆積システム変化. * 高野修 09:15 T13-O-3 地震性混濁流の発生におけるバックグラウンド環境変動の影響：御前崎沖と中部日本海溝の例から. * 池原研 , 石澤克史, 金松敏也, 長橋良隆, 里口保文, 板本拓也 09:30 T13-O-14 海域における古地震研究のためのタービダイト厚層泥の認定. * 芦寿一郎 , 村山雅史, 中西諒 09:45 T13-O-15 室戸岬沖から採取された海洋コア中のタービダイト運搬プロセスの解析. * 村山雅史 , 阿久津紗梨, 芦寿一郎, 原田尚美, 穴井千里, 山本裕二 10:00 休憩 10:15 T13-O-16 (エントリー) 北海道石狩市厚田層の二重層球状コンクリーションの形成メカニズム. * プラートアルヴィン , 吉田英一, 村宮悠介, 狩野彰宏, 城戸太朗, 勝田長貴 10:30 T13-O-17 南オーストラリア州の土壌中で沈殿するドロマイトの産状. * 佐久間杏樹 , 狩野彰宏, 高島千鶴, 村田彬, 山口飛鳥, 奥村大河, 長島佳菜, 久保田好美 10:45 T13-O-18 三重県産石筍の安定酸素・炭酸凝集同位体組成に記録された83ka以降の気温・降水共変動史復元. * 加藤大和 , 森大器, 仙田量子, 狩野彰宏 11:00 T13-O-19 三重県霧穴の完新世石筍に記録された気温と降水量情報. 村田彬, * 狩野彰宏 , 加藤大和, 白石史人, 柏木健司 11:15 T13-O-20 沖縄県南大東島産鍾乳石に記録された地表環境とその変遷. * 松田博貴 , 佐藤翔弥 11:30 T13-O-21 (招待講演) 炭酸塩試料による過去の大気海洋変動の解析：季節スケールから氷期・間氷期スケールまで. * 浅海竜司	08:45 T6-O-1 ジルコンの年代と微量元素から推測される鬼界カルデラのマグマの変遷. * 伊藤久敏 09:00 T6-O-2 北海道北部, 利尻火山の完新世噴火履歴. * 中川光弘 , 谷内元, 石塚吉浩 09:15 T6-O-3 岩木火山の完新世火山活動史. * 谷内元 , 古川竜太, 及川輝樹, 伴雅雄 09:30 T6-O-4 Characterization of optimal lava flow textures for 40Ar/39Ar and K-Ar dating at Pleistocene volcanoes. * Chris Conway , Seiko Yamasaki, Osamu Ishizuka, Yumiko Harigane 09:45 T6-O-5 (招待講演) Magma evolution prior to eruption: evidences from petrologic and geochemical research connecting magma source and volcanic sink under active worldwide volcanoes. * Antonio M Álvarez Valero 10:15 休憩 10:30 T6-O-6 那須火山群, 二岐山火山における初生マグマの成因：メランジュダイアピルの上昇と溶融. * 渡部将太 , 長谷川健 10:45 T6-O-7 IODP第392次航海で採取された南西インド洋アグラス海台の火成岩類：岩石学的特徴とマグマ源の検討. * 森光貴 , 市山祐司, 石塚治, Jörg Geldmacher, Peter Davidson, Jia Liu 11:00 T6-O-8 野外観察から制約される花崗岩体の成長過程と冷却履歴：金峰山岩体の例. * 山岡健 , 村上大知, 森宏, 諸星暁之 11:15 T6-O-9 白亜紀北部九州パソリスを構成する独立小規模深成岩体の成長過程とその意義. * 江島圭祐 , 大和田正明 11:30 T6-O-10 ジルコン中メルト包有物を用いた花崗岩質マグマのメルト含水量・圧力解析. * 齊藤哲 , 谷脇由華, 川島泰地 11:45 T6-O-11 西南日本岩城島に産する後期白亜紀閃長岩及び花崗岩類の起源：全岩組成及びジルコン年代を用いた評価. * 藤崎渉 , 佐藤幹太, 澤木佑介, 浅沼尚

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 131 年学術大会 (2024 山形大会) 講演プログラム (口頭)

■ 9 月 9 日 (月) 午前

会場	第 7 会場 (基盤教育 1 号館 134)	
	T15. 地域地質・層序学：現在と展望	
	座長：鈴木敬介, 辻野匠, 細井淳	
9 : 30	09:30	T15-O-1 南部北上帯西縁の前期古生代変成岩類からの碎屑性ジルコン U-Pb 年代とその古地理学的意義. *鈴木敬介, 栗原敏之, 原英俊, 石川賢一, 大槻丈瑛, 植田勇人
	09:45	T15-O-2 三重県志摩半島の黒瀬川帯における後期ペルム紀付加体の認定. *内野隆之
	10:00	T15-O-3 関東山地～九州東部のペルム紀石英閃緑岩のジルコン U-Pb 年代：阿武隈山地東縁割山花崗岩との対比. 新井孝彰, *高木秀雄, 浅原良浩
	10:15	T15-O-4 愛媛県道後姫塚の白亜系和泉層群黒滝層における地質学的・古生物学的検討. *堀利栄, 岡本隆, 楠橋直, 鏑本武久, 下岡和也, 世羅拓真, 豊大翔, 炭元裕, 塚腰実, 佐藤たまき, 道後姫塚学術調査プロジェクトチーム
	10:30	T15-O-5 地質関連事象の統計力学的予測と地域地質. *宮崎一博, 内藤一樹
	10:45	休憩
	11:00	T15-O-6 碎屑性ジルコンの U-Pb 年代から下部～中部中新統田辺層群の堆積年代を制約できるか. *安邊啓明, 星博幸, 羽地俊樹, 佐藤活志, 仁木創太, 平田岳史, 岩野英樹, 檀原徹
	11:15	T15-O-7 中新統三崎層群の小断層からみる四国南西端の中新世以降の地質構造発達史. *羽地俊樹, 安邊啓明
	11:30	T15-O-8 (エントリー) 青森県津軽西岸域, 中部中新統十二湖凝灰岩の産状と岩石学的特徴：水中珪長質溶岩ドーム形成史の解明. *金指山維, 折橋裕二, 仁木創太, 岩野英樹, 佐々木実, 浅原良浩, 平田岳史
	11:45	T15-O-9 (エントリー) 神奈川県南足柄市夕日の滝断層周辺における層序と地質構造. *服部海, 檜崎眞一郎, 林広樹, 小田原啓

(17)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※ * 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 131 年学術大会（2024 山形大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 9 日（月）午後

会場	第 1 会場（基盤教育 1 号館 112）	第 2 会場（基盤教育 1 号館 121）	第 3 会場（基盤教育 1 号館 122）
	T14. 沖縄トラフと東シナ海陸棚研究の最前線	T8. 都市地質学：自然と社会の融合領域	T7. テクトニクス
	座長：小原泰彦, 針金由美子	座長：中澤努, 北田奈緒子, 野々垣進	座長：高下裕章, 藤内智士
15:00	<p>15:00 T14-O-1 海上保安庁海洋情報部による沖縄トラフと東シナ海陸棚調査のこれまでと将来の展望。*小原泰彦, 南宏樹</p> <p>15:15 T14-O-2 沖縄島周辺の海底地質。*荒井晃作</p> <p>15:30 T14-O-3 (招待講演) 地震波探査から見た沖縄トラフの地殻構造と地震活動。*新井隆太, 大坪誠, 三澤文慶, 木下正高, 石野沙季, 山本朱音, KH-21-3およびKH-23-11乗船研究者</p> <p>16:00 T14-O-4 (招待講演) 沖縄トラフにおける冷たいリフティング：背弧でのマグマ活動を伴わない地殻の薄化。*大坪誠, KH-21-3乗船研究者一同, KH-23-11乗船研究者一同</p> <p>16:30 T14-O-5 (エントリー) 沖縄トラフ南部, 八重山海底地溝・与那国海底地溝での地質構造および地震活動。*山本朱音^{ICS}, 大坪誠, 三澤文慶, 新井隆太, KH-23-11乗船者一同</p> <p>16:45 T14-O-6 音響層序に基づくトカラ列島東方海域の地質構造発達史。*石野沙季^{ICS}, 石塚治, 針金由美子, 三澤文慶, 有元純, 井上卓彦, 高下裕章, 谷健一郎</p> <p>17:00 T14-O-7 肥前島島北東域に露出する花崗岩類の五島列島との対比。*青木智, 石塚治, 針金由美子</p> <p>17:15 T14-O-8 東シナ海から琉球前弧までの海水中の溶存メタンの分布。*土岐知弘</p>	<p>15:00 T8-O-5 (招待講演) 都市, 地質, 水のネクサスを考える - 東京の地下水環境の変遷を事例として -。*林武司</p> <p>15:30 T8-O-6 2024年能登半島地震に伴う房総半島の地下水位変動。*香川淳, 古野邦雄</p> <p>15:45 T8-O-7 世界の地盤沈下の概況（その1）アフリカ, 西・南・東南アジア地域。*藤崎克博</p> <p>16:00 T8-O-8 産業廃棄物最終処分場等の立地条件としての地質環境について - 地下水の水質監視用井戸 -。*田村嘉之</p> <p>16:15 休憩</p> <p>16:30 T8-O-9 山岳トンネルのFEMにおける底盤の変位・応力を考慮した地山剛性領域モデルに関する弾性論的2, 3の考察。*渡辺敬三</p> <p>16:45 T8-O-10 首都圏の台地を構成するMIS 5e-5a堆積物の層相変化に伴う地盤震動特性の変化。*中澤努, 長郁夫, 野々垣進</p> <p>17:00 T8-O-11 常時微動計測により茨城県南部桜川低地の地形発達を探る。*小荒井衛, 谷貝颯太, 中野早登, 先名重樹</p> <p>17:15 T8-O-12 震度5弱の地震観測点近傍における液状化-流動化被害箇所の地質条件：2011年東北地方太平洋沖地震時における東京湾岸埋立地での地質災害に関する地質調査から。*風岡修, 小島隆宏</p>	<p>15:00 T7-O-1 (招待講演) 九州北西部の始新世~中新世テクトニクス：炭田古第三系の再検討の必要性。*牛丸健太郎</p> <p>15:30 T7-O-2 鹿児島県甌島の中新世岩脈の全岩化学組成と火成活動の位置付けの検討。*新正裕尚, 藤内智士, 折橋裕二, 金指由維, 佐々木実, 浅原良浩</p> <p>15:45 T7-O-3 室戸半島, 四万十帯古第三系室戸半島層群のテクトニクス再考。*原英俊, 松元日向子, 藤内智士</p> <p>16:00 T7-O-4 (エントリー) 美濃帯犬山セクションに貫入する後期白亜紀玄武岩の古地磁気方位。*内田泰蔵, 星博幸</p> <p>16:15 休憩</p> <p>16:30 T7-O-5 四国西部中央構造線近傍に分布する上部白亜系和泉層群南部相：そのテクトニクスにおける意味。*竹下徹, 窪田安打</p> <p>16:45 T7-O-6 (エントリー) 四国北西部中央構造線の深度方向の歪分布。*高崎理央, 吉松寛奈, 坂口有人</p> <p>17:00 T7-O-7 福島県南東部, 湯ノ岳断層の運動履歴と応力史。*酒井亨, 高木秀雄</p> <p>17:15 T7-O-8 2011年3月11日東北弧沖平成巨大地震M9.0と太平洋Slabの下部Mantleへの沈込および千島海溝域の巨大地震。*新妻信明</p>

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月9日（月）午後

会場	第4会場（基盤教育1号館131）	第5会場（基盤教育1号館132）	第6会場（基盤教育1号館133）
	G1. ジェネラルサブセッション：応用地質・地質災害・技術 座長：西山賢一, 加瀬善洋	T13. 堆積地質学の最新研究 座長：佐久間杏樹	T12. 海域火山と漂流軽石 座長：及川輝樹, 石毛康介, 三輪学史
15:00	15:00 G1-O-1 熊本県阿蘇火山山麓に分布するアースフロー堆積物の14C年代. * 西山賢一 , 鳥井真之 15:15 G1-O-2 音響技術と水中ドローンが明らかにした蔵王火山・御釜火口湖の海底地形と地下構造. * 山崎新太郎 , 後藤章夫, 平野伸夫, 土屋範芳, 松中哲也 15:30 G1-O-3 混同行列を用いた崩壊・地すべりの発生可能性モデルの検証. * 菅原宏 15:45 G1-O-4 ハイパースペクトルイメージングによるスメクタイトの含有量判定技術の開発：実現可能性の評価. * 吉河秀郎 , 長谷隆平, 淡路動太, 中川清森, 清水桜, 大竹翼, 奈須野恵介 16:00 G1-O-5 北海道東地域で見出したテフラ層すべりの地すべり移動体の成因と発生年代. * 加瀬善洋 , 小安浩理, 仁科健二, 石丸聡, 藤原寛, 宇佐見星弥, 興水健一, 吉永佑一, 室田真宏	15:00 T13-O-22 アラビア湾南岸地域の浅海性炭酸塩プラットフォーム堆積物に記録された白亜紀中期の湿潤化と堆積・初期続成作用. * 山本和幸 , 高柳栄子, アルジュネイビマリウム, アルファルフアンザハラ, 栗田裕司, 佐藤時幸, 辻喜弘, 井龍康文 15:15 T13-O-23 (エントリー) 山東省済南市鋼城区に分布する炒米店層（フロンギアン統）の微生物岩の特性. * 前田宗孝ECS , 江崎洋一, 足立奈津子, 劉建波, 閻振 15:30 T13-O-24 モンゴル西部Bayan Gol層（カンブリア系テレニュービアン統）のオンコイドに認められる空隙の特徴と起源. * 足立奈津子 , 上村葵, 江崎洋一, 劉建波, 渡部真人, Altanshagai Gundsambuu, Enkhbaatar Batkhuyag, DorjnamjaaDorj 15:45 T13-O-25 石炭紀パンサラッサ海山における造礁生物としての層孔虫の復活と終焉. * 江崎洋一 , 増井充, 長井孝一, GregoryWebb, 清水光基, 須蒲翔太, 足立奈津子, 杵山哲男 16:00 休憩	15:00 T12-O-1 (招待講演) 海域での爆発的噴火による表面現象とハザード-国内外の事例比較にもとづく検討-. * 前野深 15:15 T12-O-2 小笠原硫黄島翁浜沖2023年10月以降の噴火の経緯と噴出物の特徴. * 長井雅史 , 三輪学史, 中田節也, 角野浩史, 上田英樹, 安田敦, 小園誠史, 廣瀬郁, 南宏樹, 小林哲夫 15:30 T12-O-3 小笠原硫黄島2022年噴火のメカニズム. * 三輪学史 , 長井雅史, 中田節也, 安田敦, 小園誠史, 上田英樹 15:45 T12-O-4 相模湾熱川沖の海底溶岩流における水平・鉛直方向への記載岩石学的特徴-1 その岩相変化と流動メカニズム. * 坂本泉 , 星野伊吹, 横山由香 16:00 T12-O-5 伊豆大島火山沿岸域の火山活動と噴出物. * 石塚治 , 井上卓彦, 有元純, 川邊禎久, 及川輝樹, 前野深 16:15 休憩 16:30 T12-O-6 2023年10月の地震後に鳥島近海で採取された漂流軽石の岩石学的特徴. * 岩橋くるみECS , 石塚治, 川口允孝, 及川輝樹, 西原歩, 前野深, 安田敦 16:45 T12-O-7 ハザード評価に向けた軽石漂流シミュレーションと可視化. * 桑谷立 , 西川悠, 北尾馨, 五十嵐弘道 17:00 T12-O-8 機械学習と衛星データを用いた福徳岡ノ場2021年噴火の漂流軽石の検出および追跡手法の高度化. * 石毛康介 , 諏訪由起子 17:15 T12-O-9 伊豆・小笠原弧福徳岡ノ場火山2021年8月噴火に伴う噴出物の運搬・堆積機構. * 谷健一郎 , 佐野貴司, 石塚治, 及川輝樹, 鈴木克明, 片山肇, 南宏樹, 長井雅史, 嶋野岳人, 中村美千彦, 浮田泰成, 前野深, 水野樹, マッキントッシュ アイオナ, 自見直人
	G8. ジェネラルサブセッション：地学教育・地学史 座長：矢島 道子（東京都立大学）	T16. 地球史 座長：安藤卓人, 桑野太輔	
	16:30 G8-O-1 日本で最初の女性理学博士保井コノとマリー・ストープスの来日. * 矢島道子 16:45 G8-O-2 共に学び・創る博物館教育. * 太田泰弘 , 杉野広利 17:00 G8-O-3 身近な土砂災害に備える地域防災への取り組み. * 橋本智雄 , 片桐悟, 柴田樹, 本山功 17:15 G8-O-4 「化石研究体験」の運用：古生物学の研究プロセスを題材とした新たな教育普及. * 蘇綾 , 静谷あてな, 峯岸瑤子, 宮田和周, 藪田哲平, 中山健太郎, 安里開士	16:30 T16-O-1 燐灰石中の微量元素挙動：珪長質マグマの酸化還元指標. * 澤木佑介 , 浅沼尚 16:45 T16-O-2 Y/Ho fractionation during basalt alteration in hydrothermal system: An implication for enigmatic superchondritic Y/Ho in Precambrian banded iron formations. * 吉田聡ECS , 上田修裕, 浅沼尚, 澤木佑介 17:00 T16-O-3 花崗岩中のジルコンのHf同位体値の経年変化と花崗岩大陸地殻形成やテクトニクスの変遷. * 小宮剛 17:15 T16-O-4 (エントリー) 初期地球の大気進化：原古代の堆積岩に対する局所4種硫黄同位体分析および光化学反応の数値計算. * 三堀遼太 , 牛久保孝行, 清水健二, 小宮剛	

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 131 年学術大会 (2024 山形大会) 講演プログラム (口頭)

■ 9 月 9 日 (月) 午後

会場	第 7 会場 (基盤教育 1 号館 134)	
	T15. 地域地質・層序学：現在と展望	
	座長：瀬戸大暉, 野崎 篤, 小西拓海	
15:00	15:00 神奈川県, 三浦半島北部の中新統三浦層群基底層の堆積年代 - 凝灰質岩層に含まれるジルコンのU-Pb年代. *平田大二, 仁木創太, 平田岳史	T15-O-10
	15:15 鎌倉市釈迦堂切通に露出する鮮新統前弧海盆堆積物にみられる約3.2 Maに生じた海底地すべりの痕跡. *野崎篤, 宇都宮正志	T15-O-11
	15:30 ハイブリッド型タービダイトから復元される前弧海盆の形状・堆積環境の変遷～鮮新-更新統掛川層群を例に～. *曾根明樹, 酒井哲弥	T15-O-12
	15:45 掛川層群における鮮新-更新世境界付近のテフラ層序と広域対比. *中谷是崇, 水野清秀, 羽田裕貴	T15-O-13
	16:00 房総半島南端に分布する海成更新統の2.17Ma付近の層準で検出された地磁気エクスカージョン記録. *岡田誠, 前田郷, 小塚大輝, 小西拓海	T15-O-14
	16:15 複数の地層群から復元した同一地磁気逆転周辺の古地磁気変動記録の比較. *小西拓海, 岡田誠, 小塚大輝	T15-O-15
	16:30 休憩	
	16:45 房総半島南端に分布する千倉層群から得られた中期鮮新世温暖期末期の古地磁気-酸素同位体複合層序. *谷元暉太 ^{ECS} , 岡田誠	T15-O-16 (エントリー)
	17:00 山形県庄内地域に分布する上部鮮新統-下部更新統科沢層から産する大桑-万願寺動物群の特徴種. *瀬戸大暉, 佐藤幸廣, 長澤一雄	T15-O-17
	17:15 中部日本における中新世最温暖期の海陸境界域付近の古植生の解明. *望月ちほ, 矢部淳, 寺田和雄, 立石良, 佐野晋一	T15-O-18

(20)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※ * 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会 (2024 山形大会) 講演プログラム (口頭)

■ 9月10日 (火) 午前

会場	第1会場 (基盤教育1号館112)	第2会場 (基盤教育1号館121)	第3会場 (基盤教育1号館122)
	T9. 九州と琉球弧の地体構造枠組み：最新の年代測定と視点 座長：谷健一郎, 堤之恭, 磯崎行雄	T11. 鉱物資源研究の最前線 座長：安川和孝, 中村謙太郎	T1. 変成岩とテクトニクス 座長：田口知樹, 金木俊也
8:45	09:00 T9-O-1 (招待講演) 広域地質調査が明らかにした九州の地質。*齋藤真 09:30 T9-O-2 野母半島茂木地域長崎変成岩類の白雲母K-Ar年代測定。*青木一勝, 小平将大, 八木公史, 藤原泰誠, 岡田郁生 09:45 T9-O-3 中部琉球弧における仏像構造線および安芸構造線の位置：奄美群島の例。*堤之恭, 谷健一郎, 山本啓司, 磯崎行雄 10:00 T9-O-4 中琉球「徳之島帯」の地体構造上の位置付け：四万十帯内の高度変成岩と山陰帯花崗岩類の地質学的意味。*磯崎行雄, 山本啓司, 堤之恭 10:15 休憩 10:30 T9-O-5 琉球列島の花崗岩類と珪長質火山岩類のジルコンU-Pb年代測定による琉球弧火成作用の特徴。*福山繭子, 小笠原正継 10:45 T9-O-6 琉球弧内の山陰帯花崗岩。*澤木佑介, 坂田周平, 大野剛 11:00 T9-O-7 中国地方西部から九州に産する白亜紀貫入岩の活動場。*大和田正明, 江島圭祐, 亀井淳志, 小山内康人, 宮下由香里 11:15 T9-O-8 (招待講演) 海溝寄り地域の火成岩の時空分布から見た西南日本の中新世テクトニクス。*新正裕尚, 折橋裕二, 安間了 11:45 T9-O-9 琉球弧中新世珪長質火成活動の時空間変遷から見えてきたフィリピン海プレートの北進。*谷健一郎, 堤之恭, 宇佐美賢	08:45 T11-O-1 南島周辺海域の深海堆積物に見られる厚いレアース濃集層の形成メカニズム。*見邨和英ECS, 北澤堯大, 中村謙太郎, 安川和孝, 大田隼一郎, 桑原佑典, 加藤泰浩 09:00 T11-O-2 (エントリー) 北大西洋深海堆積物の全岩化学組成に基づくレアース泥の分布および起源成分の考察。*高田直翔ECS, 安川和孝, 寺内大貴, 小笠原光基, Tampah Marshel, 森駿介, 吉田頌, 矢野萌生, 町田嗣樹, 芦田果奈, 桑原佑典, 大田隼一郎, 藤永公一郎, 中村謙太郎, 加藤泰浩 09:15 T11-O-3 (エントリー) 海洋堆積物間のNd質量収支モデルに基づくレアース泥生成の支配因子の検討：高品位レアース泥の成因に対する示唆。*松波亮佑, 安川和孝, 中村謙太郎, 加藤泰浩 09:30 T11-O-4 (エントリー) 画像解析技術を用いたレアース泥の粒度組成定量分析法の開発。*伊地知遼行, 安川和孝, 中村謙太郎, 見邨和英, 大田隼一郎, 加藤泰浩 09:45 T11-O-5 南太平洋ベンリン海盆におけるレアース泥の地球化学。*中村謙太郎, マーシェル タンパ, 安川和孝, 大田隼一郎, 加藤泰浩 10:00 T11-O-6 (エントリー) 化学浸出と酸化還元反応の効率化による海底堆積物中の海水由来Os同位体分析手法の改良。*森駿介, 大田隼一郎, 安川和孝, 中村謙太郎, 藤永公一郎, 加藤泰浩 10:15 T11-O-7 (エントリー) 深層学習を用いたAUV MBESデータからの海底熱水シグナルの高精度検出手法の開発。*玄田貴之ECS, 見邨和英, 中村謙太郎, 中谷武志, 北田数也, 安川和孝, 加藤泰浩 10:30 T11-O-8 (招待講演) 海洋Fe-Mn酸化物研究の最新トレンド：微小領域化学分析と統計解析の組み合わせによる情報抽出。*浅見慶志朗ECS 11:00 T11-O-9 南部フォッサマグナの斑岩銅鉛床型変質帯再訪。*宮下敦, 村上浩康, 矢野萌生, 林歳彦 11:15 T11-O-10 (エントリー) 新潟県佐渡島鶴子銀山鉱石の鉱物学的・地球化学的特徴。*村上慶介ECS, 小笠原瑞姫, 大田隼一郎, 安川和孝, 中村謙太郎, 加藤泰浩 11:30 T11-O-11 新たなニッケル資源アウルワ鉱の探索。*三島郁, 上久保寛, 釘崎直人 11:45 T11-O-12 (エントリー) Re-Os放射年代, U-Pb放射年代およびPb同位体組成に基づく兵庫県明延多金属鉱床のCu-Zn脈とSn-W脈の形成プロセス。*小笠原光基ECS, 大田隼一郎, 町田嗣樹, 石田美月, 矢野萌生, 見邨和英, 中村謙太郎, 安川和孝, 藤永公一郎, 加藤泰浩	08:45 T1-O-12 炭質物ラマンスペクトルから岩石の最高被熱温度を推定するための自動ピーク分離コードの紹介と使用者への実践的な助言。*金木俊也, 額綱佑衣, 青矢陸月, 中村佳博, ウォリス サイモン, 志村侑亮, 山岡健 09:00 T1-O-13 日高変成帯の熱履歴とテクトニクス。*志村俊昭, KEMP Anthony, 楨納史架, 長久保恵美 09:15 T1-O-14 (エントリー) 日高変成帯幌満カンラン岩体の構造発達史。*松山和樹, 道林克禎 09:30 T1-O-15 北海道日高変成帯のマイロナイト化した泥質グラニュライトから見出された後退変成藍晶石とゾイサイト。*北野一平ECS 09:45 T1-O-16 (エントリー) 北海道日高変成帯南部から産出するグラニュライトの変成作用。*福田倫太郎, 豊島剛志, 植田勇人, Satish-Kumar Madhusoodhan, 小山内康人, Sajeev Krishnan 10:00 T1-O-17 (エントリー) 非平衡熱力学的フォワードモデリングと逆解析：離溶組織を例に。*古川亘, 辻森樹 10:15 休憩 10:30 T1-O-18 (エントリー) 放射光粉末X線回折測定 of 岩石学的研究への導入：四国中央部三波川帯での検証。*原田浩伸, 松野哲士, 宇野正起, 岡本敦, 大坂恵一, 辻森樹, 板谷徹丸 10:45 T1-O-19 (エントリー) 教師なし機械学習による放射光粉末X線回折のデータ解析：四国中央部三波川帯での例。*松野哲士ECS, 原田浩伸, 大坂恵一, 宇野正起, 岡本敦 11:00 T1-O-20 紀伊半島三波川帯船岡山岩体のアラゴナイトを含む苦鉄質片岩の発見と変成条件。*田口知樹, 田邊正騎, 長谷拓磨 11:15 T1-O-21 (エントリー) EBSDによるコーサイト-石英相転移の検証～三波川帯権現地域の例～。*箕輪桃子ECS, 永治方敬, 伊藤泰輔, ウォリス サイモン 11:30 T1-O-22 領家コンプレックスにおけるざくろ石累帯構造とパルスの変成作用の進行。*宮崎一博, 林里沙, 池田剛, 中村佳博, 長田充弘 11:45 T1-O-23 Decompression concaves of shear crack jog in the plate boundary metamorphic rocks。*鳥海光弘

*講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

*講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

* * 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月10日（火）午前

会場	第4会場（基盤教育1号館131）	第5会場（基盤教育1号館132）	第6会場（基盤教育1号館133）
	T3. 文化地質学	T16. 地球史	G2. ジェネラルサブセッション：海洋地質
	座長：猪股雅美, 大友幸子	座長：羽田裕貴, 佐々木聡史, 桑野太輔	座長：松崎賢史, 三澤文慶
8:45	08:45 T3-O-13 山形県鶴岡市由良沖の底質と漁業との関係. *森野善広 09:00 T3-O-14 紀伊半島の漁村集落の地形・地質規制. *藤岡換太郎, 小野映介, 加納靖之, 松田法子 09:15 T3-O-15 南部フォッサマグナ地域の日本酒仕込み水の水質と文化地質学. *久田健一郎, 藪崎志穂, 唐田幸彦 09:30 T3-O-16 須恵器の鉱物組成とその胎土の推定(2). *小滝篤夫 09:45 T3-O-17 ハンドヘルド蛍光X線分析(XRF)による国産斑レイ岩石材の非破壊同定の可能性. *西本昌司, 乾睦子, 中澤努, 平賀あまな, 山下浩之 10:00 休憩 10:15 T3-O-18 (招待講演) 奥羽山脈に分布する凝灰岩の文化地質的視点, 特に景観について. *田宮良一 10:45 T3-O-19 芸術家たちが魅了された栃木県那須と塩原の風景と地質. *伴敦志 11:00 T3-O-20 「景観」評価のための新しいアプローチ—世界文化遺産登録を目指す「阿蘇」での試み—. *早坂竜児, 門田寛, 新開美穂, 熊本県文化企画・世界遺産推進課 11:15 T3-O-21 (招待講演) 立石寺の石造文化財. *荒木志伸 11:45 T3-O-22 変動帯の文化地質学. *鈴木寿志	08:45 T16-O-5 浮遊性・底生有孔虫化石の酸素同位体記録に基づく前期更新世(MIS 25-21)における黒潮変動の復元. *桑野太輔ECS, 小杉裕樹, 久保田好美, 亀尾浩司 09:00 T16-O-6 南三陸町大沼における津波堆積物の微化石群集(予察). *佐々木聡史, 藤森一真, 山田昌樹, 河湯俊吾, 石村大輔 09:15 T16-O-7 下部鮮新統滝川層より産出した介形虫Celtia属の未記載種について. *向井一勝, 田中源吾 09:30 T16-O-8 古琵琶湖層群上野層におけるギルバート—ガウス地磁気逆転境界. *羽田裕貴, 里口保文, 菅沼悠介 09:45 T16-O-9 日本海北海道沖の深海掘削コアにおける植物バイオマーカーおよび花粉分析による古植生変動の復元:古植生プロキシの比較. *青柳治毅ECS, 沢田健, 風呂田郷史, 入野智久, 五十嵐八枝子 10:00 T16-O-10 新潟県佐渡島中新統中山層から復元されたorbitalスケールケイ素循環変動. *吉岡純平, 黒田潤一郎, 板井啓明 10:15 休憩 10:30 T16-O-11 始新世「超温暖化」に対するインド洋の生物生産性の応答: Ba安定同位体比に基づく示唆. *桑原佑典ECS, 宮崎隆, 安川和孝, 田中えりか, 中村謙太郎, 加藤泰浩 10:45 T16-O-12 北海道白糠丘陵に露出する白亜紀—古第三紀境界付近の統合層序と年代. *高嶋礼詩, 太田映ECS, 黒田潤一郎, Schmitz Mark, 林圭一, 西弘嗣, 折橋裕二, 星博幸, 沢田健, 山中寿朗, 池田雅志, 細堂航平 11:00 T16-O-13 (エントリー) 北海道白糠丘陵における白亜紀—古第三紀境界のオスミウム同位体層序. *太田映ECS, 黒田潤一郎, 高嶋礼詩, 星博幸, 沢田健, 林圭一, 西弘嗣, 石川晃 11:15 T16-O-14 (エントリー) 根室層群(北海道東部)のバイオマーカー分析による古第三紀前期の古環境復元. *吉田達也, 林圭一, 中村英人 11:30 T16-O-15 (招待講演) 北西太平洋の放散虫化石種を通じた過去の海洋環境の探索:気候変動研究への示唆. *松崎賢史	08:45 G2-O-1 (エントリー) オーストラリア北西沖大陸棚で採取された間隙水の水素・酸素同位体組成. *葭井功輔, 高柳栄子, 宮島利宏, REUNING Lars, 井龍康文 09:00 G2-O-2 御前崎沖掘削コア中のタービダイトが示す地震と完新世におけるその堆積間隔. *池原研, 金松敏也, HSIUNG Kan-Hsi, 石澤堯史, 里口保文, 長橋良隆 09:15 G2-O-3 還元続成を被った堆積物からの古地磁気記録. *山崎俊嗣, 李嘉熙 09:30 G2-O-4 九州・パラオ海嶺沖ノ鳥島の地形・地質特徴. *坂本泉, 福島溪斗, 中村希, 池田芽生, 横山由香 09:45 G2-O-5 駿河湾奥部における洪水性堆積物の特徴およびその堆積過程. *横山由香, 坂本泉, 中村希, 柴尾創士, 池田芽生, 渡邊聡史, 風呂田郷史, 平朝彦 10:00 G2-O-6 (エントリー) 駿河湾富士川沖の堆積物に含まれる珪藻の出現傾向とその特徴. *池田芽生ECS, 坂本泉, 横山由香 10:15 G2-O-7 (エントリー) 四国沖南海トラフ海底下に発達する充填鉱物帯の分布. *野村夏希, 弓井浩暉, 藤内智士 10:30 G2-O-8 ポックマーク形成モデルの提案:表層型メタンハイドレート賦存域に特徴的な「撓み」が作る地形的特徴. *浅田美穂, 宮川歩夢
			G5. ジェネラルサブセッション：構造地質
			座長：常盤哲也
			11:00 G5-O-1 志摩半島沖における堆積体の分布と深部構造の発達. 関々田剛志, *米倉優太, 池俊宏, 古川稔子 11:15 G5-O-2 根尾谷断層最新すべり面近傍に認められる間隙水圧の急変. *大谷具幸, 吉田拓海, 岡田直也
			G6. ジェネラルサブセッション：第四紀地質・環境地質
			座長：竹下欣宏
			11:30 G6-O-1 中海における後期完新世の古環境変動. *唐双寧ECS, 香月興太, 仲村康秀, 池原実, 関有沙, 渡邊千隼, 山田桂 11:45 G6-O-2 (エントリー) 宍道湖から中海における現生貝形虫群集と環境との関係. *石垣璃, 入月俊明, 瀬戸浩二, 嶋池実果, 辻本彰

※講演番号は、シンポジウム(S)、トピックセッション(T)、ジェネラルセッション(G)のそれぞれに、ポスター(P)/口頭(O)の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名:代表発表者,(エントリー):学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月10日（火）午前

会場	第7会場（基盤教育1号館134）	
	T15. 地域地質・層序学：現在と展望	
	座長：松原典孝	
9:30	09:30	T15-O-19 奈良県北西部での大阪層群最下部層準の巨円礫層の供給地。 *佐藤隆春, 平谷計二, 廣川信一, 井上光司, 李保美智子, 森裕子, 中谷奉行, 岡本光雄, 齋藤伊平, 白髭照代, 竹中光子, 佃慶子
	09:45	T15-O-20 大阪平野中央部, 天満砂州および難波浜堤平野の礫種組成とその供給源。*中条武司, 趙哲済, 別所孝範, 佐藤隆春, 川端清司, 小倉徹也, 藤菽勝則, 菊井佳弥, 藤原啓史, 飯田真理子, 谷亜佑美, 小田木富慈美
	10:00	T15-O-21 大分県姫島の更新統唐戸層の堆積年代と姫島火山群との層序関係。*納谷友規, 水野清秀, 本郷美佐緒, 羽田裕貴, 堀内悠
	10:15	T15-O-22 (エントリー) 鹿児島県沖永良部島に分布する琉球層群の層序。*武田与ECS, 山田茂昭, 千代延俊, 浅原良浩, 高柳栄子, 井龍康文
	10:30	T15-O-23 地震性地殻変動によって規制された野付崎バリアースピッツの完新世地形発達史。*重野聖之, 七山太, 石渡一人, 古川竜太, 石井正之
	T4. 大地と人間活動を楽しみながら学ぶジオパーク	
	座長：郡山鈴夏, 山崎由貴子	
	11:00	T4-O-1 “人新世”概念をジオパークに導入する意義。*天野一男
	11:15	T4-O-2 文化サイト番場浦海岸採石場跡と大正関東地震による海岸隆起との関係。*笠間友博
	11:30	T4-O-3 山陰海岸ユネスコ世界ジオパークにおける看板の見直し～看板ワーキングの設置とその目的～。*松原典孝, 金山恭子, 安藤和也, 藤原勇樹
11:45	T4-O-4 ジオパークでジオシステムを学ぶ：世界農業遺産と関連付けたジオツアーの提案。*川村教一	

(23)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※* 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 131 年学術大会 (2024 山形大会) 講演プログラム (口頭)

■ 9 月 10 日 (火) 午後

会場	第 1 会場 (基盤教育 1 号館 112)	第 2 会場 (基盤教育 1 号館 121)	第 3 会場 (基盤教育 1 号館 122)
	T17. 沈み込み帯・陸上付加体		T2. 南極研究の最前線
	座長：細川貴弘, 神谷奈々		座長：松井浩紀, 北野一平
15:00	<p>15:00 T17-O-1 日本海溝における上部プリズムの物理的・構造的特徴と形成過程。*神谷奈々, 濱田洋平, 奥田花也, 中元啓輔, 内田泰蔵, 細野日向子, 橋本善孝, 久保雄介</p> <p>15:15 T17-O-2 地震波探査データから推定される日向灘における泥火山分布と内部物性。*新井隆太, 白石和也, 中村恭之, 藤江剛, 喜岡新, 木下正高, 福地里菜</p> <p>15:30 T17-O-3 日向灘のスロースリップ検出の試み：海底光ファイバー歪計設置に向けて。*木下正高, 荒木英一郎, 仲田理映, 土岐知弘, 横田裕輔, 山下裕亮, 橋本善孝, 濱田洋平, 澤井みち代</p> <p>15:45 T17-O-4 構造的メランジュのレオロジーモデルと天然からの制約。*橋本善孝</p> <p>16:00 休憩</p> <p>16:15 T17-O-5 (エントリー) 古地磁気学的手法を用いたプレート境界断層の発熱温度推定。*内田泰蔵, 橋本善孝</p> <p>16:30 T17-O-6 (エントリー) 石英脈群の方位分布による沈み込みプレート境界近傍での駆動流体圧比の推定：西南日本丹波帯の例。*石田昂汰朗^{ECS}, 佐藤活志</p> <p>16:45 T17-O-7 (エントリー) 地震サイクルに伴う流体圧変動及び差応力の地質学的制約。*細川貴弘^{ECS}, 橋本善孝</p> <p>17:00 T17-O-8 (エントリー) 地震発生帯深部での流体圧降下によるシリカシーリング, 岩石破壊, シリカ鉱脈形成および浸透率挙動の実験的再現。*戸田涼斗^{ECS}, 宇野正起, 岡本敦</p>		<p>15:00 T2-O-1 (招待講演) 鮮新世温暖期における西南極氷床の融解から示唆される氷床の脆弱性。*堀川恵司, 岩井雅夫, Hillenbrand Claus-Dieter, Siddoway Christine, Halberstadt Anna Ruthie, Cowan Ellen, 浅原良浩, Shin Ki-Cheol</p> <p>15:30 T2-O-2 南大洋高緯度域における周極深層水 (CDW) の流入変動の指標開発と最終間氷期における CDW 流入変動の復元。*飯塚陸, 関宰, 板木拓也</p> <p>15:45 T2-O-3 (エントリー) 東南極の表層海底堆積物を用いた Be 同位体分析に基づく過去 200 年間の海洋環境復元。*山崎友莉^{ECS}, 菅沼悠介, 板木拓也, 天野敦子, 石輪健樹, 山口耕生</p> <p>16:00 T2-O-4 (招待講演) 東南極セール・ロンダーネ山地, 高温変成岩の全面露頭解析が拓く地殻深部の岩石破壊の実態と地震学とのリンク。*宇野正起, 奈良拓実, ミンダレバディアナ, 河上哲生, 足立達朗, 東野文子, 土屋範芳</p> <p>16:30 T2-O-5 東南極・東ドロンイングモードランド, リュツォ・ホルム岩体, インステクレパネに分布する高度変成岩類。*足立達朗, 外田智千, LAKSHMANAN SREEHARI, 森祐紀</p> <p>16:45 T2-O-6 東南極, リュツォ・ホルム湾南部に分布する珪長質変成岩の原岩構成： Gondwana 造山帯中の古原生代断片の起源解明に向けて。*中野伸彦, 馬場壮太郎, 加々島慎一, Wahyuandari Fransiska</p>

(24)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※ * 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 131 年学術大会 (2024 山形大会) 講演プログラム (口頭)

■ 9 月 10 日 (火) 午後

会場	第 5 会場 (基盤教育 1 号館 132)	第 6 会場 (基盤教育 1 号館 133)
	T16. 地球史	G6. ジェネラルサブセッション：第四紀地質・環境地質
	座長：桑野太輔, 富松由希	座長：竹下欣宏, 渡辺正巳
15:00	<p>15:00 T16-O-16 (招待講演) 日本列島ジュラ紀付加体中の古生界遠洋深海堆積岩層序. *武藤俊</p> <p>15:30 T16-O-17 (エントリー) 美濃帯犬山地域の後期三畳紀ノーリアン/レーティアン境界における放散虫・コノドント化石層序. *大島温志, 尾上哲治, 富松由希, ManuelRigo</p> <p>15:45 T16-O-18 秩父帯津久見地域における上部三畳系層状チャートのコノドント・放散虫化石層序と岩相変化. *富松由希^{ICS}, 尾上哲治</p> <p>16:00 T16-O-19 (エントリー) 美濃帯および北部北上帯の中部三畳系層状チャートにおける放散虫・コノドント化石層序と化学層序. *塩原拓真^{ICS}, 尾上哲治, 武藤俊</p> <p>16:15 T16-O-20 ベトナムに分布する上部デボン系トックタット層とソムニャー層のケルワッサー事変. *小松俊文, 川島大稀, 山田敏弘, 高嶋礼詩, 前川匠, NGUYEN DUC PHONG, DOAN DINH HUNG</p> <p>16:30 T16-O-21 古生代の気海洋酸化還元状態の安定性. *尾崎和海</p> <p>16:45 T16-O-22 初期生命のバイオマーカーとしてのリン酸塩の酸素同位体組成：代謝によらない同位体分別のマグネシウム. *山口耕生</p>	<p>15:00 G6-O-3 (エントリー) 貝形虫化石群集解析に基づく出雲平野中央部～東部の前・中期完新世の古環境変化. *大植和^{ICS}, 入月俊明, 中島啓, 堀田源内, 瀬戸浩二, 香月興太, 中西利典, 齋藤文紀</p> <p>15:15 G6-O-4 北海道北部の稚内市大沼付近の沖積層ボーリングの珪藻分析. *嵯峨山積, 紀藤典夫, 夏木大吾, 福田正宏</p> <p>15:30 G6-O-5 山口県南東部, 島田川中流域の古植生変遷 その2 -花粉分析結果と文献史料-. *渡辺正巳, 田畑直彦</p> <p>15:45 G6-O-6 テフクロロジーに基づく関東平野西部多摩丘陵上総層群の編年. *鈴木毅彦, 正田浩司, 橋本真由, 川畑美桜子, 神馬菜々美, 菅澤大樹</p> <p>16:00 G6-O-7 海岸の黒い砂粒に法地質学的な利用価値はあるか? *杉田律子</p> <p>16:15 G6-O-8 秋田市市街地の微地形と2023年7月水害. *藤本幸雄</p> <p>16:30 G6-O-9 2021年熱海土石流災害の発生原因の究明のための地球科学的研究 (その3). *北村晃寿</p>

(23)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※ * 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月8日（日） コアタイム 13:30-15:00

会場：ポスター会場（基盤教育3号館1-2階）

T10. 岩石・鉱物の変形と反応

T10-P-1

Multi-stage high-velocity slip experiments to elucidate frictional evolution and earthquake energetics in gabbroic faults. ***Dyuti Prakash Sarkar**^{ECSS}, Takehiro Hirose, Wataru Tanikawa, Yohei Hamda, Hanaya Okuda

T10-P-2

愛媛県西条市志河川、中央構造線新露頭における断層岩分布と運動史。***丸尾渚**^{ECSS}, 大橋聖和, 氏家恒太郎, 小松正幸

T10-P-3 (エントリー)

太古代の剪断帯における地質構造と微細構造の特徴；南インドダルワールクラトンからの知見。***浦川真登**, スリハリ ラク シュマナン

T10-P-4 (エントリー)

X線光電子分光法（XPS）を用いた断層破砕帯中の酸化グラフェンの同定と化学状態の解析。***島田知弥**^{ECSS}, 長濱裕幸, 武藤潤, 中村教博

T10-P-5 (エントリー)

曹長石多結晶体の合成と粒成長。***喜多倅子**^{ECSS}, 武藤潤, 重松紀生, 澤燦道, 周游

T10-P-6

オマーンオフィオライト蛇紋岩の物性データを用いた独立成分分析によるマントル変質プロセスの抽出。***赤松祐哉**, 大柳良介, 桑谷立

T10-P-7

破砕帯中軸部の元素マッピングから得られる最新活動部の化学組成的均質性と破砕物粒径分布の特徴（予察）。***小北康弘**, 島田耕史, 小川昌也, 野尻慶介, 重光泰宗, 岩森暁如, 立石良

T10-P-8 (エントリー)

断層岩に含まれる石英のCLスペクトルの変化。***福島夕紀子**, 新田輝, 高木秀雄

T10-P-9

福島県南東部、湯ノ岳断層に伴われる断層岩のX線CT画像解析。***酒井雄**, 岩森暁如, 上田圭一, 高木秀雄

T10-P-10

断層すべりに伴う粉碎の影響を考慮したビトリナイト反射率温度計の開発。***北村真奈美**, 金木俊也, 廣瀬丈洋

T10-P-11 (エントリー)

石英多結晶体剪断実験の回収試料を用いた塑性変形割合の定量化。***宮副真夢**^{ECSS}, 野田博之, 岡崎啓史

T10-P-12

南部北上帯西縁、長坂地域の石灰岩の変形組織と温度構造の関係。***横山裕見**^{ECSS}, 武藤潤

T10-P-13

石英および珪質堆積物の摩擦強度回復特性の解明に向けた直接剪断型摩擦実験機構の構築。***奥田花也**^{ECSS}, 吉岡純平

T13. 堆積地質学の最新研究

T13-P-1

諏訪湖における更新統上部～完新統堆積物コアの縞状粘土層の特徴と成因。***葉田野希**, 福地亮介, 沢田健, 川野律歩, 吉田孝紀

T13-P-2

駿河湾湾奥部における表層堆積物の特徴。***柴尾創士**, 川鍋健, 藤森大輝, 中村希, 曾原隼斗, 林優斗, 坂本泉, 横山由香

T13-P-3

堆積物の内部変形構造解析における三次元デジタル露頭モデル構築の手法-富山県上市町稲村に分布する下部中新統折戸凝灰岩部層の例。***荒戸裕之**, 金子一夫, 國香正稔, 山本由弦, 保柳康一, 山田泰広, 白石和也, 千代延俊, 藤田将人, 吉本剛瑠, 関山優希

T13-P-4 (エントリー)

全結合ニューラルネットワークを用いた混濁流の平面2次元逆解析モデルの実験的検証。***藤島誠也**^{ECSS}, 成瀬元

T13-P-5 (エントリー)

石垣島に遡上した古津波を引き起こした地震断層パラメータ：洞窟堆積物の分布に基づく推定。***Liu bofu**^{ECSS}, 石原与四郎, 中西諒, 成瀬元

T13-P-6

高知県土佐清水市千尋岬の海岸巨礫群は津波石か？***今井悟**

T13-P-7 (エントリー)

男鹿半島一ノ目潟の年縞堆積物に挟まれるイベント堆積層の対比。***永田篤規**^{ECSS}, 梶田展人, 安藤卓人, 箕輪昌紘, 梅田浩司

T13-P-8 (エントリー)

風化における岩石の鉱物学的・組織的变化：亜熱帯気候下での千枚岩の例。***山口季彩**, 吉田孝紀, 篁島聖二

T13-P-9 (エントリー)

上部鮮新統人吉層に発達する古土壌が示す古環境。***杉山春来**^{ECSS}, 吉田孝紀

T15. 地域地質・層序学：現在と展望

T15-P-1

日立古生層の大蘆層をカンブリア系に再定義。***田切美智雄**

T15-P-2 (エントリー)

岡山県中央部 福渡塩基性岩体の地質構成。***前圭一郎**, 能美洋介, 土屋裕太

T15-P-3

北九州市企救半島北東部、後期石炭紀フズリナ・コノドント化石の発見とその意義。***星木勇作**, 星木美恵

T15-P-4

新潟県糸魚川市小滝地域に分布するペルム紀付加体から産出するペルム紀新世放散虫化石群集。***漆山凌**, 松岡篤

T15-P-5

佐渡島におけるペルム系砕屑岩層の碎屑性ジルコンU-Pb年代と全岩化学組成。***鈴木敬介**, 栗原敏之, 石田大昂, 植田勇人

T15-P-6

愛媛県西予市に分布する黒瀬川帯の起源と地質区分の再検討。

***小田結子**, 辻智大

T15-P-7 (エントリー)

ニュージーランド北島Arrow Rocks島Permian-Triassic境界層におけるPAHs含有量分析と含有微化石の検討。***荻原啓**^{ECSS}, 堀利栄, 池原実, 山北聡, 竹村厚司, 相田吉昭, 高橋聡

T15-P-8

南部北上帯におけるOlenekian/Anisian境界-アンモノイドによる検討。***永広昌之**

T15-P-9

兵庫県姫路市街地に分布する丹波帯堆積岩類の地質。***毛利元紀**

T15-P-10

近畿地方北部の超丹波帯付加複合体における層序型の層厚変化。***中江訓**

T15-P-11 (エントリー)

中生代白亜紀南半球高緯度帯の放散虫群集組成と殻形態の検討。***河野駿輝**^{ECSS}, 堀利栄, Christopher J. Hollis

T15-P-12

鹿児島県種子島北部および中部に分布する熊毛層群の赤色泥岩から産出した放散虫化石。***菊川照英**, 辻林恭祐, 相田吉昭

T15-P-13 (エントリー)

山口県中南部徳山湾周辺に分布する火山深成複合岩体。***大河内砂恵**, 大和田正明

T15-P-14

ドローン写真測量による地形・地質構造の把握—中央構造線を例として—。***森宏**, 井上真生子, 宿輪隆太, 三石真祐暲, 木村陽介, 早川由帆, 碓井虎次郎, 延原香穂, 常盤哲也

G. ジェネラルセッション

G-P-1

古生代舞鶴花崗岩の全岩化学組成とジルコンU-Pb年代, Lu-Hf同位体組成。***川口健太**, 中野伸彦, 足立達朗, Jeong Ji Wan, Wahyuandari Fransiska Ayuni Catur, Das Kaushik, 室井颯太, 木村光佑

G-P-2 (エントリー)

根田茂帯綱収ユニットにおける碎屑性ジルコン複合化学分析にもとづく付加体形成史と前期-中期古生代アジア大陸東縁部火成活動の解明。***中野竜**, 青木翔吾, 内野隆之, 福山蘭子, 昆慶明

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月8日（日） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（基盤教育3号館1-2階）

G-P-3

ジルコン年代学と化石相からみる蝦夷層群函淵層の層序対比の再検討. *久保見幸, 長田充弘, 仁木創太, 平田岳史

G-P-4

神奈川県北西部相模湖地域に分布する四万十帯相模湖層群瀬戸層中の炭酸塩ノジュール. *河尻清和

G-P-5 (エントリー)

出雲市西部の大森層の高精度層序と堆積岩と火山岩類との不整合の特徴. *眞次裕司 , 酒井哲弥

G-P-6

噴火湾拡大説. *加藤孝幸

G-P-7

蔵王火山のK-Ar, Ar/Ar年代とアルゴン初期値補正について. *山崎誠子, 及川輝樹, 伴雅雄, Miggins Daniel, Koppers Anthony

G-P-8

沖縄島に分布する四万十帯風化砂岩の風化区分の検討. *箴島聖二, 吉田孝紀, 山口季彩

G-P-9

モンゴル南西部ブーンツァガン湖における環境動態：湖の堆積物と後背地研究. *長谷部徳子, Ganbat Shuukaaz, 時哲, Udaanjargal Uyangaa, Gankhurel Baasansuren, 落合伸也, 福士圭介, Davaasuren Davaadorj

G-P-10

高校生の海外での露頭調査と岩石鉱物学的研究－「高校生らしさ」とは何か－. *川勝和哉

G-P-11 (エントリー)

Genesis and diagenetic pathway of dolomites in the lower Cretaceous carbonates offshore Abu Dhabi (United Arab Emirates). *Goitse Mosekiemang, Kazuyuki Yamamoto, Hideko Takayanagi, Yoshihiro Asahara, Hiroki Montani, Jawaher Alsabeai, Suad Alshamsi, Kohshi Yamamoto, Yasufumi Iryu

※このほか、3号館ポスター会場では、J.ジュニアセッションの発表も予定されています。詳細は大会HPをご覧ください。

OR. アウトリーチセッション
会場：地質情報展会場（山形テルサ）

OR-P-1

熊本県の宇土半島と天草諸島を巡る地質見学旅行の観察ポイント. *早坂康隆, 鶴飼宏明, 廣瀬浩司, 黒須弘美

OR-P-2

ヒマラヤで地学を学ぼう！ *吉田勝, 学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月9日（月） コアタイム 13:30-15:00

会場：ポスター会場（基盤教育3号館1-2階）

T5. 原子力と地質科学

T5-P-1

実際の地形と地形変化シミュレーションにより仮想的に作成した地形との比較-その2: 地形特徴量の比較-. *川村淳, 西山成哲, 小松哲也, 賈華, 小泉由起子, 樺沢さつき, 中西利典, 梅田浩司

T5-P-2

実際の地形と地形変化シミュレーションにより仮想的に作成した地形との比較-その1: 河川横断地形の比較-. *西山成哲, 川村淳, 小松哲也, 賈華, 小泉由起子, 樺沢さつき, 中西利典, 梅田浩司

T5-P-3

吸水・凍結に伴う岩石膨張と内部構造や構成鉱物との関係: 下北半島東部に分布する中新統泊層火山砕屑岩の例. 溝口一生, *飯田高弘, 谷口友規, 飯塚幸子

T5-P-4

岩石中の物質移動の解明に資する鉱物微細組織の三次元的な観察: 土岐花崗岩体のアルカリ長石中の微小孔. *伊藤大智, 安原聡, 増子倫也, 山本康晶, 小野寺浩, 湯口貴史

T6. マグマソース・マグマ供給系から火山体形成まで

T6-P-1 (エントリー)

滋賀県琵琶湖南部に分布する白亜紀後期野洲花崗岩体の全岩化学組成. *中村一喜ECS, 下岡和也, 岡林識起, 壺井基裕

T6-P-2 (エントリー)

西南日本外帯火成活動における, 下部地殻の部分融解とマグマの発生: 尾鈴山酸性岩体の例. *北代拓人, 志村俊昭

T6-P-3 (エントリー)

蔵王火山の15世紀噴火テフラ層の地質学・岩石学的特徴. *岩脇望ECS, 伴雅雄, 井村匠

T6-P-4 (エントリー)

Pulsatile nature of the Ryoike granitoid intrusions in the central Mie prefecture (SW Japan) inferred by U-Pb zircon dating. *Cheolwoo KIM, Tetsuo KAWAKAMI, Fumiko HIGASHINO, Shumpei KUDO, Miku NAKANO, Sota NIKI, Takafumi HIRATA

T6-P-5 (エントリー)

ボーリング掘削調査による吾妻-浄土平火山, 浄土平北火口の爆発的噴火活動史. *大津好秋, 井村匠, 伴雅雄, 常松佳恵, 長谷川健

T6-P-6

放射年代から見たマグマ滞留時間推定: 三瓶山火山の例. *岩野英樹, 浅沼尚, 仁木創太, 坂田周平, 折橋裕二, 平田岳史, 檀原徹

T6-P-7

蔵王火山1895年噴火における発生源となった火山熱水系の特徴と噴火推移に対応したマグマ-熱水プロセス. *井村匠, 大場司, 伴雅雄

T6-P-8

愛媛県高縄半島および梶島に分布する白亜紀深成岩類のジルコンHf同位体組成. *下岡和也ECS, 長田充弘, 小北康弘, 齊藤哲

T6-P-9

岩石学的研究と年代学的研究によるアダカイト質マグマの貫入・定置プロセス: 北上山地, 堺ノ神深成岩体を例として. *鈴木哲士ECS, 浅井信夫, 中島和夫, 小北康弘, 横山立憲, 坂田周平, 大野剛, 長田充弘, 湯口貴史

T6-P-10 (エントリー)

島根県東部と愛媛県松山市東部に位置する花崗岩類の形成温度圧力条件見積もり. *中橋甲斐ECS, 齊藤哲

T6-P-11

貫入岩のライフタイム, 中新統油谷湾層群中の苦鉄質貫入岩の例. *坂口有人, 池上翔陽, 中野敬太

T6-P-12

栃木県鹿沼市北西部, 古第三紀カルデラ埋積堆積物の再検討. *佐藤大介

T7. テクトニクス

T7-P-1

佐渡島の花崗岩類の冷却・削剥史 (速報). *末岡茂, 福田将真, KOHN Barry, 田上高広

T7-P-2 (エントリー)

東北日本 ベルム紀-ジュラ紀付加体における砕屑性ジルコンU-Pb年代・微量元素測定によるアジア大陸東縁部花崗岩パソリス形成・消滅史の検討. *馬場日子和ECS, 青木翔吾, 内野隆之, 福山蘭子, 昆慶明

T7-P-3

西南日本外帯に分布する中期中新世岩体の熱年代学的解釈. *福田将真, 新正裕尚, 安間了, 鏡味沙耶, KohnBarry

T7-P-4

四国西部における古第三紀~新第三紀の中央構造線の運動像の検討. *窪田安打, 竹下徹

T7-P-5

四国西部, 北部秩父帯および黒瀬川帯に貫入した蛇紋岩の定置年代. *西川謙吾, 辻智大, 檀原徹, 岩野英樹, 平田岳史

T7-P-6

熊野灘における海底圧力変化の考察: 海底下の流体と地下構造との関係. *有吉慶介, 永野憲, 長谷川拓也, 中野優, 松本浩幸, 荒木英一郎, 堀高峰, 高橋成実

T7-P-7 (エントリー)

地形・地下構造からみた室戸-足摺沖の活構造. *照井孝之介ECS, 芦寿一郎

T7-P-8 (エントリー)

Sedimentary basins analysis through Multi-Channel Seismic (MCS) profiles of the Eastern Nankai Trough landward slope, Japan. *Philomene Vanessa EYANGONDO, Kohsaku ARAI, Ayanori MISAWA, Yuka YOKOYAMA, Izumi SAKAMOTO

T7-P-9 (エントリー)

地磁気異常データを用いたマリアナトラフの拡大過程. *小野誠太郎ECS, 沖野郷子, 島伸和

T7-P-10

伊豆-小笠原弧の沈み込みと上総海盆の発達. *金子信行

T7-P-11 (エントリー)

断層関連褶曲モデルによる北部フォッサマグナ地域・難波山背斜の構造発達. *伊藤直毅ECS, 石山達也

T7-P-12 (エントリー)

丹沢トータル岩及び富士川深成岩中に発達するマイクロクラックによる古応力方向の復元. *市村健, 富岡美咲, 佐藤隆恒, 原田尚, 高木秀雄

T7-P-13 (エントリー)

山形県鶴岡市南西部における応力場の解析. *岡田尚大ECS, 小林健太

T7-P-14 (エントリー)

島根県隠岐道後におけるカタクラスティックな断層の構造解析とテクトニックな意義. *桑原一平, スリハリ ラクシュマナン, 向吉秀樹

T7-P-15 (エントリー)

力学的な断層の活動性評価であるスリップテンデンス (ST) が示す現世応力場のもとで潜在的な活動性を持つ地質断層~島根県内の地質断層を例に~. *島田昌弥, 向吉秀樹

T7-P-16

岩脈の開き方向による駆動流体圧比と差応力の制約. *佐藤活志

T7-P-17 (エントリー)

歪速度変化による固結粒状体内部の歪分布への影響. *八塚伸明, 月俣涼太, 中谷正生, 竹内昭洋, 坂口有人

T7-P-18

日本海溝におけるホルスト・グラーベンの連続沈み込みとプレート境界断層の変形過程. *高下裕章ECS, 野田篤, 宮川歩夢, NISHIMOTO M.Michelle, 大熊祐一, 橋隆海, 藤内智士, 兼子尚知, 大坪 誠

T7-P-19

砂箱実験の荷重データと歪み解析から考える付加ウェッジの変形サイクル. 金澤征一郎, 橋隆海, *藤内智士

※講演番号は, シンポジウム (S), トピックセッション (T), ジェネラルセッション (G) のそれぞれに, ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合, 講演要旨を正しいものとします.

※ * 太字氏名: 代表発表者, (エントリー): 学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月9日（月） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（基盤教育3号館1-2階）

T8. 都市地質学：自然と社会の融合領域

T8-P-1

ボーリングデータを用いた埼玉県南東部の3次元地質地盤図整備。*野々垣進, 米岡佳弥, 中澤努, 小松原純子

T8-P-2

千葉県北西部における更新統下総層群葦層の基底面と基底礫層の分布について。*吉田剛, 風岡修, 小島隆宏

T8-P-3

一般市民の防災リテラシー向上に向けた地方公設試験研究機関の取り組み（その2）。*小田原啓, 本多亮, 長岡優

T12. 海域火山と漂流軽石

T12-P-1

遠州灘海岸東部で見られる漂着軽石の特徴と起源の推定。*青島晃, 樽松宏征, 宇都宮權, 馬淵彩花, 吉田和佳奈, 鈴木仁緒, 川崎琉菜

T12-P-2

2021年福徳岡ノ場噴火以降に起きた軽石漂流現象に関してSNSが果たした役割。*吉田健太, 丸谷由, 桑谷立

T12-P-3

地球観測衛星を用いた漂流軽石の監視技術。*石毛康介, 竹内晋吾, 上澤真平, 土志田潔, 諏訪由起子

T12-P-4

海底噴火で発生した漂流軽石の構造と形態：近年の日本列島周辺の噴火で生産されたものを例に。*及川輝樹, 石塚治, 西原歩, 岩橋くるみ

T12-P-5

日本周辺における軽石噴火を起こしそうな海底火山の分布。*池上郁彦

T13. 堆積地質学の最新研究

T13-P-10

石灰質構成要素から明らかにする備北層群「藻類石灰岩」の堆積環境。*白石史人, 清水真音, 中田亮一

T13-P-11

北海道北見地域に分布する海山型礁性石灰岩（上部ジュラ系～下部白亜系）の造礁生物と形成環境。*足立奈津子, 川村寿郎

T13-P-12 (エントリー)

上部ジュラ系～下部白亜系鳥巢式石灰岩の形成要因の解明。

*鬼頭岳大, 中田亮一, 白石史人

T13-P-13 (エントリー)

Cyanobacterial influence on peloid formation – Insight from

recent hot spring travertine, Satono-yu, southwestern Japan.

*Hannes Stengel, Naotaka Tomioka, Yoshio Takahashi, Fumito Shiraishi

T13-P-14 (エントリー)

Depositional features and eukaryotic microfossils of Mesoproterozoic Chitrakoot Formation, Vindhyan Supergroup, the central India. *Abhishek Kumar Pandey, Partha Pratim Chakraborty, Ryoichi Nakada, Fumito Shiraishi

T13-P-15

ウチュアズリII洞窟（ハタイ、トルコ）におけるメンテナンスの堆積物の層相と微細構造。*石原与四郎, 森本直記, 森田航, İsmail BAYKARA

T13-P-16

久米島・下地原洞遺跡の絶滅シカ化石包含層の形成過程。*佐藤碧海, 石原与四郎, 澤浦亮平, 藤田祐樹, 砂川暁洸

T13-P-17

サイクリックステップを形成する混濁流のシミュレーションと水路実験の比較。石渡千博, 岩崎理樹, *横川美和

T13-P-18 (エントリー)

固結した砂岩研磨断面画像からの粒子抽出手法の比較検討。*長門巧, 成瀬元

T14. 沖縄トラフと東シナ海陸棚研究の最前線

T14-P-1

中期～後期完新世の東シナ海北部陸棚外縁部における堆積相分布とその形成過程。*齋藤京太

T14-P-2

Petrological features from volcanic rocks around the Daisan-Miyako Knoll in the Central-Southern Ryukyu Arc. *針山由美子, 石塚治, 谷健一郎, Murch Arran, Conway Christopher, 下田玄, 佐藤太一, 南宏樹, 青木智, 小原泰彦, 小川晟人, 松尾拓己, 山本真生, 田村千織, 中野幸彦

T14-P-3

沖縄トラフ南部・石垣グラベンでの潜航調査－新青丸KS-24-1航海結果（速報）－。*三澤文慶, 石塚治, 南宏樹, 木下正高, 古山精史朗, 森光貴, 松永都和, 石垣秀雄, 井和丸光, 高下裕章

T15. 地域地質・層序学：現在と展望

T15-P-15

神居古潭帯・糠平岩体または沙流川岩体におけるロジン岩と接する蛇紋岩起源緑泥石岩の岩石学的特徴。*東豊土, 加藤孝幸, 岡村聡, 高倉純

T15-P-16

北海道様似町親子岩及び様似海岸エリアの奇岩類の地質と岩石。*加藤聡美, 島田哲也, 井上隆, 新井田清信

T15-P-17 (エントリー)

堆積環境の推定による「サラシ首層」の成因と層序学的帰属の検討。*川並仁美, 藤野滋弘, 原田駿介

T15-P-18

中新統北設垂層群に貫入する砂岩岩脈の産状と碎屑性ジルコンU-Pb年代に基づく砂岩岩脈の供給砂岩層の解明。*藪田桜子, 竹内誠, 浅原良浩, 李琪

T15-P-19

秩父山地は撓曲盆地、逆断層、活撓曲の複合地殻変動帯である。*内藤定芳

T15-P-20 (エントリー)

愛知県知多半島に分布する中新統師崎層群上部の放散虫化石年代と古環境。*小林和哉, 星博幸, 本山功

T15-P-21

富山堆積盆に分布する漸新統～中部中新統の形成年代。*山田来樹

T15-P-22

棚倉断層帯沿いに発達する堆積盆埋積層の層序と堆積盆発達史。*細井淳

T15-P-23 (エントリー)

東北日本弧前弧域、栃木県茂木町における前期中新世火山活動。*小坂日奈子, 細井淳, 長谷川健

T15-P-24

和歌山県串本町、橋杭岩岩脈の珪長質火山岩と苦鉄質包有物の産状、化学組成、および年代。*和田稷隆, 新正裕尚, 高嶋礼詩, 仁木創太, 折橋裕二, 佐々木実, 平田岳史

T15-P-25 (エントリー)

重鉱物元素組成による紀伊半島の中期中新世火砕堆積物の対比。*辻本大暉, 高嶋礼詩, 佐藤隆春, 黒柳あずみ

T15-P-26 (エントリー)

秋田県笹森丘陵の後期中新統船川層の火山灰層ジルコンU-Pb年代。*遠嶋美月, 佐久間杏樹, 仁木創太, 平田岳史, 池田昌之

T15-P-27 (エントリー)

重鉱物元素組成を用いた山形・福島県に分布する中新世－鮮新世凝灰岩の識別・対比。*富樫琴美, 高嶋礼詩, 折橋裕二, 浅原良浩, 永橋こう輝, 北見匠, 黒柳あずみ

T15-P-28 (エントリー)

栗駒山南麓の新第三系－第四系の層序。*水戸悠河, 高嶋礼詩, 原田拓也, 黒柳あずみ

T15-P-29

岩手県北西端（脊梁域）浄法寺地域およびその近隣に分布する中新－鮮新世火山岩類の年代：とくに5-6Maの火山岩類について。*辻野匠

T15-P-30 (エントリー)

掘削コアと周辺地質の対比に基づく熊本県益城町堂園周辺の火

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月9日（月） コアタイム 13:30-15:00

会場：ポスター会場（基盤教育3号館1-2階）

山層序. *改原玲奈, 大橋聖和, 辻智大, 澁谷奨

T15-P-31 (エントリー)

給源火山からの距離による火山ガラスの気泡幅の変化. *橋本真由, 鈴木毅彦

T15-P-32

北海道東部, 屈斜路カルデラ火山周辺地域のテフラ層序と爆発的噴火史の再検討. *柴田翔平ECS, 長谷川健

T15-P-33

房総半島南端地域に分布する海成層の第四系基底部付近におけるボーリングコアを用いた超高時間解像度を持つ古地磁気-酸素同位体複合層序構築の試み. *柚原涼花, 岡田誠, 長友大輝, 菅沼悠介

T15-P-34

新潟県東頸城丘陵北東部の更新統魚沼層群における有機化学分析とシーケンス層序学. *河西夏美, 浅野凱, 保柳康一

T15-P-35

北西インド・Ladakh 地方におけるIndus層群の古土壌. *吉田孝紀, Das Supriyo Kumar, M.C. Manoj

T18. 令和6年能登半島地震 (M7.6)

T18-P-1

石川県珠洲市若山町に見られる線状の地表変状と地すべりの関係. *須内寿男, 西川徹, 北村暢章, 上野将司

G. ジェネラルセッション

G-P-12

日本が主導できる地熱発電：浅部超臨界地熱発電（その2）. *伊藤久敏

G-P-13 (エントリー)

地すべりに関する地質学的要因の一つとしての粘土質土壌の摩擦特性. *大森涼生, 高橋美紀, 星住英夫, 宮川歩夢, 阪口圭一, 阿部朋弥, 大熊茂雄, 川畑大作, 宮地良典, 上原真一

G-P-14

点群データ処理によるイルミネーション-法線マップの開発 -長野県の地すべりを例に-. *室田真宏, 吉永佑一

G-P-15

活断層の上下盤における宇宙線生成核種¹⁰Beの地表濃度の分布特性（第2報）. *國松航, 和田伸也, 大塚良治, 岩森暁如, 朝日信孝, 山根博, 林崎涼, 中田英二, 松四雄騎

G-P-16

山形県鮭川村観音寺露頭の光ルミネッセンス年代. *林崎涼, 中田英二, 福地亮, 谷口友規, 相山光太郎

G-P-17

骨材製造ラインの“デッドストック”を用いた原石の評価. *大河内誠, 増村悠馬, 明渡翔大

G-P-18

山形県鮭川村庭月に分布する活断層群の活動モデル. *中田英二, 林崎涼, 相山光太郎, 福地亮

G-P-19

細菌叢解析（環境DNA）を用いた地下水流動検討. *森啓悟, 改田行司, 万木純一郎, 畠中与一, 和田茂樹, 水野貴文, 山崎智美, 棟方有桂

G-P-20

大阪南東部の寺ヶ池安山岩の産状. *佐藤隆春, 山口卓也

G-P-21

岐阜県下呂市湯ヶ峰流紋岩の層序と噴火推移. *古川邦之, 平井義敏, 上峯篤史, 壺井基裕

G-P-22

蔵王火山周辺の湖水・湧水からのマグマ起源希ガス同位体小異常の観測. *佐藤佳子, 熊谷英憲, 岩田尚能, 後藤章夫, 伴雅雄

G-P-23

阿武隈山地南部に産する角閃石カンラン岩の岩石学とジルコンU-Pb年代. 若園映, 福山繭子, 板野敬太, 針金由美子, 田村明弘, *森下知晃

G-P-24

能登半島北西部赤神地域に分布する後期漸新世から前期中新世に活動したとされる玄武岩の地球科学的特徴. *高橋俊郎, 柴野暉崇, 橋本優生

G-P-25

島根県松江市玉湯町周辺の青めのう（碧玉）脈の産状と母岩の安山岩溶岩の変質作用. *大平寛人, 中里瑠花, 丸山諒

G-P-26

ラマン分光法による大東花崗閃緑岩の風化過程解析の試み. *壺井基裕, 岡祥司, 桃井虹輝

G-P-27 (エントリー)

北海道中新世望来層中のメラノフロジャイト産出報告と深海メタン冷水湧出過程の考察. *高橋慶多ECS, 沢田輝, 小松一生, 狩野彰宏, 門馬綱一

G-P-28 (エントリー)

茨城県岩船閃緑岩の起源物質. *山崎陽生ECS, 江島輝美, 昆慶明, 荒岡大輔

G-P-29

青森県下北半島の海岸堆積物の磁気的手法による法地質学研究. *川村紀子, 松下拓哉, 板宮裕実, 杉田律子, 山崎俊嗣

G-P-30 (エントリー)

島根県東部中新統古浦層に見られるインジェクタイトの特徴と成因. *波多野瑞姫ECS, 酒井哲弥, 松尾由鈴

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月10日（火） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（基盤教育3号館1-2階）

T1. 変成岩とテクトニクス

T1-P-1

広域変成岩と接触変成岩を対象とした岩石試料内の石墨化度不均質性と炭質物ラマン温度計における必要測定数。*森宏, 土肥陽菜, 山岡健, 小澤和浩, 常盤哲也

T1-P-2 (エントリー)

四国中央部三波川帯泥質片岩に含まれる炭質物の顕微ラマン分光分析：広域的な温度構造の理解に向けて。*原田浩伸, 辻森樹, 板谷徹丸

T1-P-3 (エントリー)

紀伊半島北西部船戸地域の三波川泥質片岩：ザクロ石中の高残留圧力を保持する石英包有物とその意義。*溝口大世, 田口知樹

T1-P-4 (エントリー)

関東山地寄居地域のヒスイ輝石-石英岩周縁部に認められるヒスイ輝石-オンファス輝石共生を含む反応帯。*瀬川知希, 田口知樹

T1-P-5 (エントリー)

山口県柳井地域の領家変成岩類のザクロ石の成長過程。*林里沙, 池田剛

T1-P-6

三波川変成帯長瀬地域の泥質片岩において細粒ザクロ石を形成させた初期要因について。*乾睦子, 関野公聖, 関根涼介

T1-P-7 (エントリー)

山口県光市, 千坊山周辺地域の領家帯の変成分帯と変成反応。*原山翔, 志村俊昭

T1-P-8 (エントリー)

愛媛県高縄半島, 松山市湯山地区の領家変成岩類の変成作用。*椿陽仁, 志村俊昭

T1-P-9

鳥取県大山西麓の溝口変成岩の再検討。*遠藤俊祐, 森創太郎

T1-P-10 (エントリー)

中国東部楊庄地域に産する蘇魯超高压エクロジヤイト中のオンファス輝石の含水量。*菊地泰生, 田口知樹

T1-P-11 (エントリー)

鳥取県溝口地域の江尾花崗岩の捕獲岩と貫入母岩。*磯山未遊, 遠藤俊祐

T1-P-12 (エントリー)

中国東部仰口地域に産する蘇魯超高压エクロジヤイトの変成温度条件の再検討。*野宮健太, 田口知樹

T1-P-13 (エントリー)

神室山の変成深成複合岩体の岩石学的研究：阿武隈変成岩との対比。*森大成, 加々島慎一, 矢口真司

T1-P-14

北海道浦河町元浦川上流地域の日高変成帯・高度変成岩の地質学的研究。*菅原菜々美, 豊島剛志, 福田倫太郎, 植田勇人,

小山内康人, サティッシュクマールマドスーダン

T1-P-15 (エントリー)

変形実験と矛盾する低温で延性変形する天然苦灰岩：ヨーロッパアルプスの例。*高畑彩, ウォリス サイモン

T1-P-16

神居古潭帯と青海-蓮華帯のひすい輝石岩のジルコンU-Pb年代：残存島弧の沈み込みによるひすい形成の試論。*植田勇人, 竹之内耕, 小河原孝彦

T1-P-17

Key Findings from IODP Expedition 399 on the Building Blocks of Life: A Long Section of Serpentinized Depleted Mantle Peridotite. *阿部なつ江, 野坂俊夫, マッケイグ アンドリュー, ラング スーザン, リッセンバーク ヨハン, プルムピーター, IODP Exp.399 Science Party

T1-P-18

紀伊半島中央部の白亜紀四万十付加体に含まれる蛇紋岩の起源と交代作用。*志村侑亮, 遠藤俊祐, 浅原良浩

T1-P-19

蛇紋岩化したダナイトに記録されたシリカ活動の変化。*曾田祐介, 森下知見, 奥平敬元, 水上知行

T2. 南極研究の最前線

T2-P-1

基盤研究S「海陸シームレス地層掘削から探る南極氷床の大規模融解メカニズム」の概要。*菅沼悠介, 関宰, 久保田好美, 草原和弥, 石輪健樹, 天野敦子, 香月興太, 小長谷貴志

T2-P-2

氷床・海水準変動に伴う南極沿岸域湖沼の水塊構造の変化。*石輪健樹, 徳田悠希, 香月興太, 板木拓也, 佐々木聡史, 山崎開平, 大森貴之, 奥野淳一, 池原実, 菅沼悠介

T2-P-3

東南極氷床の完新世中期における急速な融解とその後の再拡大の可能性。*奥野淳一, 石輪健樹, 菅沼悠介, 青山雄一

T2-P-4

南大洋インド洋区から採取された長尺ピストンコアの年代モデル構築：南極周極流の挙動解明へ。*松井浩紀, 平山恵見, Crosta Xavier, 池原実

T2-P-5 (エントリー)

東南極リュツォ・ホルム湾の葉上性貝形虫類。*中里政貴, 岩谷北斗, 佐々木聡史, 徳田悠希, 石輪健樹, 板木拓也, 菅沼悠介

T2-P-6

東南極リュツォ・ホルム湾・プリンスオラフ海岸・エンダビエランドの地質と2023-2024年（JARE-65）の調査報告。*外田智千, 足立達朗, 森祐紀, LAKSHMANAN Sreehari

T2-P-7

東南極リュツォ・ホルム岩体, ベストホブデ東岩に分布する片麻岩類の変成温度圧力条件。*馬場壮太郎, 中野伸彦, 加々島慎一, 亀井淳志, 外田智千

T2-P-8

東南極リュツォホルム岩体アウストホブデに産する苦鉄質~珪長質岩脈の産状と全岩組成の特徴。*宮本知治, Dunkley DanielJ., 角替敏昭, 加藤陸実

T2-P-9

東南極リュツォ・ホルム岩体あけぼの岩東部に産する含十字石片麻岩の温度圧力経路。*北野一平, 外田智千, 馬場壮太郎, 亀井淳志, 本吉洋一

T2-P-10

東南極リュツォ・ホルム岩体東部, かぶと岩の地質と変成年代について。*加々島慎一, 石川尚人, 堀江憲路, 竹原真美, 外田智千

T2-P-11 (エントリー)

東南極セール・ロンダーネ山地メーフィエルに産する泥質片麻岩のジルコンU-Pb年代の予察的報告。*中野美玖, 東野文子, 河上哲生, 工藤駿平, 足立達朗, 仁木創太, 宇野正起, 金鐵祐, 平田岳史

T2-P-12

Peak and retrograde metamorphic temperature constraints from carbon isotope thermometry: An example from the Sør Rondane Mountains, East Antarctica. *Satish-Kumar Madhusoodhan, Sasidharan Kiran, Fumiko Higashino, Tetsuo Kawakami, Tomokazu Hokada

T3. 文化地質学

T3-P-1

「江の島」で学ぶ相模トラフ変動帯の地形・地質と自然災害。*重野聖之, 石井正之, 七山太

T3-P-2

いわゆる「さざれ石」と「たもと石」の文化地質学。*先山徹

T3-P-3

豊臣期大坂城詰ノ丸の石垣の石材同定。*小倉徹也, 川端清司, 佐藤隆春, 前川匠

T3-P-4

萬世大路栗子トンネル西坑口周辺の流紋岩の岩石記載。*大友幸子, 田宮良一

T4. 大地と人間活動を楽しみながら学ぶジオパーク

T4-P-1

日本ジオパークネットワーク中期計画の策定と活用。*山崎由

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月10日（火） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（基盤教育3号館1-2階）

貴子，古澤加奈

T4-P-2

秋田県八峰町に産する上部中新統～鮮新統「素波里安山岩」西部岩体のSr-Nd-Hf同位体組成に関する予察的報告。*相澤正隆，安井光大，畠山富昌，井村匠，鈴木和人，鈴木悟，西出静，林信太郎

T4-P-3

地域住民と協力した地層観察学習の実践。*原田拓也，佐藤忠実

T4-P-4

糸魚川フォッサマグナミュージアムにおける体験型の展示物製作とジオパーク活動。*小河原孝彦，茨木洋介，郡山鈴夏，香取拓馬，竹之内耕

T4-P-5

ジオパーク拠点施設及び地域博物館の役割－令和6年能登半島地震に関する調査－。*郡山鈴夏，香取拓馬，竹之内耕，茨木洋介，小河原孝彦

T4-P-6

山陰海岸ジオパークにおけるユネスコ理念の普及と地質物品の販売に対する持続可能な対応の検討－続報－。*松原典孝，藤原勇樹

T4-P-7

地震火山地質子どもサマースクール吉野川（三好ジオパーク構想地域）について。*柴田伊廣

T4-P-8（エントリー）

喜界島の隆起サンゴ礁が形成した地下の水循環システムからみる「地質遺産」。*天野孝保，利部慎

T4-P-9

ヒマラヤ造山帯大横断－第12回学生のヒマラヤ野外実習ツアー（2024年3月）報告。*吉田勝，酒井哲弥，シグデルA.，シルワルC.B.，在田一則，ウブレティB.N.

T9. 九州と琉球弧の地体構造枠組み：最新の年代測定と視点

T9-P-1

中琉球の新たな地体構造単元「徳之島帯」の新提案。*山本啓司，磯崎行雄，岡本和明

T11. 鉱物資源研究の最前線

T11-P-1

南大西洋レアアース泥の地球化学的特徴とその起源。*安川和孝，児玉祐真，森駿介，桑原佑典，大田準一郎，小笠原光基，吉田頌，TampahMarshel，矢野萌生，町田嗣樹，芦田果奈，藤永公一郎，中村謙太郎，加藤泰浩

T11-P-2（エントリー）

兵庫県生野鉱床における多金属鉱化作用の解明に向けた鉱物学的・地球化学的検討。*吉田頌，大田準一郎，小笠原光基，中村謙太郎，安川和孝，藤永公一郎，加藤泰浩

T11-P-3（エントリー）

局所化学組成分析に基づく兵庫県中瀬鉱床の金鉱化作用の検討。*池津雄地，大田準一郎，小笠原光基，中村謙太郎，安川和孝，藤永公一郎，加藤泰浩

T11-P-4（エントリー）

エビ閃長岩形成過程における元素の移動・濃集～愛媛県伯方島の例～。*福井堂子，下岡和也，高橋俊郎，齊藤哲

T16. 地球史

T16-P-1（エントリー）

チベット高原南端タコラ地域における中新統～更新統の堆積環境と気候条件の変遷。*島田誠明，吉田孝紀，ギャワリバブラム

T16-P-2（エントリー）

モンゴル国ゴビ砂漠上部白亜系年代制約の試み：恐竜類歯化石アバタイトU-Pb年代測定。*西村玲，千葉謙太郎，青木一勝，小木曾哲

T16-P-3（エントリー）

モンゴル国ゴビ砂漠上部白亜系土壌性炭酸塩岩のカルサイトU-Pb年代測定。*藤井雄大，青木一勝，千葉謙太郎，Khishigjav TSOGTBAATAR，Buuve MAINBAYAR，Batsaikhan BUYANTEGSH，実吉玄貴

T16-P-4（エントリー）

南部沖縄トラフ中軸部に生息する底生有孔虫群集の分布とその支配要因。*尾内千花，亀尾浩司，桑野太輔，大坪誠，木下正高，KH-乗船研究者一同

T16-P-5（エントリー）

岩手県南部から宮城県に分布する竜の口層から産出する放散虫化石群集。*小野寺隆也，本山功，相澤瑞穂

T16-P-6

兵庫県篠山地域の丹波帯ペルム系層状チャートの層序と年代。*坂本賢太郎，尾上哲治

T16-P-7

岐阜県坂祝地域的美濃帯上部三畳系層状チャートの放散虫・コノドント化石層序の構築とカーニアン/ノーリアン境界の認定。*村上瑞己，尾上哲治

T16-P-8（エントリー）

ユカタン半島沖の天体衝突クレーター内の熱水変質花崗岩中の有機炭素の起源。*山形咲乃，山口耕生，池原実

T16-P-9

北海道西部に分布する黒松内層の浮遊性有孔虫化石群集（予報）。*山崎誠，小澤潤，根本直樹，嶋田智恵子

T16-P-10（エントリー）

スミリアン-スバシアン境界の遠洋域浅海堆積物に記録された古環境情報。*村田理輝，狩野彰宏，高橋司，齊藤諒介

T16-P-11

日本海の縞々堆積物と東アジアモンスーン気候変動の関係：鉄とリンのスペシエーション分析からの視点。*野左近督人，増田沙恵佳，山口耕生，高橋聡

T16-P-12（エントリー）

暁新世－始新世の浅海性堆積物のリンのスペシエーション分析（IODP Exp.364 Chicxulub Impact Crater）。*鳥野悠作，山口耕生，小椋千尋，安倍駿

T16-P-13（エントリー）

イメージング質量顕微鏡で解き明かす太古代の酸素発生型光合成の証拠。*石川圭一郎，山口耕生，奥村知世，井尻暁

T16-P-14（エントリー）

宮崎県高千穂町の秩父帯における上部三畳系上村石灰岩の層序とコノドント化石年代。*久常見誠，尾上哲治，Manuel Rigo

T16-P-15

後期中新世以降における熱帯インド洋西部の海洋環境。*上栗伸一，松崎賢史

T17. 沈み込み帯・陸上付加体

T17-P-1

岩手沖日本海溝での反射法地震探査断面から見た陸側斜面の変形構造。*三浦亮，中村恭之，野徹雄，瀧澤薫，白石和也，三浦誠一，藤江剛

T17-P-2（エントリー）

鳥根県西部・三隅層群の鉱物脈：沈み込み境界の変形と流体活動。*三木悠仁，遠藤俊祐

T17-P-3（エントリー）

プレート沈み込み帯における鉱物脈密度分布とその測定方法の開発。*貞松夏実，坂口有人

T17-P-4（エントリー）

構造性メランジュに発達する剪断脈の差応力の制約：白亜系四万十帯横波メランジュ。*平岡空，橋本善孝，細川貴弘

T17-P-5（エントリー）

底付け付加体に産する緑色岩の変形過程：興津メランジュの例。*隅田匠，向江知也，坂口有人

T17-P-6（エントリー）

四国および九州四万十帯における震源深度の堆積岩の弾性率分布。*高橋一郎，濱田洋平，坂口有人

T17-P-7

九州東部四万十帯榎峰層における掘削・地表調査。*矢部優，木口努，細野日向子，大坪誠

T17-P-8

延岡衝上断層のナノスケール間隙構造解析。*中元啓輔

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者、（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演

第131年学術大会（2024山形大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月10日（火） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（基盤教育3号館1-2階）

亀田純，濱田洋平，畑良太，山口飛鳥

G. ジェネラルセッション

G-P-31

上部白亜系和泉層群板東谷層から産出したU字型の生痕化石。
*菊地一輝

G-P-32

熊野沖，南海トラフ変形前線付近のIODP Site C0024における
浮遊性有孔虫群集。*林広樹，郷坪春紀，松岡篤

G-P-33（エントリー）

熊野沖IODP Site C0025における新第三系の浮遊性有孔虫生層
序。*高山佳奈子，林広樹，松岡篤

G-P-34

伊勢湾における後期更新世と完新世の内湾貝形虫化石群集に基
づく古環境と古生物地理。*入月俊明，天野敦子

G-P-35

ポリ塩化ビニル製玩具（キンケシ）の同定と示準化石として
の可能性。*谷川亘，中村璃子，多田井修，中島亮太，山口飛
鳥，山本哲也，野口拓郎，山本裕二

G-P-36

紀伊水道における表層堆積物中のメソ・マクロプラスチック分
布と堆積物特性との関係。*天野敦子，児玉信介，宮川歩夢，
板本拓也

G-P-37

北海道藻琴湖における碎屑性年縞堆積物分析による過去1000年
の古環境変遷。*瀬戸浩二，香月興太，園田武，山田和芳

G-P-38

磐梯山南麓・東麓の扇状地および沖積堆積物のボーリングコア
層序。*片岡香子，卜部厚志，長橋良隆

G-P-39

長野県北部，向新田断層の過去6.8万年間の垂直変位量。*竹下
欣宏，廣内大助，近藤洋一，関めぐみ，花岡邦明，野尻湖地質
グループ

G-P-40

重力異常からみた神奈川県東部におけるヒンジライン周辺の構
造と地殻変動（予察）。*道家涼介，黒澤英樹，倉橋奨，佐藤
善輝

G-P-41

喜界島周辺海域における観測地震によるタービダイト層検出の
試み—KS-24-4次航海の調査速報—。*中西諒ECS，成瀬元，喜
岡新，常岡廉，根本夏林，藤島誠也，佐藤瑠晟，天野敦子，井
尻暁，横山祐典

G-P-42（エントリー）

西フィリピン海盆および九州パラオ海嶺から得られた堆積物の
微化石分析。*池田芽生ECS，坂本泉，横山由香，YK24-05S航
海乗船者一同

G-P-43

船上音響観測としんかい6500の海底観察にもとづくブチスポッ
ト火山フィールドの特定。*町田嗣樹，金子純二，猪瀬和広，
平野直人

G-P-44

Ocean Decade Project COESS: Seep Ecology of Torigakubi
Spur, Joetsu Basin。*Glen Tritch Snyder, Hitoshi Tomaru,
Yoshinori Ono, Natsuki Kaneko, Natsuki Oneda, Yoshiki
Honma, Shinsuke Aoki, Yasumasa Sakai, Gen Takatori, Shohei
Ito, Hashimoto Yuichi

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），ジェネラルセッション（G）のそれぞれに，ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者，（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演

入会のご案内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください。
入会には正会員1名の紹介が必要で、近くに紹介者となるべき会員がいいる場合はその旨お申し出ください。また、初年度の会費は
申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください。会員としての正式登録は、入会承認後、初年度会費
の入金を確認した上で、News誌の送付(4月号から)を開始いたします。

申込書郵送先: 101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F 一般社団法人日本地質学会
 学会費送金先: 郵便振替口座 00140-8-28067 一般社団法人日本地質学会
 ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ)店/当座 0028067 / 一般社団法人日本地質学会(シ)にホシツツガツカ
 会費年額: 正会員(一般会員・シニア会員) 12,000円 ※1
 正会員(学生会員) 5,000円/年、2年パック会費額: 8,000円、3年パック会費額: 9,000円 ※2
 ジュニア会員 0円(年会費不要) ※3

※1: シニア会員は、入会年度の4月1日時点で65歳以上のかたを対象とします(4/2以降に65歳になる方は次年度からシニア会員となります)。

※2: 学生会員は、次の2点を守って手続して下さい。①学生証の写しを提出すること。②パック制会費を希望の場合は一括納入すること。

※3: ジュニア会員は、正会員の権利は有しません。学術大会での発表はジュニアセッションに限定します。

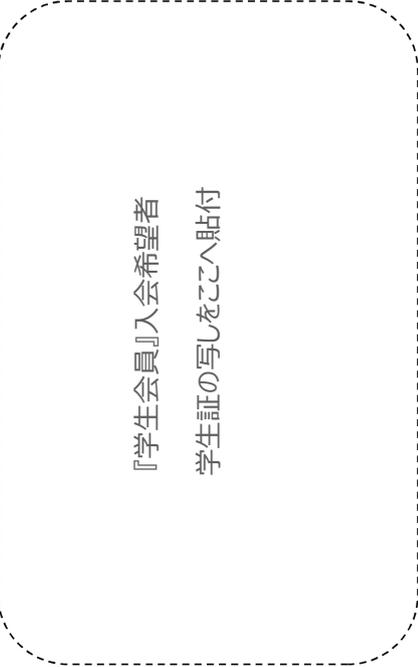
* 会員番号 * 学記入欄: Official use only

* 会員種別 正会員 (一般 シニア 学生)
 ジュニア会員

一般社団法人日本地質学会入会申込書 Application form for the Geological Society of Japan

本枠内のみにご記入ください

氏名(ふりがな) Name in Japanese	ローマ表記 family name	first name
____年____月____日 Mo. ____ Day 生born on	Sex: <input type="checkbox"/> 男 Male <input type="checkbox"/> 女 Female Country: _____	
学歴 Academic career:	____学校 High school ____年卒業 Year completed	
	____大学 University ____学部 Faculty ____年____月 卒業(見込み) Year completed	
	修士 Master: ____大学 Univ. ____ 研究科 Fac. ____年____月 修了(見込み) Year completed	
	博士 Master: ____大学 Univ. ____ 研究科 Fac. ____年____月 修了(見込み) Year completed	
自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code	____) ※学生証の写し忘れずに添えて下さい。	
電話 Phone: _____	ファックス Fax: _____	
所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code	____) ※郵便物がきちんと届けられるよう、ご記入ください。	
電話 Phone: _____	ファックス Fax: _____	
e-mail Address: _____@_____	※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用、その他連絡用に登録します。携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録、たしません。ご注意ください。 ※所属先(代表)の問い合わせ専用 e-mail Address は記入しないでください。	
連絡先 Correspondence: <input type="checkbox"/> 自宅 Home <input type="checkbox"/> 所属機関 Office		



会員情報について: 在会者に限定し、Web版の会員管理システムにて会員情報の検索・閲覧をすることができます。氏名・所属先は掲載必須項目です。下記の項目について掲載を拒否する項目には にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承認いただいたものとします)。

最終学歴 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」, 「△△△△△社」までを必須項目として掲載)
 所属先住所 所属先電話・FAX番号 自宅住所 自宅電話・FAX番号 e-mail Address

紹介者名(正会員) _____ 印
 Recommended by (name of member) _____ Signature

(学生のかた) 希望する会費額を選択して下さい。パック制会費選択者は、該当するパック制会費額を一括納入して下さい。
 5,000円(初年度のみ) / 2年パック: 8,000円(初年度・次年度) / 3年パック: 9,000円(初年度・次年度・次年度)
 学生会員として入会希望です。学生証の写しを入会申込書に添えて提出します。

専門部会の選択(任意) 現在、下記の14の専門部会が活動しています。専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします。所属希望の部会を3つまで選択することができます。(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 地域地質 2. 層序 3. 堆積地質 4. 海洋地質 5. 構造地質 6. 岩石 7. 火山 8. 応用地質
 9. 環境地質 10. 情報地質 11. 古生物 12. 第四紀地質 13. 環境変動史 14. 鉱物資源

興味専門分野の選択(任意) あなたの興味専門分野を教えてください。3つまで選択することができます。(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 層位 2. 堆積・堆積岩 3. 古生物 4. 構造地質 5. 火山・火山岩 6. 深成岩 7. 変成岩
 8. 鉱床地質(金属・非金属) 9. 鉱床 10. 燃料地質 11. 燃料地質 12. 地熱 13. 第四紀 14. 環境地質
 15. 都市地質 16. 土木地質 17. 土質工学 18. 水文地質 19. 探査地質 20. 土木工学 21. 情報地質
 22. 地震地質 23. 海洋地質 24. 地球物理 25. 地球化学 26. 地質年代学 27. 地理 28. 地学教育
 29. 考古学 30. その他 40. 地球惑星

(注)ご提供いただいた個人情報は、日本地質学会プライバシーポリシーに基づき適切に取り扱います。

* 受付(年 月 日) * 承認(年 月 日) * 承認(年 月 日) * 入金(年 月 日)
 振替・現金・銀行・他 * 送本(巻 号)

日本地質学会会長就任にあたって



一般社団法人日本地質学会
会長 山路 敦

山路 敦

今期（2024年～2026年）本会の代表理事（会長）を務めさせていただきます。私の専門は構造地質学、特に、日本列島の新生代テクトニクスです。これが古典的なテーマであるからこそ、新しい視点を持ち込むことを心掛けてきました。本会には大学院進学を機に入会し、あっという間に40年以上が過ぎました。その間、年会などで様々な方々と知り合い、本会に育てていただいたと思っています。微力ではありますが、会長職を務めてまいりますので、どうかよろしく願い申し上げます。

本会は地質学界で最大の学会であり、純理学的研究や応用研究、また、初等教育・社会教育・行政と、会員諸氏は多様な活動をしておられます。研究面では地質現象を理解したり地史を解明したりする純理学的な研究と、応用研究が両輪です。かつては資源開発と防災が後者の中心でしたが、環境や地層処分へと研究テーマが広がってきました。我々が地殻表面に住み、地殻表層を利用して生活する以上、地質学への社会的ニーズは変化するにせよ今後も絶えないでしょう。私自身は学生時代からずっと理学部・理学研究科に在籍して興味の赴くまま研究をしてきました。しかし、社会的ニーズを満たし、ま

た、社会的課題の解決しようとする会員諸氏の努力が純理学的研究とともに、本会の威信を保ってきたのだと思います。こうした認識を踏まえ、様々な立場の会員諸氏が活躍できる場を提供し、会員として満足していただけるような環境を整えてゆきたいと思います。

さて、近年は多くの学会で会員が減っています。国全体の人口が減る以上、威勢の良いスローガンは空しく響きます。わが国が資源大国にでもならない限り、本会の会員数が長期的に減ってゆくことは避けられないでしょう。しかし2020年代は18歳人口の減少が鈍化する時代であり、2030年代以降の減少に備える猶予が与えられた期間とみるべきです。長期的な減少のペースを鈍化させ、また、減少にも耐える体制を、中期的に整えてゆく必要があります。

そうした取り組みのうち、今期取り組むべき課題として二つを考えています。ひとつは広報の整備と充実です。具体的には、いわば建て増しを続けてきた学会のホームページを整備し、また、新たにスマートフォンでも閲覧しやすいものとする予定です。これらにより、会員諸氏の利便性を改善し、また、普及の手段ともしようというわけです。

もう一つの課題は、シニア層の活躍の場を整備してゆくことです。すでに若手会員を応援する取り組みや男女共同参画についての取り組みは、歴代執行部によりすでに拡充されてきました。それらは今後も伸ばして行けばよろしい。しかし若年人口の減少にともなってシニア層の人数が相対的に増大しているにもかかわらず、シニア層のみなさんに満足感を持っていただく取り組みは遅れていました。若者の活躍を妨げないよう留意しつつ、また、皆様のお知恵をお借りしつつ、この問題に取り組んでゆきたいと思います。お力添えの程、よろしく願い申し上げます。

2024年6月4日

2024年度 新執行理事 紹介

任期：2024年6月8日から
2026年総会まで
(注) *印は各部長

常務理事：亀高正男（大日本ダイヤコンサルタント株）



今期は常務理事を努めさせていただきます。社会情勢の変化に併せて、地質学会でも地質学雑誌の電子化や、会員システムのクラウド化などを進めてきました。

一方で、地質学の本質は変わらないと思っています。野外調査の楽しさや学術探究の喜びをより多くの会員に感じ取ってもらいたい、その助けとなる場を地質学会として会員に提供したい。そのために、会長・副会長のもと、学会の運営が円滑に行われるように尽力していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

運営財政部会：細矢卓志（中央開発株）



この度、新たに執行理事会委員になりました中央開発（株）の細矢です。会員にとって魅力ある学会であり続けるために、学会活動の活性化に力を入れたいと思います。

また、運営財政部会担当として、微力ながら、学会員の減少を食い止め、学会の健全運営のため少しでもお役にたてるような活動をしていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

副会長：杉田律子（科学警察研究所）



前期に続き、副会長を務めさせていただきます杉田です。会員の活動を支え、学会を発展させていくために、引き続き様々な規則類の整備や改正を推し進め、

かつ、情報にアクセスしやすい環境を整えていきます。また、さらなるダイバーシティ推進のために、シニア会員の活躍できる場の創出にも力を注ぎたいと考えています。会長の指導の下、会員の皆様のお知恵を拝借し、しっかりと議論を重ねてより良い地質学会を目指します。

副常務理事：内野隆之（産業技術総合研究所）（社会貢献部会兼務）



社会的背景もあり、地質学の基本であるフィールドジオロジーの研究が縮小傾向にあるなか、学会としても当該研究活動を維持できるように尽力していきたい

と思っています。特に、日本の今後の地質学を担う若手研究者をこれまで以上にサポートしていければと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

広報部会：坂口有人*（山科大学）（社会貢献部会兼務）



今期広報を担当いたします。学術的な「新発見」は、ものの見方、考え方、に影響を与えつつ広く浸透していきます。新しい情報を広く発信していくのは重要な

社会的貢献です。そのために各種広報チャンネルを充実させつつ、幅広い層に地質学の魅力、重要性、最先端と更にその先をアピールしていければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

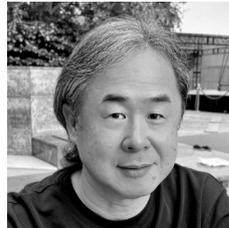
副会長：星 博幸（愛知教育大）



地質学と関連分野の研究を始めた学生に「ぜひ入会したい」と思っていた学会。様々な分野の現役世代の会員に「この学会が大切、やめられない」と

思っていた学会。そしてシニア層の会員に「この学会が生涯大切、やめられない」と思っていた学会。そんな地質学会になるように引き続き汗をかきたいと思ひます。学術面の強化を第一としつつ、ダイバーシティのさらなる拡大、地質学の教育と普及、広報の抜本的強化などに全力で取り組みます。

運営財政部会：加藤猛士*（川崎地質株）



産官学から様々な立場や役割の方々が集まる学会として、先進的な研究や教育普及、技術開発などの活動を通して発信される地質学に関する情報は、社会の発展

及び貢献に不可欠です。運営財政部会の担当として、皆さまの学会活動を維持・発展するための環境を整備することが大切な役割であると認識して、学会運営に尽力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

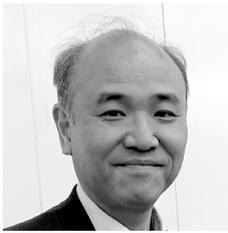
広報部会：内尾優子（東京国立博物館）



地質学は、身近な暮らしから宇宙まで、基礎から応用的な研究分野まで、深く関連して支えているとても重要な科学分野です。日本地質学会は、明治の時代から

地質学の発展を促進し、地質学を専門とする多様な方が所属しています。私は広報担当として、さらに活発な学会となるよう、そして、社会へ、特に次の世代を担う方に対して、「地質学」の魅力や重要性が適切に伝わることを意識しながら、時代に即した広報活動を行っていきたいと考えます。

広報部会：松田達生（工学気象研究所）



今期も引き続き広報部会を担当させていただきます。広報は学会のプレゼンスを示すのに非常に重要な役割を果たします。多岐に渡るその仕事の中で、私は主に

News誌の内容を充実させること、また geo-Flash による学会行事、関連イベント等の迅速な情報発信を担当させていただきます。近年の活発な活動をみなさんに余すところなく知って頂けるよう尽力させていただきます。

広報部会：大坪 誠（産業技術総合研究所）（社会貢献部会兼務）



今期から広報部会の執行理事を務めることになりました。この2年間では、特に X（旧 Twitter）などのソーシャル・ネットワーキング・サービスを積極的に

活用して、学生の皆さんをはじめとする若手の地質学会への参加を積極的に促していくとともに、社会に地質学の魅力を広く伝えて学会活動をより身近に感じていただけるよう努めていきます。地質学会からのジョジョな発信にご期待ください。

学術研究部会：辻森 樹*（東北大学）（編集出版部会兼務）



研究者同士がネットワークを築くためのプラットフォームとして、学術研究団体の重要性が再認識されています。学術大会などの活動を通じて、会員個人レ

ベルでの学術交流が進み、その交流と研究成果が積み重なることで、新たな連携や協力が世代や専門分野を越えて生まれます。継続的な発展には若手人材の参加も欠かせません。学術研究部会として、時代の変化をしっかりと見据えながら、その役割を果たしていきたいと考えています。

学術研究部会：尾上哲治（九州大学）



昨年度に引き続き、学術研究部会の執行理事を務めさせていただきます。対面での学術大会は再開したものの、コロナ禍により一旦途切れてしまった世代間の

研究交流を取り戻すためには、専門部会間の交流、若手・中堅・ベテラン間の交流を意識した取り組みが必要です。地質学会員の間で活発な議論が行えるように、学会運営に尽力していく所存です。

学術研究部会：高嶋礼詩（東北大学）



今期も引き続き行事委員長を務めさせていただきますことになりました。コロナ禍もほぼ収束し、昨年の京都大会より巡検、懇親会、ポスターセッションを含め、従

来通りの学術大会が開催できるようになりました。一方で、コロナ禍で進展したショートコースをはじめとしたリモートでの講演企画等、ウェブベースの情報発信も継続・発展させ、会員の学術活動、普及活動がより便利になるようサポートさせていただきたいと考えています。

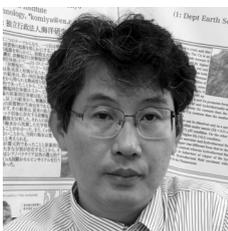
学術研究部会：山口飛鳥（東京大学大気海洋研）



引き続き行事担当の執行理事を務めさせていただきます。学会の柱である学術大会が会員の皆様にとってさらに魅力的なものになるよう取り組み、その一環として、

昨年からは開始した学生優秀発表賞の定着に努めます。ご好評いただいているショートコースも、これまでのアンケート結果を参考に一層の充実を図ります。日本地質学会が今後も持続的発展を遂げられるよう尽力する所存ですので、どうかよろしくお願いたします。

編集出版部会：小宮 剛*（東京大学）



編集出版部会担当執行理事の小宮です。引き続き地質学雑誌編集長と新たに企画出版委員会委員長を担当します。地質学雑誌の電子化と日本語英訳機能の拡充に

より、邦文誌が国外の研究者にも読まれる機会が増えてきました。そこで、日本の地質をしっかりとした形で記録として残し、将来にも渡り、遍く国民に成果を還元することに加えて、国外の研究者にも伝えることが求められています。地質学雑誌が学会員・国民の期待に答えられるように微力ながら尽力する所存です。

社会貢献部会：矢部 淳（国立科学博物館）



生涯教育委員会担当3期目となります。長く博物館に勤めてきた経験を活かし、学会と社会とをつなぐ役割を担います。また、地域の博物館やジオパーク拠点施設

を活かすような活動も行っていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

社会貢献部会：岩井雅夫（高知大学）



今期より社会貢献部会の執行理事を務めることとなり、地学教育委員会やジオパーク支援委員会、地震火山地質こどもサマースクールなどを担当することに

なりました。これまでの経験を活かし、社会基盤となる地質学の次世代若手人材育成や、社会からの理解深化、国際協働活動に繋がるよう微力ながら尽力してゆきたいと思ひます。ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



ご案内

国会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します。

産業技術総合研究所地質調査総合センター研究室見学会

国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター (GSJ) では、GSJで行う研究開発業務の見学会を実施します。

日時：2024年8月27日 (火) 13:00~17:15

対象：学部生、大学院生、既卒者

募集人数：先着30名

開催地：産業技術総合研究所つくば中央事業所7群 (茨城県つくば市)

プログラムはこちら

<https://www.gsj.jp/information/recruit/gsj-tour2024.pdf>

申込はこちら

<https://forms.office.com/r/HbQCjgQwVF>
地質調査総合センターの詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。

https://www.gsj.jp/information/recruit/images/gsj_pamphlet_all.pdf

<https://www.gsj.jp/HomePageJP.html>

地質調査総合センター研修会

■第6回 鉱物肉眼鑑定研修

・日程：2024年10月2日 (水)~10月4日 (金)

・場所：産総研つくば中央事業所7群

・定員：4~5名 (定員になり次第締切)

・CPD：24単位

・参加費：48口 (1口1000円) の会費が必要です。

・詳細URL：<https://www.gsj.jp/geoschool/koubutsu/6th.html>

■2024年度第2回 地質調査研修 (初級/経験者向け)

・日程：2024年10月21日 (月)~10月25日 (金)

・場所：島根県出雲市長尾鼻周辺 (小伊津海岸)

・定員：6名 (定員になり次第締切)

・CPD：42単位

・参加費：84口 (1口1000円) の会費が必要です。

・詳細URL：<https://www.gsj.jp/geoschool/geotraining/2024-2.html>

■2024年度第3回 地質調査研修 (中級/経験者向け)

・日程：2024年11月11日 (月)~11月17日 (日)

- ・場所：福岡県福岡市能古島
- ・定員：6名 (定員になり次第締切)
- ・CPD：45単位
- ・参加費：90口 (1口1000円) の会費が必要です。
- ・詳細URL：<https://www.gsj.jp/geoschool/geotraining/2024-3.html>

【お申し込み・お問い合わせ】

産総研 地質調査総合センター 研修事務局

E-mail：training-gsj-ml@aist.go.jp

各賞・研究助成



日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します。

2024年度「朝日賞」(自然科学) 候補者推薦依頼

「朝日賞」は、1929年(昭和4年)に朝日新聞創刊50周年記念事業として創設されました。学術、芸術などの分野で傑出した業績をあげ、わが国の文化、社会の発展、向上に多大の貢献をされた個人または団体に贈ります。原則として年度賞とし、毎年1月から12月までの業績を対象とします。長年にわたる業績に対してお贈りすることもあります。推薦書は2024年8月26日(月)までに、所定様式送付となりますので、**推薦を希望される方は8月5日(月)までに、執行理事会宛にご連絡下さい。推薦票の記入内容については、学会事務局までお問い合わせ下さい。**(注)学会からの推薦枠は原則1名(最大2名)です。年齢、国籍に制限はありません。

問い合わせ先：

朝日新聞社 朝日新聞文化財団

朝日新聞社 朝日賞事務局

〒163-0210 新宿区西新宿2-6-1新宿住友ビル10階

(株)朝日カルチャーセンター内

TEL 03-6304-5987

<https://asahizaidan.or.jp/award/>

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては、採用結果をお知らせいただけまようようお願い致します。



新潟大学教育研究院自然科学系 地質学准教授公募

所属：新潟大学教育研究院自然科学系 地球・生物科学系

担当学部・研究科：

理学部 理学科 地質科学プログラム

大学院自然科学研究科 環境科学専攻 地球科学コース

担当予定科目：

1. 学部：野外調査を基本とする実習科目、層位・古生物学、堆積学、資源地質学等に関する何れかの専門科目、地学に関する基礎科目
2. 大学院：堆積地質学に関わる地質科学分野の専門科目など

仕事内容・職務内容：

(1) 理学部理学科地質科学プログラムと大学院自然科学研究科環境科学専攻地球科学コースの教育目標と内容を理解し、野外調査を基盤にして堆積地質学の教育研究に情熱を持って取り組むこと。

(2) 野外実習を含む地質科学の基礎科目の教育を行うこと。

(3) 日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を維持し、更新するために協力すること。

(4) 地質科学分野の教員と協力して学部、大学院等の運営に参画すること。令和8年度末までは、キュレーターとして理学部サイエンスミュージアムの管理・運営を行い、また全学の博物館構想に関連する業務に専任すること。

(5) 新潟大学自然科学系附置コア・ステーション「地球環境・地球物質研究センター」の活動に参画すること。

(6) インド太平洋地域の「仮想フィールド」を利活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラムの活動に参画すること。

任期：なし。テニユアトラック以外

募集締切：2024年8月19日 必着
連絡先：新潟大学教育研究院自然科学系(理学部)教授・小西博巳

電話025-262-6187

メール hkonishi@geo.sc.niigata-u.ac.jp

応募賞類等公募の詳細は、下記を参照して下さい。

<https://www.niigata-u.ac.jp/university/recruit/faculty-members/>

**新潟大学若手教員
スイングバイ・プログラム
(若手教員一括採用育成制度)
新潟大学自然科学系人類紀
巨大災害科学分野助教の公募**

担当学部・研究科：理学部・大学院自然科学研究科

職務内容：

1. 研究：地層、岩石、化石など野外から得られる情報を基に、主に第四紀の海水準変動、氷期や間氷期などの極端な気候変動、海洋酸性化などの環境変動、また、巨大噴火、津波、地震などの巨大自然現象に関する研究を推進していただきます。災害・復興科学研究所など学内の研究者と共同して、第四紀の巨大自然現象を将来の災害モデルとして研究し、新たな災害科学の地平を切り開く研究をリードしていただきます。

2. 教育：理学部理学科地質科学プログラムと大学院自然科学研究科環境科学専攻（地球科学コース）を担当して頂きます。

専門分野：地球惑星科学およびその関連分野、環境解析評価およびその関連分野、環境保全対策およびその関連分野（特に、層位・古生物学、堆積地質学、構造地質学、火山地質学、岩石鉱物学、地震地質学、有機地質学、微生物地球化学、同位体地質学などで環境変動や巨大自然現象の解明に寄与する分野）

任期：なし。テニュアトラック以外

募集締切：2024年8月19日 必着

連絡先：新潟大学教育研究院自然科学系（理学部）教授・小西博巳

電話 025-262-6187

メール hkonishi@geo.sc.niigata-u.ac.jp

応募書類等公募の詳細は、下記を参照して下さい。

<https://www.niigata-u.ac.jp/information/2020/76465/>

**東京大学地震研究所
令和6年度第3回大型計算機
共同利用公募研究の公募**

応募資格：国内外の大学、国・公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者（名誉教授・大学院学生・財団等民間団体や企業の研究者）なお、大学院学生は、「C挑戦的研究」を除き、研究代表者となることはできません。また、学生の扱いについては「12.注意事項（5）」をご参照ください。

※若手研究者及び女性研究者からの積極的な応募を歓迎いたします。

申請方法：共同利用HPにある所定の様式に必要な事項を記入のうえ「Web申請システム」から申請してください。

研究期間：採択日から令和7（2025）年3月末まで

申請期限：令和6（2024）年8月31日（金）

【厳守】*Cについては今回のほか、毎月末に受け付けることとします。ただし、計算リソースに余裕がある場合に限りです。

【書類提出、問い合わせ先】

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所研究支援チーム（共同利用担当）

電話：03-5841-1769, 5710

FAX：03-5689-4467

E-mail：k-kyodoriyo@eri.u-tokyo.ac.jp

詳細は、別添公募要領及び地震研究所（共同利用）ホームページをご覧ください。

https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/2024-3_supercomputer.pdf

**福井大学学術研究院教育・
人文社会系部門
教員養成領域教育学部
「地学および小学校理科」
担当教員公募**

採用職名・人員：講師または准教授 1名

専攻分野：地学および小学校理科

所属：学術研究院教育・人文社会系部門 教員養成領域 理数教育講座

仕事内容：初等教育コース小学校教育サブコースを担当する。

中等教育コース理数・生活教育サブコースおよび連合教職開発研究科を兼任する。

(1) 以下の授業科目を担当する。

【学部教育】「地学概論A」、「地学実験」、「基礎地学」*、「基礎地学実験Ⅰ・Ⅱ」*、「地学野外実習」*、「理科実験観察法」*、「教科生活基礎」*、「小中カリキュラム研究B」*、「嶺南地域学A」* など（*印は共同担当）

【共通教育科目】地学分野に関する科目

【大学院教育（教職大学院）】「カリキュラム開発基礎研究」*、「カリキュラム開発実践研究」*

※カリキュラム改編等により上記以外の科目を担当することがある。

(2) 学校および教育関係機関と連携し、他の教員と協働して初等教育および中等教育に関する教育・研究に従事する。

(3) 学部・研究科等の運営（入試や各種委員会等を含む）に係る応分の業務にも従事する。

採用予定日：令和7年（2025年）4月1日

応募資格：採用予定日現在で以下の項目を満たす者

(1) 博士の学位を有する者、またはこれと同等の専門的力量を有する者 (2) 地学に関する研究業績を有する者、小学校理科または生活科に関連する業績や実績を有することが望ましい。(3) 地域素材を活用した教育研究

（地学分野の野外実習指導を含む）が行える者 (4) 教員養成に対する意欲と関心を有する者 (5) 教職大学院の授業を協働して担当できる者 (6) 採用後、福井市またはその近郊に居住できる者

任期：なし

応募締切日：令和6年（2024年）9月12日必着

問い合わせ先：福井大学教育学部 橋本康弘

e-mail：yhasimot@u-fukui.ac.jp

提出書類ほか公募の詳細は、下記を参照して下さい。

https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/recruit/teachers/

**岡山大学惑星物質研究所
教員の公募**

1. 所属：岡山大学惑星物質研究所 惑星表層環境部門

2. 職種・勤務形態：教授（特任）および准教授（特任）。契約期間の定めあり（ただし、雇用経費の状況および評価により契約期間を超えて雇用の予定あり）

3. 募集人員：2名【教授（特任）1名、准教授（特任）1名】

4. 着任時期：2025年1月1日以降出来るだけ早い時期

5. 応募資格：(1) 博士の学位を有する者 (2) 講義と研究の指導が英語でできること (3) 国籍は問いません

6. 教育担当：採択者は、岡山大学大学院環境生命自然科学研究科博士課程の授業科目を担当し、主指導教員として指導することができます。

応募締切：2024年9月30日（月）午後5時（日本時間）

問い合わせ及び応募書類送付先：

〒682-0193 鳥取県東伯郡三朝町山田827

岡山大学惑星物質研究所 所長・教授 芳野極

電話 0858-43-1215（代表）

電子メール wakusei-jinji@adm.okayama-u.ac.jp

詳しくは、<https://www.misasa.okayama-u.ac.jp/news/3199/>



博物館・ジオパークで地球を学ぼう！(31)
山形県立博物館

info

山形県立博物館

〒990-0826 山形県山形市霞城町1-8

<https://www.yamagata-museum.jp/>

休館日：毎週月曜（祝日の場合は翌日）、
年末年始

東北の老舗博物館と自然史

山形県立博物館 地学部門学芸員 瀬戸大暉

1. 山形県立博物館の概要

山形県立博物館は、山形市の山形城址である霞城公園内にあります。当館は、地学・植物・動物・考古・歴史・民俗・教育の7部門を擁する総合博物館となり、分館として教育資料館、附属施設として琵琶沼・自然学習園を持っています。当館は昭和46年（1971）に山形県の明治百年記念事業として建設され、令和6年（2024）に開館から53年目を迎えました。当館は、東北地方6県の中では、自然史資料を展示する老舗の県立博物館です。建屋は、米沢市出身の山下寿郎氏が設計した地上2階、地下1階の構成となっています。開館から現在まで大規模なリニューアルを経験しておらず、半世紀以上に渡って、開館当初の姿をほぼ残しています。そのため、親子3代で同じ展示を見ているということもあります。学芸課職員は、各部門担当の学芸員と研究員の7名と技術員・解説員の10名を合わせた17名で構成され、収集・保存、調査・研究、展示、教育普及および広報の活動に取り組んでいます。

2. 展示の概要

山形県立博物館の展示は、自然分野と人文分野の展示に分かれています。主たる展示スペースは、2階の自然史資料を展示する第1展示室、人文資料を展示する第2、3展示室になります。第3展示室は、特別展示にも利用されるため、年間の半数は、異なる資料を展示しています。1階および吹き抜けには、地学分類展示や体験広場として触れる資料等を展示しています。それ以外には、講堂と相談コーナーがあります。

自然分野は、第1展示室に地学、植物、動物の順に分野毎に展示しています。自然分野

のイチオシ展示は、県の化石で県指定天然記念物の「Dusisiren dewana（ヤマガタダイカイギュウ）の全身骨格（復元）」です。第1展示室入口の正面に展示しており、自然分野のアテンションゲッターとなっています。復元骨格の下には、産状復元の模型も展示しています。

人文分野は、第2展示室に考古、歴史、民俗の順に時代別に展示しています。人文分野のイチオシの展示は、国内5体の国宝土偶の内の1体である「縄文の女神」です。土偶としては、非常にスレンダーで八頭身の造形から、国内だけでなく、海外でも非常に人気が高く、大英博物館にも展示されたことがあります。当館では、第2展示室内に国宝展示室を設け、そこで常設展示で全身を見学できます。

1階の地学分類展示では、山形県の資料だけでなく、なるべく教科書に掲載されているような資料を中心に化石、岩石、鉱物を展示しています。分類展示で来館者の方々に人気なのは、入口エントランスに展示してあるアメシストです。このアメシストは、山形県を代表する女性研究者の石坂照子氏のご家族より寄贈いただいた海外産の資料です。

体験広場には、体長8.16mの南水洋で採集されたクロミンクジラの全身骨格が展示されています。クロミンクジラの下には、平成5～6年（1993～1994）に山形県真室川町で発掘された「mamlogawakujira化石」が展示されています。

3. 地学部門の資料と展示

収蔵資料は、全部門で約30万点となり、地学部門は、約1万4000点が登録されています。登録資料の多くは、山形県内の古生物に関す

る資料となり、次いで岩石および鉱物となります。古生物資料は、多くが山形県内で採集された資料となるため、後期新生代の地層から産する貝類化石、脊椎動物化石および植物化石となります。

山形県の地質は、主に基盤岩のジュラ系～白亜系花崗岩類と日本海拡大初期の湖成層、日本海拡大後の海成層および内陸盆地を埋積した湖成層～沖積層となります。これらに中新世以後に活発となった奥羽山脈沿いの火山や月山、湯殿山および鳥海山の火成岩が挟み込まれている場合があります。

地学部門の展示は、第1展示室に「①合体してできたアジア、日本列島の骨格の形成（山形の形成前）」、「②日本海の誕生」、「③山形をおおった海」、「④海底から陸へ」、「⑤山形の隆起と低地の沈降」および「⑥最上川と郷土のすがた」と地質時代順に細分しています。山形県は中～古生代の化石を産する堆積層がないため、①では、一般的な教科書に載っているような化石と岩石を展示しています。新生代に入ると県内各地から多様な化石が産出するため、展示内容も充実しています。イチオシの展示はヤマガタダイカイギュウの復元骨格ですが、他にも村山地域で発見された日本最大級のヒトデの印象化石、新庄地域の亜炭鉱山から発見された水鳥の足跡化石、庄内地域から発見されたピカリアや阿仁合型・台島型植物群などの県内産の資料を展示しています。

①合体してできたアジア、日本列島の骨格の形成（山形の形成前）古生代から中生代の展示では、主に県外産の示準化石と岩石資料を展示しています。山形県内では、中生代の花崗岩類が飯豊山地や朝日山地を構成しており、山形県の自然史資料がここから展示されてきます。スポット展示として、田川酸性岩を展示しています。

②日本海の誕生 新生代に入り、新第三紀には県内から多数の化石が産出してきます。前期中新世の日本海拡大初期の湖成層からコイ科の化石が発見されています。また、海のはじまりとして、県内産のピカリアやカケハタアカガイなどの八尾門ノ沢動物群に相当する浅海相の化石を展示していま





す。スポット展示では、緑色凝灰岩（グリーンタフ）地域の岩石・鉱物の展示として、海底火山の断面を模した模型と黒鉱を展示しています。また、この展示には、県の鉱物であり県天然記念物に指定されているソロバン玉石（玉髓）を「球類」と「ソロバン玉石」をセットで展示しています。

③山形をおおった海 中期中新世には、県内各地から豊富な貝類化石や植物化石が産出し、展示にも活用されています。植物化石では、分類展示として化石に見る山形の植物として、別に展示を設けており、県内から産する阿仁合、台島、三徳および新庄型植物化石群として、県内の植物化石を網羅的に展示しています。また、スポット展示として、この時代の日本海側に特徴的な石油について、実物とパネルによる展示をしています。県内では、庄内地域の余目油田について紹介しています。

④海底から陸へ 後期中新世～鮮新世には、県の化石であるヤマガタダイカイギュウや1階体験広場に展示しているマムロガワクジラ化石など、多数の大型化石が産出し、展示内容も豊富になります。スポット展示として、内陸盆地から産する亜炭について、単層を上下の岩相ごとブロック状に展示しています。この展示は、最上地域の採掘企業の協力で坑道から直接採集した貴重な資料となります。さらに、同じ亜炭の坑道内で発見されたマナヅルと推定される鳥の足跡化石の剥ぎ取り標本を展示しています。

⑤山形の隆起と低地の沈降 第四紀には、県内各地の火山が活発に活動し、現在の山形の大地を形作っていることを展示しています。この展示では、主に火山岩を展示し、パネル展示として、鳥海山、吾妻山、蔵王山および月山の模式断面を示し、身近にある火山を解説しています。また、火山の恩

恵として、県内に数ある温泉の位置を示しています。スポット展示では、あの場所この石と題して、県内の各地から産する代表的な岩石を展示しています。

⑥最上川と郷土のすがた 最後の展示は、現在の山形県の地形と最上川およびその水系を展示しています。地形の解説には、模式的な地形種を示した模型と県全体の立体地形模型・立体地質図を展示し、山地と盆地での地層の違いを視覚的に表しています。パネル展示では、五百川峡や最上峡などの峡谷や基点、三ヶ瀬および隼の三難所などの最上川の流域にある特徴的な地形を示しています。

4. 教育普及活動

山形県立博物館の教育普及活動は、主に博物館講座や館内外でのイベント、出前授業があります。館内でのイベントでは、年6日の無料開館において、様々なイベントを実施しております。令和5年度では、夏の無料開館としてナイトミュージアム、秋は縄文文化体験、冬は科学実験体験などを行っており、催し物の充実を図っています。地学部門では、例年7月に館外イベントとして、化石発掘の体験を地域の自然の家と協力して行っており、恒例の人気行事となっています。出前授業では、小学校から高校まで理科や地学の授業を行っています。授業では、各地域の特徴的な地形や触れられる化石などを教材として活用し、児童や生徒が地域の特性を理解できるように心がけています。

5. 県の化石「ヤマガタダイカイギュウ」

自然史資料で県の化石であるヤマガタダイカイギュウについて、発掘のストーリーをご紹介します。

ヤマガタダイカイギュウ (Dusisiren dewana) は、昭和53年(1978)に山形県大江町を流れ

る最上川河床から発見されました。昭和53年8月24日に夏休みだった二人の小学生が河床で大きな動物の化石を発見するところから始まりました。この夏は、7月の降水量が44mm(山形県左沢：気象庁データベース)と稀に見る少雨で、最上川も渇水状態でした。連絡を受けた高橋学芸員は、8月28日に現場で調査を行い、肋骨数十本と脊椎骨が河床に露出していることを確認しました。この時は、化石を大型クジラであると推定していました。高橋学芸員と博物館は28日から2日間で各所へ発掘に関わる申請を行い、30日に発掘作業が始まりました。急ピッチで進められた発掘作業は、河床から化石を含むブロックを掘削し、現地住民や教員を含めた15名で1トン近くの岩塊を土ざりて運び出すことで成功しました。その後、特別展に向けてクリーニング作業が進む中で、黒色の白歯が発見されたことで、化石の正体がクジラからカイギュウへと明らかになりました。これらの成果は、Takahashi et al. (1986)によって公表され、西太平洋のカイギュウ研究が大きく飛躍しました。その後、ヤマガタダイカイギュウは、平成4年(1992)に山形県天然記念物に指定され、発掘地の大江町では、「ぷくちゃん」の愛称でバス停の看板にも採用されるなど、発掘から46年が経過した今でも語られ、愛されています。

当館50周年の際に発刊された「山形県立博物館50年のあゆみ」には、発掘から研究までの経緯が長澤(2021)により詳細に記述されています。そして、長澤(2021)の記述の最後には、発掘当時に振り返った高橋静夫氏が「あの頃は何もかも夢中だったからなあ」と話していたことが綴られています。

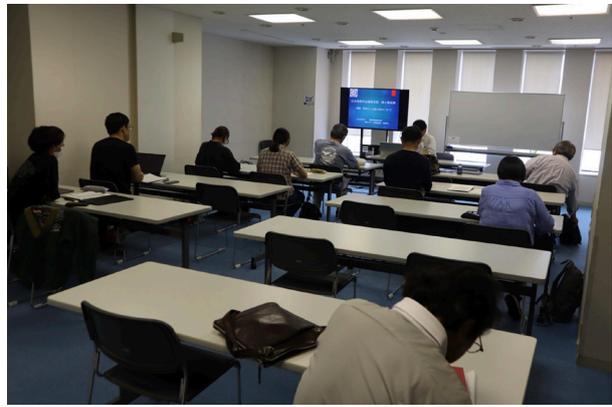
おわりに

開館から半世紀を過ぎ、良く言えば“古き良き博物館像”を保ってきた当館ですが、修繕を加えても拭い切れない建屋の老朽化と展示の陳腐化が目立っています。手を変え品を変え、様々なテーマで特別展示を開催していますが、展示スペースの狭隘性も相まって、巡回展等も久しくできておりません。一方、令和6年には、館内360°VRツアーをインターネット公開し、館内外のデジタル化を推進しています。こうした中で、新館構想が動き出し、「シン・山形県立博物館」の様々な検討が進み始めているところです。





城ヶ島展望台



横須賀市産業交流プラザ第一会議室

支部コーナー

☆関東支部

報告

学生・若手会員向け「地質調査の基礎講座」 城ヶ島巡検 実施報告

2024年6月8日（土）・9日（日）に日本地質学会関東支部では、標記の講座を実施しました。両日とも天候に恵まれ怪我もなく良かったです。参加者は7名で、野外地質調査を行うのが初めてという学生さんが多数参加されました。内訳は、非会員一般1名、非会員学生3名（D1留学生1名、M1学生2名）、一般会員1名、学生会員2名（D3学生1名、学生1名）で、長崎からお越しの学生さんもいました。この事業では本会の若手育成事業による学生会員参加費半額補助が適用されます。そのため、実施前に入会手続きをくださった学生さんが1名いました。

6月8日（土）10時から17時過ぎまで神奈川県三浦市城ヶ島を半周する巡検を行いました。最初に水垂で三崎層を観察し、逆転層で走向・傾斜を計測してもらいました。展望台では、地形（三浦半島の丘陵・台地、房総半島、伊豆大島、伊豆半島など）を、展望台付近の崖では初声層・三崎砂礫層・ローム層を、馬の背洞門では初声層などを観察してもらいました。その西方では三崎層の褶曲を確認してもらい、走向・傾斜を測ってもらいましたが、予想以上に時間がかかりました。長津呂崎では火炎構造などを、灘ヶ崎では地質構造などを観察しました。

学生さん以外の2名の参加者は専門家で、走向・傾斜を測る際は率先して学生さんたちに指導していただきました。この場にて御礼を申し上げます。

6月9日（日）は13時に横須賀市産業交流プラザ第一会議室に集合しました。ローム層とテフラ、堆積構造、城ヶ島巡検の復習、走向・傾斜などの講義を行い、柱状図作成や走向・傾斜のデータから褶曲軸を求める作業をもらいました。17時まで実習を行いましたが、時間が少し足りなかったかもしれません。

アンケート結果によると、満足度は交通以外満点でした。「詳細な解説があり初心者でも分かりやすく、地図上に記す記号や道具の使用が何度もあり一人でもできるようになりました」とのご意見がありました。この学生・若手会員向けの企画は色々な意味で大いに意義があったと考えます。

（駒澤大学 加藤 潔）

城ヶ島巡検の感想（総合研究大学院大学 修士1年 小杉 采葉）

私は今まで、野外で実際の地形を見たり露頭を観察したりするという機会がなかったため、今回の巡検に参加して、地層から読み取れる環境変化やクリノメーターの使い方、構造の名称や形成のされ方など、多くのことを学ぶことができました。

城ヶ崎で最も印象的だった場所は、火炎構造が見られた場所でした。火炎構造は準堆積構造であり、火山灰や砂などが堆積

したあとの未固結な状態で、密度が小さい物質が上に移動した時に見られる荷重痕の一つであると知りました。私はこのような構造が広い範囲に広がっていたこと、再堆積後固結するまでの間で炎のような構造が保たれていたということが興味深いと思いました。

また2日目は座学で、1日目の復習と褶曲軸の解析を行いました。褶曲軸の解析では、褶曲軸を求めようとする場所の走行・傾斜を正確に記録することの大切さや、クリノメーターの扱いに慣れておくことの重要性などを実感しました。

2日間の城ヶ島巡検を通して、大規模な地殻変動で形成された地形が身近に見られることを改めて実感しました。また地殻変動によってできた構造は、そのつながりを見ることが大切であることから、現地での調査が欠かせないということを知りました。今後はさらに勉強し、地層や地質学的な構造を見た時に、どのような環境変化が起きたか、どのくらいの年代のものなのか、周辺とのつながりはどのようなものが考えられるか、などを考えられるようにしたいと思います。

城ヶ島巡検の感想（総合研究大学院大学 修士1年 三品 陽香）

今回の城ヶ島巡検では、初声層と三崎層の観察を行いながら、地層の走行・傾斜の測り方を学んだ。まず初めに、「水ったれ」と呼ばれる三崎層と関東ローム層の間から水が湧き出ている場所で地層の観察を行った。コンポリュートラミナという逆転層を示す地層と平行ラミナを見ることができた。また、穿孔貝の跡が今の海面から1.5mの高さに見られ、大正関東地震での隆起の大きさに驚いた。さらによく観察すると、2.5mの高さにも跡があることを発見し、こちらは元禄地震の隆起ではないかと思われた。

城ヶ島公園の展望台では、景色から伊豆半島、伊豆大島、房総半島などの成り立ちを解説していただき大変興味深かった。同じく城ヶ島公園の露頭観察では、黒ボク土の中にも濃さに違いがあることを初めて知り、富士山の火山活動が活発ではない時に形成された層はより黒い黒ボク土となっていた。

海岸では、フィリピン海プレートの沈み込みにより形成された付加体と考えられている三崎層、その上に乗る堆積物である初声層の観察を行い、走行傾斜を実際に計測した。初声層には綺麗なクロスラミナが発達しており、スコリアや軽石を含んでいた。三崎層では火山豆石を観察することが出来た。三崎層には様々な要因によって形成される層が見られる。ある火山灰層は流れの影響の小さい降下によって形成された層であった。その中には火山豆石やスコリア・岩片などが含まれていたが、球状をしている石でも水に流されて出来るものとは形成過程が違うことがわかり、地層の見方の勉強になった。走行傾斜は、測り方やどのような場所で測ると良いのかまで丁寧にご指導をいただいた。城ヶ島は沈み込み帯の先端が陸地となっている珍しい場所で、実際に現地を見ながら詳しく解説が聞けたことを嬉しく思った。このような巡検の機会があれば、また是非参加したい。

地質学雑誌

地質学雑誌は、2022年（128巻）からは完全電子化となりました。会員の皆様に、公開されている新しい論文をご紹介します。ぜひJ-STAGE上で本論文を閲覧してください。QRコードからも各原稿にアクセスして頂けます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/geosoc/-char/ja>

新しい論文が公開されています

巡検案内書

山形県南西部の中新統と令和4年8月豪雨災害
星 博幸, 本山 功

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0018>

山形県南西部の朝日山地と飯豊山地の間に分布する中新統は、日本海拡大に関連した東北日本のリフティングと地殻運動の証拠を記録している。この地域では、2300~2200万年前（23~22 Ma）に発生した大規模火砕噴火、18 Ma前後の弧内リフトの発達、17.5 Ma頃の火山活動、17.0~16.5 Ma頃の温暖期における海進とそれとほぼ同時に起こった褶曲、その後の深海化と後期中新世における海退といった、日本海拡大期とその後に発生した様々な地質学的現象の証拠を認めることができる。また、古地磁気の研究によって、リフト発達後に地殻のブロック回転が起こったことも明らかにされている。この度、日本地質学会学術大会（第131年大会）が38年ぶりに山形で開催されることになり、それにあわせてこの地域での巡検が企画された。この巡検ではリフティングとその後の地殻運動を記録する地層・岩石などを観察する。加えて、この巡検では2022（令和4）年8月初旬に発生した記録的豪雨による災害の現場も訪ね、豪雨による災害について地質と関連づけながら理解を深める。



巡検案内書

松島湾地域の地質と地形—日本海拡大から現在までの東北日本前弧域の地質・地形の発達—

高嶋 礼詩

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0017>

松島湾は日本三景の一つに数えられる風光明媚な多島海として有名で、湾内の島々や半島は主に新第三系の松島湾層群、志田層群および仙台層群の岩石によって形成されている。同地域の新第三系の層序は珪藻、古地磁気、各種放射年代により、詳細に年代が明らかになっており、日本海拡大時の引張応力場の発達から、鮮新世以降の東西圧縮に至る東北日本前弧域のテクトニクスを反映した堆積盆の変遷を記録している。また、同地域は1980年代に作成された地質図幅に加え、1990年代~2000年代にかけて実施された各種地球物理探査により、陸域、海域共に表層および地下の地質構造が明らかになっている。本巡検では、松島湾層群と志田層群の岩相および地質構造を観察し、中新世から現在に至る東北日本前弧域のテクトニクスと堆積盆の発達史を概観する。また、完新世の砂洲や松島湾の地形を見学し、どのようにして現在の松島の景観が形成されたかについて総合的に理解することも目的とする。



巡検案内書

蔵王火山西部蔵王沢上流部、蔵王鉱山跡地周辺の火山・鉱床地質：かつて存在した火山熱水系の痕跡

井村 匠

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0016>

本巡検では、蔵王火山西部蔵王沢上流部の蔵王鉱山跡地一帯に分布する変質帯を伴う火山岩類を対象とする。対象地一帯はかつて硫黄鉱床を採掘していた場であり、鉱体部を伴う珪化ないし粘土化変質帯、および母岩の火山岩類との接触部がよく露出している。母岩は、蔵王火山西部に分布する中期~後期更新統の火山岩類である。蔵王鉱山跡地の周囲にて採鉱に使われていた坑道は、閉山に伴い全て埋められているが、かつての水平坑の一つである「旧48 m坑」については新たな崩落によって坑口付近が露出し、坑道内部の鉱体部を観察することができる。本巡検コースでは、蔵王沢沿いおよび旧48 m坑にて露出している、中期~後期更新統の火山岩類に胚胎された変質部ならびに鉱体部の直接観察によって、蔵王火山で過去に存在した火山熱水系とそれに由来した噴気・地熱活動の理解を進める。



レター

3次元地質モデリングにより明らかになった茨城県つくば市および周辺地域の更新統下総層群の地質構造

坂田 健太郎, 野々垣 進, 尾崎 正紀, 中澤 努

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0013>

We present a three-dimensional geological model that reveals the detailed geological structures beneath Tsukuba City and the surrounding area in Ibaraki Prefecture, Japan. This model was created using numerous borehole logs and is based on the stratigraphic framework of Sakata et al. (2018). It shows the distribution of a buried valley filled by the lower part of the Kioroshi Formation (MIS 5e). As the valley-fill deposits consist mainly of soft muddy sediments with low N-values, a detailed understanding of the deposits is required for geological risk assessment. The model enables an intuitive understanding of the subsurface geological structures and can help non-expert stakeholders, including citizens and government officials, understand geological and geotechnical issues. In addition, as the model is provided in a digital format, it is compatible with urban digital transformation including smart cities, and will promote the social implementation of geological and geotechnical data.



論説

下総台地北西部の地下に分布する中部更新統下総層群清川層の層相・物性の側方変化

米岡 佳弥, 坂田 健太郎, 本郷 美佐緒, 中里 裕臣, 中澤 努

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0012>

関東平野中央部における清川層の側方への層相変化及び清川層と木下層下部の層相・物性の差異を明らかにする目的で、千葉県野田市山崎でボーリング調査（GS-ND-2）を行った。本ボーリングコアの清川層は下位から陸成層、海成層、陸成層と変化する。同様の層相変化は柏GS-KW-1コアにも認められ対比されるが、両者の層相と花粉帯境界は斜交し、調査地域では南側ほど海退が遅れたことが示唆される。清川層の泥層と木下層下部の泥層はN値と花粉化石群集に明確に違いがあり、両者の判別が有効である。持続的な地下水利用や地震災害リスク評価の観点からも清川層の層相変化様式や木下層下



部の軟弱な泥層の分布を把握することが重要である。

論説

高知県室戸市岩戸に分布する新第三系の微化石層序と貝化石群集：四国における掛川動物群の最古記録とその古生物地理学的意義

山岡 勇太, 萩野 恭子, 林 広樹, 近藤 康生, 菊池 直樹

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0010>

高知県室戸市岩戸の奈良師-元海岸には、貝類や鯨類化石が産出する堆積岩体が分布する。我々は、この岩体を唐ノ浜層群奈良師層として新たに記載し、浮遊性有孔虫化石と石灰質ナノ化石から堆積年代



を推定した。両者の検討結果から、奈良師層の堆積年代は5.53-4.37 Maに絞られる可能性が高いことが明らかとなった。併せて筆者らは、奈良師層より産出した貝化石群集から堆積場の古環境を復元した。本化石群集には、現生の上浅海帯に生息する種が含まれることから、奈良師層は水深20-30 m以浅の上浅海帯に位置していたと考えられる。また本化石群集には、鮮新世から更新世ジェラシアン期に特徴的な貝類動物群である掛川動物群の構成種が多数含まれる。一方で、中新世メッシニアン期から鮮新世ザンクリアン期にかけての貝類動物群である逗子動物群の特徴種は産出しない。このことから四国では、4.37 Maまでには掛川動物群への移行が完了していたと考えられる。

CALENDAR

2024.8~

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

★印は学会主催、(共)共催、(後)後援、(協)協賛。

2024年

8月 August

(後) 科学教育研究協議会第70回全国研究大会 (いわて花巻大会)

8月7日(水)~9日(金)

会場：花巻市立花巻中学校/花巻市立若葉小学校/花巻市文化会館 (岩手県花巻市若葉町)
<https://kakyokyo.org/>

地学団体研究会第78回つくば総会

8月17日(土)~18日(日)

会場：つくばカピオ (茨城県つくば市)

<https://www.chidanken.jp>

9月 September

(後) 第67回粘土科学討論会

9月4日(水)~9月6日(金)

すべて対面で開催予定 (講演会9月4日、現地見学会9月6日)

会場：九州工業大学戸畑キャンパス (北九州市戸畑区仙水町1-1)

https://www.cssj2.org/event/annual_meeting/

★日本地質学会第131年学術大会 (2024山形)

9月8日(日)~10日(火)

会場：山形大学小白川キャンパス

日本鉱物科学会2024年度年会・総会

9月12日(木)~14日(土)

会場：名古屋大学東山キャンパス

<https://jams-mineral.jp/meeting/>

第41回歴史地震研究会 (木曾御嶽大会)

9月13日(金)~15日(日)

場所：木曾町文化交流センター (多目的ホール)、王滝村公民館

<http://www.histeq.jp/kenkyukai.html>

(共) 2024年度 日本地球化学会 第71回年会

9月18日(水)~20日(金)

会場：金沢大学・角間キャンパス (自然科学本館)

<http://www.geochem.jp/index.html>

(協) 地盤技術フォーラム2024

9月18日(水)~20日(金)

東京ビックサイト・東ホール

<http://www.sgrte.jp>

10月 October

令和6年度日本応用地質学会研究発表会

10月9日(水)~12日(土)

会場：レクザムホール (香川県県民ホール) (高松市玉藻町9-10)

<https://www.jseg.or.jp/index.html>

2024年度日本火山学会秋季大会 (学術講演会)

10月16日(水)~18日(金)

会場：道立道民活動センター「かでの2・7」(札幌市中央区; 予定)

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html>

ぼうさいこくたい2024

10月19日(土)~20日(日)

場所：熊本城ホール、熊本市国際交流会館、花畑広場

参加無料、一部オンライン配信予定

<https://bosai-kokutai.jp/2024/>

11月 November

国際 Gondwana 研究連合 (IAGR) 2024年総会及び第21回 Gondwana からアジア国際シンポジウム

11月18日~22日

場所・会場：マレーシア、クチンの Water Front Hotel

参加登録及び発表要旨提出先：iagr2024@curtin.edu.my

問合せ：Prof. Nagarajan Ramasamy, Curtin University, Malaysia

E-mail: nagarajan@curtin.edu.my

12月 December

地質学史懇話会

12月21日(土) 13:30-17:00

場所：北とびあ 806号室 (東京都北区王子)

八耳俊文：マンハッタン計画と水俣病一戦後 20年日本地球化学史

黒田和男：感銘を受けた授業一東中秀雄先生

問い合わせ：矢島道子 pxi02070@nifty.com

★西日本支部

第16回「地質の日」企画
『身近に知る「くまもとの大地」』開催報告

「地質の日」くまもと実行委員会
去る5月12日（日）、第16回「地質の日」企画として、市民向け体験イベント『身近に知る「くまもとの大地」』が開催された。このイベントは、日頃、地球科学の啓蒙普及に腐心し、また多くの児童・生徒や市民の方々に地質や化石、地球の歴史のおもしろさを届けている博物館の方々、社会基盤整備と自然災害防止に努力している地質調査業の方々、また理科離れ、特に縮小され続ける地学教育に憂慮している地学教育関係者が一緒になって、「地質を身近なものとして感じ、理解して欲しい」という願いが一つになって開催されているものである。16回を数える今年、熊本県南に足を伸ばし水俣市の熊本県環境センターを会場にして開催された。開催にあたっては、「地質の日」くまもと実行委員会が主催し、熊本県環境センター、(一社)日本地質学会西日本支部、熊本大学、(公財)阿蘇火山博物館、天草市立御所浦恐竜の島博物館、御船町恐竜博物館、熊本県博物館ネットワークセンター、熊本博物館、熊本地学会、NPO法人菊池川自然塾、(公財)肥後の水とみどりの愛護基金、(一社)熊本県地質調査業協会、阿蘇ジオパーク推進協議会の共催で実施された。

会場の熊本県環境センターは、八代海を挟んで天草諸島を望む水俣市明神崎に立地し、水俣市立水俣病資料館に隣接する。本センターは、地球にやさしい行動を促すための環境情報・学習の拠点施設であり、環境問題について正しい理解と認識を深め、快適な環境の保全・創造に関する意識の高揚を図ることを目的として、平成5年に水俣市に開館した。今回は環境センターの全面的協力を得て、センター1階のエントランスホールに展示コーナーが設けられ、各博物館や熊本地学会所蔵の県内外で採取されたアンモナイト・イノセラムス・恐竜の骨など、多くの貴重な化石が展示された。また博物館ネットワークセンターの展示では、熊本県で産する植物化石に焦点をあてた展示が

なされた。さらに肥後の水とみどりの愛護基金は、熊本の地下水循環模様の演示をし、地質調査業協会は、「平成28年熊本地震」や「令和2年7月豪雨」からの復旧・復興における調査結果を中心に、社会を支える地質調査業の仕事の内容について、ボーリングコアを展示しながら紹介した。一方、1階学習ルームの体験コーナーでは、子供向けにアンモナイト・三葉虫・二枚貝のレプリカ作成や化石のクリーニング、翼竜化石のうつしとり体験、阿蘇カルデラの形成実験などが行われた。2階では、熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センターが、熊本地震をはじめとして自然災害に対する防災・減災に関するパネル展示を行い、展望室では博物館ネットワークセンターにより岩石磨きが行われた。さらに屋外では、パンニングによる砂金やくじゃく石、ザクロ石の採取も行われた。今回はこれらの展示・体験コーナーに加え、午後には長谷義隆実行委員会代表による講演会「みなまた大地のふしぎ」が開催され、水俣の成り立ちと地質についての講演がなされ、多くの聴衆の方々が熱心に聞き入っていた。

開催日当日は、あいにくの雨天であったが、100名を超える来場者を迎えることができ、様々な化石を見入る方、ボーリングコアや地質図を前に、熱心に熊本の地質や今後の自然災害について質問される方などがおられ、来訪者の方々にくまもとの大地について興味を持っていただけたようである。また体験コーナーでは、子供たちが、目を輝かせながら化石のレプリカづくりや砂金採集に熱中したり、長時間にわたってすべてのコーナーを体験していく姿が見られた。

企画・準備・運営にあたっては、実行委員、博物館ボランティア、熊本地学会、熊本県地質調査業協会の方々、ならびに熊本大学学生諸氏には献身的に動いていただき、大きなトラブルもなく開催することができた。来年度は、本年3月にリニューアルオープンした天草市立御所浦恐竜の島博物館を会場として「地質の日」企画を開催予定である。なお、開催にあたって、日本地質学会西日本支部、阿蘇ジオパーク推進協議会、ならびに熊本県地質調査業協会の皆様からはご支援・ご援助を賜った。また、くまもと地学教育研究会、熊本県高等学校教育研究会地学部会、天草自然資源活用推進連絡会、御所浦アイランドツーリズム推進協議会、(一社)天草ジオサポ、熊本日日新聞社、熊本放送にご後援いただいた。この場を借りて、深謝いたします。

(文責：松田博貴)



写真：1；1階展示コーナー風景、2；パラサウロロフス（左）とエドモントサウルス（右）の頭骨（レプリカ）（御所浦恐竜の島博物館）、3；御船層群産の恐竜骨化石（御船町恐竜博物館）、4；講演会「みなまた大地のふしぎ」（長谷義隆実行委員会代表）、5；防災・減災に関するパネル展示（熊本大学くまもとも水循環・減災研究教育センター）、6；地下水循環模型（肥後の水とみどりの愛護基金）、7；防災・減災対応に関する展示（熊本県地質調査業協会）、8；体験コーナー全景。手前—化石のクリーニング（熊本地学会）、右奥—石膏による化石レプリカづくり（熊本大学大学院地球環境科学分野）、左奥—カルデラ形成実験（阿蘇火山博物館）、9；パンニングによる砂金採取（熊本博物館）、10；岩石磨き（博物館ネットワーク）。

学会記事

一般社団法人日本地質学会 2024年度第1回理事会議事録

日時：2024年6月8日（土）15:30より

【WEB会議形式】

出席：出席理事39名，出席監事2名

・理事39名：青矢陸月・天野一男・磯崎行雄・岩井雅夫・保坂（内尾）優子・内野隆之・大坪 誠・大友幸子・岡田 誠・尾上哲治・加藤猛士・香取拓馬・野口（神谷）奈々・亀高正男・小松原純子・小宮 剛・齋藤 真・坂口有人・沢田 健・沢田輝・下岡和也・杉田律子・高嶋礼詩・田村嘉之・中澤 努・西 弘嗣・野田 篤・広瀬 亘・星 博幸・細矢卓志・松田達生・松田博貴・道林克禎・矢鳥道子・矢部淳・山口飛鳥・山路 敦・山本啓司・和田 稜隆

・監事1名：岩部良子

・事務局1名：澤木寿子

欠席役員：理事（11名）：笠間友博・加藤潔・金丸龍夫・川村紀子・清川昌一・桑野太輔・佐々木和彦・澤 燦道・菅沼悠介・高野修・辻森 樹，監事：山本正司

・成立要件：理事総数50名の過半数26名
本日の出席者39名で本理事会は成立。

・議決：出席者の過半数20名

審議事項

1. 理事会議長・副議長の選出

亀高理事より，議長として高野 修理事，副議長として野田 篤理事が推薦され承認された。

2. 会長＝代表理事，副会長の選出

会員による意向投票の結果を鑑みて，下記の会長及び副会長が選出された。

会長（＝代表理事）：山路 敦，副会長：杉

田 律子，星 博幸

なお，杉田副会長より，会長代行の順位について説明，提案があった。理事会規則第3条第4項に定める通り，理事会においては会長に事故があった場合に備え，継承順位を定めることとなっている。年長の副会長が優先されることとなっているが，該当する杉田副会長は国家公務員であり，法人の代表権を有する会長に就任することは困難と考えられる。よって，理事会において，今期の第一の継承順位は星副会長にあると定めた。本件について賛成多数で承認された。

この後，山路新会長から，引き続き若手を応援することはもちろん，シニア会員の活躍の場を広げ，会員各層が参加し，活躍できる場を提供したいとの展望と挨拶があった。続いて星副会長からは，会長を支え学会の健全な発展に引き続き尽力するとともに，学会の柱は学術であるため学会誌の発展，学術大会の安定した開催，会員相互の研究連携などに力を入れるとの挨拶があった。杉田副会長からは，組織や規則の整備を中心とした学会の基盤固めに注力したいとの挨拶があった。

3. 執行理事の選出，部会長の選出

山路会長より，新執行理事と所属事業部会の提案があった。審議の結果，原案通り選出された。

常務理事：亀高正男，副常務理事：内野隆之（社会貢献部会兼務）

運営財政部会：加藤猛士*・細矢卓志

広報部会：坂口有人*（社会貢献部会兼務）

松田達生・内尾優子・大坪 誠（社会貢献部会兼務）

学術研究部会：辻森 樹*（編集出版部会兼務）

・尾上哲治・高嶋礼詩・山口飛鳥

編集出版部会：小宮 剛*

社会貢献部会：矢部 淳*・岩井雅夫

（*印は部会長）

4. 新年度各種委員会委員の承認

亀高常務より，学会各種委員会メンバー案に

ついて説明があり，賛成多数で承認された。

報告事項

1. 行事関係（学術大会）

高嶋行事委員長より，山形大会の準備状況と2025年熊本大会（2025年9月14日～16日）の状況が報告された。熊本大会は巡検9コースを予定している。

星副会長より，学術大会講演申込の締め切りについて，6月締め切りのスケジュールは早すぎる印象があり，JpGUの日程とも近く対応する会員の負担が大きいため，今後大会開催日程（9月下旬開催が好ましい）も含めて十分検討してもらいたい旨の意見があった。

2. その他

・星副会長，下岡理事より，若手活動運営委員会が企画する若手巡検の状況の紹介があった。今年は10月に愛知県犬山近郊のコースを計画している。整次次第，広報と参加申込受付を開始する予定。

監事コメント

（岩部監事）新執行理事会，各種委員会メンバーが承認され，新しい体制がスタートした。積極的，建設的な議論を深め，学会運営を進めていただきたい。

以上，この議事録が正確であることを証するため，議長，副議長及び出席監事，理事は次に記名・捺印する。

2024年6月8日

一般社団法人日本地質学会

理事会議長：高野 修

理事会副議長：野田 篤

前任代表理事：岡田 誠

代表理事：山路 敦

監事：岩部良子

（以下出席理事氏名 省略）

一般社団法人日本地質学会2024年度総会

一般社団法人日本地質学会 2024年度総会議事録

1. 日時 2024年6月8日(土) 14:00~15:45
2. 場所 Zoomオンライン会議システムによるWEB会議形式

3. 出席役員

理事：岡田 誠(代表理事 会長)・杉田律子(副会長)・星 博幸(副会長)

青矢睦月・芦寿一郎・天野一男・磯崎行雄・保坂(内尾)優子・内野隆之・大友幸子・大橋聖和・緒方 信一・尾上哲治・加藤猛士・狩野彰宏・野口(神谷)奈々・亀田 純・亀高正男・北村有迅・小松原純子・小宮 剛・斎藤 真・坂口有人・沢田 健・下岡和也・高嶋礼詩・中澤 努・西 弘嗣・野田 篤・細矢卓志・保柳康一・榊原(堀)利栄・松田達生・松田博貴・三田村宗樹・道林克禎・矢島道子・矢部 淳・山口飛鳥・山路 敦・山本啓司 以上、理事41名

監事：岩部良子・山本正司 以上、監事2名

4. 議長および議事録作成者

総会開催にあたり定款24条に従い本日出席の代議員から、議長として青野道夫代議員を選出した。

議長は審議開始に際し、オンライン会議システムにより、出席者が一堂に会するのと同程度の十分な議論を行うことができる環境であることを確認した。次に総会規則第15条に従い書記として澤田大毅代議員ならびに松崎賢史代議員を指名し、同時に議事録署名人として、兩名を指名した。

5. 議事の経過の要領及びその結果

出席社員の確認

代議員(=社員)総数136名

議決権総数 136個

定足数 69個

出席者数 99名(議場出席者42、

議決権行使書28、委任状29)

議長は、出席者数を確認し、総会定足数である代議員の過半数69名をこえる出席者があるので成立している旨宣言し、議事に入った。

第1号議案 2023年度事業報告・決算報告・監査報告

- 1) 中澤常務理事より、資料にもとづき2023年度の事業報告があった。学術大会、学術研究活動、出版活動、地質災害対応、広報・普及活動、社会貢献、地学教育、国際連携、会員サービス・学会運営の各事業について概要が説明された。会員動静では、2023年4月末に比べ39名会員数が減少したことが報告された。学生会員の増加により会員数減少の割合は低下している。2023年5月から2024年4月末までに逝去された会員

および今年度において逝去が判明した会員17名(うち名誉会員5名)に対し、黙祷を捧げた。次に、各支部の活動について実施概要が紹介され、続いて、執行理事会および理事会議決・承認事項について、以下の通り資料から抜粋して報告があった。2025年以降の学術大会開催地が紹介された(2025年度:熊本大学;2026年度:金沢大学)。オンライン選挙システムについて、正・副会長立候補意思表示者に対する意向調査では投票率が思わしくなく、投票期間延長の措置をとった。その反省から理事選挙では周知を徹底したところ、むしろ投票率は例年よりも向上したことが報告された。107名の会員を永年会員として顕彰することとした。各賞選考委員会より提案され理事会で承認した各賞授賞者の報告があった。2023年度内にご寄付いただいた方(磯崎行雄会員)の紹介があった。

- 2) 会計担当の亀高理事から、2023年度決算について報告があった。事業活動収入の部では、会費収入は予算に比べ増加し、年会開催収入も京都大会フル開催により増加した。支部イベントはオンライン開催により参加費収入が得にくい形となっている。事業活動支出の部では、年開催事業費は概ね予算通り。支部活動費はオンライン化により収入だけでなく支出も減少している。管理費の支出減少はHPリニューアルの費用が消化されなかった点が大きい。引当金取り崩しを考慮すると、収支差額はあまり大きくないとの説明がなされた。

その後、山本正司監事より監査報告があり、事業報告および計算書類等について適正であることが報告された。

- 3) 質疑:若手育成補助に関して、若手活動運営委員会の菊川代議員より感謝の意が示された。また、選挙システムを利用して実施された正副会長立候補意思表示者に対する意向調査について、投票率が低かったのは、新しいシステム自体に対する声なき不信任ではないか、との関東支部会員からのコメントが小田原代議員(議決権行使書)を通じて紹介された。これに対して、他の代議員からは、選挙システム導入により利便性は向上している、理事選挙では十分な投票数が得られておりシステム自体に問題はないと考えるとの意見が出たが、一方で、リマインダが来なければ忘れやすい、周知方法には課題があるなどの意見もあった(吉田代議員、阿部代議員)。これらに対して中澤常務理事からは、会員からの意見を真摯に受け止め、2023年度選挙の分析を行うとともに、選挙システム(会員システム)の利用率向上や選挙実施の周知徹底の方策を検討していく旨回答があった。

本議案について採決の結果、全会一致(議場42、議決権行使書28、委任状29)で承認された。

第2号議案 代議員、理事および監事選挙結果報告

金沢直人選挙管理委員会委員長より、現役員が本総会終了と同時に任期満了し退任となるため、代議員および理事、監事選挙を実施した旨とその結果が報告された。代議員選挙、理事選挙のうち地方支部区選出枠、監事選挙に関しては、候補者が定数内であったため、無投票当選とした。理事選挙のうち全国区選出枠については、定数43名に対して立候補者数44名だったため当選代議員による投票を実施し、理事を選出した。有権者総数は170名、有効投票数は133名であった。

本議案について採決の結果、全会一致(議場42、議決権行使書28、委任状29)で承認された。

第3号議案 2024年度事業計画

岡田会長より、2023年度の本学会の事業成果を踏まえた2024年度の事業計画の基本方針が示された。学術大会は山形大学にて9/8-10開催予定。今年度もショートコース開催に注力する。出版活動においては、優れた論文の確保と安定した出版を目指し、それによるダウンロード数や引用数の増加を期待し、新規の特集号の企画を積極的に推進する。また、学会ウェブサイト(HP)の抜本的な刷新作業に着手し、加えて、学会公式SNSの本格運用により社会への速報性を高め、情報発信をこれまで以上に効果的かつ効率的に行う。会員サービスに関しては、会員定着率向上に向け、継続的な若手支援、若手会員層の拡充に努め、今年度からはシニア層に対しての検討を開始する。新しい会員システムについては、会員へのさらなる周知を進め、事務局業務の合理化を図る。

瀬戸代議員より、普及活動、地学教育に関わる事業計画において、博物館との連携が明記されていないが、具体的な取り組みやアイデアはないかとの質問に対し、岡田会長より、これまでも博物館とは地質情報展の開催、「地質の日」の取り組み、そのほか普及イベントの開催を通じて連携を図ってきた。学会として今後もさらに関与を深めていきたいとの回答があった。

3号議案については、出版活動の項目で、ジオパーク支援委員会提案の書籍出版計画の記載が漏れているため、事業計画骨子に追記することとした。

本議案について採決の結果、全会一致(議場42、議決権行使書28、委任状29)で承認された。

第4号議案 2024年度予算案

亀高理事から、2024年度収支予算案について説明があった。会費収入は会員数5%減として減収で試算。事業収入は概して前年度並みを見込んでいる。山形大会の実施に際しては、山形コンベンションビューローの助成金を見込んでいる。支出は概ね前年度並みを見込むが、通信費、紙代等の価格値上げのため増加が見込まれる。管理費のうち通信運搬費にHPリニューアル費用が引き続き計上され、OA機器・システム等保守管理費は選挙システムの導入が完了したため前年度より減少との説明があった。

4号議案の会費収入に学生会員100名の入会を想定していることに対して、昨年度の入会実績について質問があった。事務局より2023年度正会員入会者157名中、学生会員128名との報告があった。また、学生バック会費は更新忘れや、更新しない懸念があるが、何か対策は考えているかとの質問に対し、亀高理事より、これまでも会費滞納者に対しては個別にメール等でのリマインド対応を行っているので、同様の対応を取りたいとの回答があった。

本議案について採決の結果、全会一致（議場42、議決権行使書28、委任状29）で承認された。

5号議案 名誉会員の選出

星副会長より、推薦候補者3名について紹介があった。

本議案について採決の結果、全会一致（議場42、議決権行使書28、委任状29）で承認された。

6号議案 運営規則の変更

中澤理事より、Island Arc Award の廃止提案とそれに伴う運営規則の変更について説明があった。当初プロモーション活動の一環として、ブラックウェル社（現ワイリー社）提供の賞金付きの賞として「日本地質学会 Island Arc賞」が創設された。ワイリー社のプロモーション活動終了に伴う賞金提供の廃止や、Island Arc掲載論文は論文賞の表彰対象となっているなど、廃止理由の説明があった。

本議案について採決の結果、全会一致（議場42、議決権行使書28、委任状29）で承認された。

以上をもって全ての審議を終了した。最後に岡田会長より、退任にあたり副会長、常務理事はじめ理事会に対する謝意が述べられ、2年間の会長職の中で、若手会員増加および会員の定着に向けた取り組みを実施し、成果が上がってきている。という趣旨の挨拶があり、その後議長は閉会を宣言した。

2024年6月8日

以上、決議を明確にするためこの議事録を作成し、議長、副議長および出席理事がこれ

に記名、押印する。

一般社団法人日本地質学会2024年度総会
総会議長 青野道夫
議事録署名人 澤田大毅
議事録署名人 松崎賢史
代表理事 岡田 誠
理事 中澤 努

2023年度事業実績概要

1. 学術大会

【京都大会】 第130年学術大会を京都大学をホスト校として2023年9月17～19日に開催した。今回は口頭発表・ポスター発表ともに現地開催とした。講演数は501件（うち口頭271件）、参加登録者数783名、巡検参加者数124名と、前回の大会を上回る件数・人数であった。また表彰式・記念講演会や地質巡検、ランチョン・夜間小集会、市民講演会、地質情報展、企業展示、地質系業界説明会等の関連イベントもコロナ禍前とほぼ同じ形で現地開催され、盛況裏に大会を終えることができた。学生優秀発表賞を今大会から新設し、123件のエントリーの中から38件を選出した。

【大会運営】 ほぼ完全な形で現地開催は4年ぶりであったが、運営方法について検討を重ね、特段の混乱もなく無事に開催することができた。今大会も演旨登録やプログラム編成にオンラインシステムを導入し、大会準備に関わる行事委員会と事務局の業務軽減に努めた。

2. 学術研究活動

【未来の学術振興構想】 地球惑星科学系最大の学会として学術発展に寄与するために、2019年度に学会主導で内閣府に提案し採択された大型研究計画（マスタープラン2020）をさらに発展させ、関連する他の学会・研究機関の協力のもと、日本学術会議「未来の学術振興構想」の「学術の中長期研究戦略」に「宇宙・地球研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築」を申請し、採択された。

【ショートコース】 2020年度にスタートしたショートコースを今年度も引き続き開催した。応力逆解析法や年代測定法、海洋鉱物資源など、最新かつニーズが高い地質学研究のトピックでショートコースを企画・開催し、会員・非会員を問わず多くの参加者を集めた（延べ264名）。

3. 出版活動

【地質学雑誌】 地質学雑誌は、2022年1月から冊子印刷・配布を廃止し、完全電子化を図った。2023年の投稿数は前年度より若干減少したものの概ね堅調に推移した。

【Island Arc誌】 Island Arc誌を継続して出版した。投稿から査読を経て受理・オンライン公開までの時間短縮に努めた。最新のIFは1.5であり、今後のさらなるIFのアップの

ために、理事を始めとし会員に広く投稿と同誌掲載論文についての積極的な引用を促すとともに、特集号等企画など種々の観点からの検討を進めた。

【ニュース誌】 ニュース誌を毎月刊行し、最近の研究動向や学会運営状況などの情報提供に努めた。また学会HPにニュース誌のPDFファイルを掲載した。会員システムを通して、ニュース誌送付の選択制を開始した。

【ジオルジュ】 公式広報誌であるジオルジュについては、より多くの市民の目に触れるようフリーペーパー化の推進を図るとともに配布地点を拡充した。同時に協賛記事の強化により経費の圧縮策を講じた。

4. 地質災害対応

【災害対応】 令和5年7月九州北部豪雨災害および令和6年能登半島地震に関して、学会HPを通じて、会員ならびに関連機関の調査等の情報を積極的に発信した。また防災学術連携体の令和6年能登半島地震1ヶ月報告会および3ヶ月報告会に学会推薦としてそれぞれ各1名、能登半島地震に関連する研究を行っている会員に講演を依頼し、地震の地質学的背景について関連分野を含めた研究者・技術者に広く情報発信した。

5. 広報・普及活動

【広報】 社会における本学会の認知度向上および新規会員獲得に資する広報活動に努めた。例年通り、学術大会についてプレスリリースを行った。また、学会HPについて、必要な情報を探しやすい、分かりやすい形で発信できるよう、ウェブデザイン刷新に向けた検討をすすめた。学会公式SNSとしてX（旧：Twitter）に加え、Instagramの活用を開始するなど、学会イベント等情報の速報性を高めた。

【フォトコンテスト】 第15回惑星地球フォトコンテストを開催し、205点の応募作品の中から優秀賞をはじめ11点の入選作品を選出した。また、第14回フォトコンテストの入選作品展示会を都内のギャラリー（東京パークスギャラリー [上野グリーンサロン内：台東区上野公園]）で2023年5月16日（火）～28日（日）に開催した。

【地学オリンピック】 地学オリンピックには地学オリンピック支援委員会を中心に継続的に支援を行っており、本年度も第17回国際地学オリンピック2024大会の予選となる第16回日本大会への開催協力を行った。第16回国際地学オリンピックはオンラインで2023年8月20～26日に実施され、32か国から172名の参加があった。日本代表の4名の高校生は全員が銀メダルを獲得した。

【地震火山地質子どもサマースクール】 地震火山地質子どもサマースクールは当学会が継続的に支援を行っている事業であり、サマースクール連合企画委員会および運営委員会における検討に参画している。今年度は第22回サマースクールin平塚の企画・運営に協力し、

8月17～18日に2日間の日程で現地開催された。また来年度は徳島県で開催する予定で、それに向けて準備をすすめた。

【地質の日】地質の日イベントとして、オンラインでの普及講演会「日本列島の地質探訪—古生代から新生代まで—」を5月13日に開催し、多数の参加者を集めた。YouTubeでの配信も行い、視聴数はこれまでに3300回を超えた(2024/3/29現在)。また、街中ジオ散歩イベントを横浜で開催したほか、惑星地球フォトコンテスト入選作品の展示会を都内ギャラリーで実施した。支部においても各地で講演会が企画・実施され、地質学の普及に努めた。

6. 社会貢献

【地質標準関係】国際層序委員会の国際年代層序表に基づき、GSSP新規策定を反映した日本語版層序表の改訂を行い、学会HPにて公開した。地質に関するJIS規格(JIS A 0204およびJIS A 0205)の改訂に向けた作業を行った。

【地質技術者関係】JABEE地球・資源分野の運営や認定プログラムの継続審査に参画し、JABEEを普及させるために、昨年度に続いてJABEEシンポジウムを開催した。また、主に企業会員向けには「土質・地質技術者の生涯学習ネット(GEO-Schooling Net)」を利用して企画する講習会・見学会の情報を提供し、参加者にCPD証明書を発行した。例年学術大会に併せて企画している業界研究サポートでは、学生のための地質系業界説明会を対面およびオンラインのそれぞれで開催し、合計47の企業・団体と104名の学生が参加した。また、就職支援プログラムとして、地質系若者のためのキャリアビジョン誌を今年度も発行した。

【ジオパーク】ジオパークについては、ジオパーク支援委員会を中心に、JGN(日本ジオパークネットワーク)およびJGC(日本ジオパーク委員会)への協力を進めたほか、新たに学術団体を中心となって組織されたジオパーク学術支援連合会(JGASU)の運営に主要学術団体として携わった。

7. 地学教育

【大学入試】令和6年度大学入学共通テスト(本試験)の地学関連科目「地学基礎」「地学」の問題を確認し、「令和6年度大学入学共通テストの地学関連科目に関する意見書」を取り纏め、大学入試センターに提出した。

【生涯学習】「ゆめ基金」助成金により小～中学生を対象として作成された教育用Web教材「ボクたちの“足もと”から地球のことを知る」を引き続き学会HPより配信するとともに、地球なんでもQ & A、街中ジオ散歩、学術大会アウトリーチ巡検、普及講演会の開催、地学オリンピックや地震火山地質こどもサマースクールの支援を通じて、青少年からシニアまで幅広い世代に地質学の学習の機会を提供した。

【ジュニアセッション】小中高校生の地質学に関連した研究成果発表を募集した結果、今年度は16校25件の応募があり、京都大会のポスターセッションに併せて現地でポスター発表が行われた。すべてのポスター発表に対して評価・コメントを行い、これらの中から優秀賞7件と奨励賞4件を選出し、表彰した。

8. 国際連携

【学術交流協定】学術交流協定を締結しているタイ地質学会、モンゴル地質学会、ロンドン地質学会、台湾地質学会との交流を継続した。2024年に韓国釜山で開催予定のIGCについては、大韓地質学会との学術交流協定に基づき2016年にサポートレターを送付し、開催へのサポートを表明していたが、2021年にIGC公式ホームページに日本側の了解を得ないまま日本国内の巡検コース案が掲載され、その巡検コース説明に日本海の不適切な呼称および韓国側の竹島巡検企画が含まれていた問題が懸案事項であった。2023年6月に発行されたIGC 2ndサーキュラーにおいてはこれら不適切な呼称および巡検企画は認められなかったが、韓国側から公式の回答が得られていないことを含め、これまでの経緯の詳細について学会HPに掲載し、広く周知した。

9. 会員サービス・学会運営

【事業運営】学会財政の見直しを踏まえた各事業の実行にあたり、事業目的の達成度と効果の確認を踏まえて各事業の健全化に努めた。また新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、行事開催にあたっては適切な対応を求め、会員・一般参加者の健康、ならびに公衆衛生に配慮した。入会者の増加と会員の定着を目指し、大学院生会費の減額などを含む新たな会員区分・会費システムを本年度分より開始した。コロナ渦収束と同時期であるため要因の検証が必要だが、今年度は大学院生の会員数がコロナ渦前の水準に回復し、会員の減少が抑制傾向にあることが確認された。学会運営の適正化を図るため規則類の整理や改定を行った。

【ダイバーシティ推進の取り組み】ジェンダーダイバーシティ委員会の助言に基づき、学会運営に携わる主要な委員会のメンバー構成についてダイバーシティの配慮に努めた。また京都大会のセッションに「ダイバーシティ認定ロゴ」を導入し、ダイバーシティ推進の見える化を実施した。若手や女性の意見を学会運営に反映させることを目的として改正した選挙規則および細則に基づき2024年度代議員および役員選挙を実施し、ダイバーシティ確保に努めた。さらに、非公式に活動していた若手有志会を発展させて新たに若手活動運営委員会を理事会のもとに設立し、若手理事等が若手会員向けの活動を主体的に企画・運営する体制を整備した。

【表彰制度の見直し】優れた研究、地質学の発展・普及等に貢献された方々を適切に評価し、学会のさらなる活性化を図ることを目的

として学会の賞制度について見直しをすすめているが、今年度から学術大会の優秀ポスター賞を廃止し、新たに口頭発表も対象とした学生優秀発表賞を設けて選考を行った。またジュニアセッション優秀賞・奨励賞の選考方法の明確化を図り、京都大会での選考に適用した。

【若手育成事業】野外調査をベースとした若手地質研究者の育成を目的とし設置した研究奨励金支給制度の募集を行い、選考の結果、該当者に奨励金を支給した。また若手の野外地質研究を対象とするフィールドワーク賞の候補者募集・選考を行い授賞した。若手支援の一環として、学術大会や支部主催の巡検の参加費の半額補助を実施した。

【会員サービス】会員に対しては、ジオフラッシュやHP、ニュース誌を通じて、さまざまな参加行事の広報を継続的に行った。試験運用中の学会公式SNSにおいても学会関連の情報発信に努めた。またショートコースの開催、企業会員へのCPD証明書の発行、学生・院生会員への就職支援プログラム等を通じて学術発表以外のメリットの増大を目指した。正会員(学生会員)の会費の2年バック・3年バックの運用、およびジュニア会員の募集を開始した。さらに、新設の若手活動運営委員会が企画した若手巡検・研究集会in北海道を実施したほか、学部学生・大学院生向けの地質系業界オンライン交流会を開催し、地質学に関わる企業・官公庁等で働く若手職員との座談会を実施した。

【会員管理システム】昨年度から構築をすすめていたクラウド版の会員管理システムを稼働させた。また会員システムに併せて選挙システムを新たに構築し、2024年度代議員および役員選挙に適用した。

【事務局体制】学会事務局について、クラウド型会員管理システムの本格運用による負担軽減を図り、業務の整理統合と効率化を進め、諸規則の整備による継続的な事務局業務の推進を実施した。

以上

2023年度事業経過報告

1. 報告事項

1) 会員の動静

2024年4月末現在の会員は、賛助会員31社、名誉会員34名、ジュニア会員5名、正会員3042名(一般:2008名、シニア:854名、学生:180名)、会員総数3112名、2023年4月末と比べて39名の減少であり、その内訳は次のとおりである。

入会者166(賛助4社、ジュニア会員5名、正会員157名)

退会者100(賛助0社、正会員100名)

除籍者88(正会員88名)

逝去者17(名誉会員5名、正会員12名)

名誉会員:鎮西清高(逝去日:2023/7/27)、坂巻幸雄(8/23)、松田時彦(10/17)、

志岐常正 (11/13), 水野篤行 (11/20),
正会員: 田野崎隆雄 (逝去日不明), 下西繁
義 (2023/1/5), 香村一夫 (4/17), 中川雅之
(4/28), 野田浩司 (7/14), 西田民雄 (8/17),
古儀君男 (11/5), 澤田武美 (12/7), 八木下
晃司 (2023年12月末頃 (逝去日不明)), 杉山
明 (2024/1/9), 平野昌繁 (1/16), 石賀裕明
(3/2)

*2023年5月から2024年4月末日までに届出の
あった方々。

2) 学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動

<2023年度定時総会>

日時: 2023年6月3日 14:00~15:45, WEB会
議形式

議決権のある社員総数 136名 (定足数: 69
名), 議決権の数 136個

出席社員数 (委任状および議決権行使書提出
者を含む) 84名,

議決権の総数 110個, 出席理事 36名, 出
席監事 2名

審議事項: 1) 2023年度事業報告・決算報告・
監査報告, 2) 2023年度事業計画, 3) 2023年
度予算案, 4) 名誉会員の選出, 5) 運営規則
および選挙規則の変更

いずれの議案も賛成多数で承認。

<委員会等の開催>

- ・執行理事会 (11回) 議事内容, 報告等につ
いては, 随時HP, ニュース誌に掲載
- ・理事会 (3回) 議事内容, 報告等につい
ては, 随時HP, ニュース誌に掲載
- ・その他委員会 (WEB会議またはメールに
よる会議を含め, 随時開催)

3) 学会の行事・事業

1. 第130年学術大会 (2023京都大会)

会期: 2023年9月17日 (日) ~19日 (火)

会場: 京都大学吉田南構内 (京都市左京区)

参加者: 783名 (会員657名, 非会員126名)

・一般発表申込: 494件 (口頭264件, ポス
ター 230件)

・シンポジウム: 1件 (S1.口頭7講演)

・アウトリーチセッション (ポスター1件)

・緊急展示ポスター (なし)

・学生優秀発表賞の授与: 39件

・巡検: 実施8コース (A,C,D,E,F,G,H,I), 中
止1コース (B)

・ランチョン: 専門部会を中心に実施11件
(9/17: 4件, 9/18: 7件)

・企業ランチョンセミナー: 1件 (9/17~19,
ブルカージャパン(株))

・夜間小集会: 実施7件 (9/18のみ)

<日本地質学会各賞の授与式・記念講演会>

日時: 9月17日 (日) 15:30-17:45, 会場:
京都大学百周年時計台記念館大ホール

9月19日 (火) 12:45-13:30, 会場: 口頭第
3会場 (4共30・吉田南4号館3F) *

*小澤儀明賞, 柵山雅則賞の受賞記念スピー
チは別日程

・来賓挨拶 平島崇男会員 (京都大学大学院
教育支援機構長)

・日本地質学会功績受賞記念講演

小山内康人会員 (九州大学名誉教授)

「高度変成岩類の解析による大陸成長・進化
プロセスの解明」

佐藤比呂志会員 (東京大学地震研究所/静岡
大学防災総合センター)

「日本列島の活断層—震源断層システムを
探る」

・日本地質学会学会賞受賞記念講演

道林克禎会員 (名古屋大学大学院環境学研
究科)

「マントル地質学~惑星探査みたいなフィー
ルドサイエンス~」

・日本地質学会小澤儀明賞受賞スピー
チ (9/19 (火) に開催)

沢田 輝会員 (富山大学・海洋研究開発機
構)

「大陸地殻成長研究と地質学の成長」

・日本地質学会柵山雅則賞受賞スピー
チ (都合により中止)

大柳良介会員 (国士舘大学理工学部)

「地球内部でおこる反応輸送現象の理解に
向けて」

<関連行事>

・地質情報展2023きょうと—地質を知って
まもる古都の未来, 9月16日 (土) ~18日
(月・祝), 参加者: 約800名

・市民講演会「京都とその周辺の地震」, 9月
17日 (日), 講師: 飯尾能久 (京都大学名
誉教授 阿武山地震・防災サイエンスミ
ュージウム理事長), 小松原 琢 (琵琶湖博
物館特別研究員), 参加者: 約50名

・第21回日本地質学会ジュニアセッション
(ポスター発表による審査), 9月17日 (日),
参加校16校, 25件, うち7件に優秀賞を, 4
件に奨励賞を授与。

・学生のための地質系業界説明会 (地質技術
者教育委員会企画): 参加企業: 47社。

対面説明会 (京都大学), 9月18日 (月), 参
加企業32社, 27大学から78名の参加。

オンライン説明会 (zoom), 9月22日 (金),
参加企業35社, 15大学から26名の参加。

・学生・若手のための交流会 (若手活動運営
委員会企画)

現地交流会 (京都大学), 9月18日 (月), 参
加者72名

2. 地質の日ほか, 本部イベント

・地質の日オンライン一般講演会, 5月13日
(土) 9:30-12:05, YouTubeによるライブ配
信。

講師: (講演1) 高橋司館長・榊山匠学芸員
(四国西予ジオミュージアム), (講演2) 岩本
直哉主任学芸員・上田脩郎主任学芸員 (銚子
ジオパークミュージアム), (講演3) 小河原
孝彦学芸員・香取拓馬学芸員・茨木洋介学芸
員・郡山鈴夏学芸員 (糸魚川フォッサマグナ
ミュージアム), 当日視聴者数238名 (配信中
の最多視聴者数)。

・街中ジオ散歩ミニ in Yokohama「身近な
地形・地質から探る横浜の歴史」徒歩見学
会 (日本応用地質学会との合同主催行事),
5月14日 (日), 参加者18名, 講師: 笠間友
博 (箱根ジオパーク推進協議会事務局)

・惑星地球フォトコンテスト第14回ほか入賞
作品巡回展示 (2023年4月~2024年3月)

東京パークスギャラリー (上野グリーンサロ
ン内, 台東区上野公園), 5月16日 (火) ~28
(日) [第13・14回入選作品]

地質情報展2023きょうと—地質を知ってまも
る古都の未来—, 9月16日 (土) ~18日 (月・
祝) [第14回入選作品, 入選作品の画像ファ
イルを再生]

蒲郡生命の海科学館, 2023/12/2 (土) ~4/7
(日) [第14回入選作品]

3. ショートコース (オンライン形式)

・第8回ショートコース, 7月2日 (日), 受
講申込者数: 90名

講師: <午前>平田岳史 (東京大学), <午後>
竹内 誠 (名古屋大学)

・第9回ショートコース, 10月22日 (日),
受講申込者数: 58名

講師: <午前>佐藤活志 (京都大学), <午後>
大坪 誠 (産総研・地質調査総合センター)

・第10回 ショートコース, 2024年2月25日
(日), 受講申込者数: 49名

講師: <午前>中村謙太郎 (東京大学), <午
後>町田嗣樹 (千葉工業大学)

4. その他: オンライン形式のシンポジウ ム・ワークショップ

・地質系業界オンライン交流会 (若手活動運
営委員会企画) 2024年2月16日 (金),
19:00~21:00, 参加者43名

・第4回JABEEオンラインシンポジウム「大
学縮小危機のなかで, 社会の要求にどのよ
うに 대응するか~JABEEを活用した技術者
の育成と輩出~」(地質技術者教育委員会
企画), 2024年3月3日 (日), 13:30~17:20,
zoom・YouTubeでの後日配信, 講演者:
竹内真司 (日本大学), 坂口有人 (山口大
学) / 田中和広 (同大学名誉教授 (元理
事・副学長), 林広樹 (鳥根大学), 藤代祥
子 (日特建設 (株)), 小俣雅志 ((株) パ
スコ), 津野洋美 (応用地質 (株)) 参加者
約89名。

5. Web教材『ボクたちの“足もと”から地球 のことを知ろう』の利用実績

・教材URLへのアクセス数 (2023年度):
22,478件

6. 地質学者に答えてもらおう (2012年3月 ~運用開始)

2023年度内の質問数28件。これまでの質問
の主なものとその答えは学会HPにて公開中。

4) 出版物の刊行

<地質学雑誌>

・129巻1号～130巻1号を刊行した。2023年4月～2024年3月末までの総ページ数は489ページ。

<日本地質学会ニュース>

・26巻4号(2023年4月)～27巻3号(2024年3月)を発行した。総ページ数は352ページ。

<Island Arc>

・Island Arc 編集委員会の編集により、Wiley社よりVol.32, Issue 1～Vol.33, Issue 1を刊行した。2023年4月～2024年3月末までの総ページ数は643ページ。

<ジオルジュ>

・前期号(2023年5月, 20ページ), 後期号(同年11月, 20ページ)を発行。

<その他>

・「地質系若者のためのキャリアビジョン誌2023」2023年12月。フルカラー118p(99社掲載), 3000部発行。配布先: 大学および附属研究機関等53件。

・「下敷き: 干渉色図表・偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」2023年12月増刷(1500枚)。

5) 関連外部委員会への協力

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員。継続してそれぞれの活動、関連学会の発展と連携に協力した。

日本地球惑星科学連合: 代議員(岡田誠), 連絡委員(亀高正男), プログラム委員(松崎賢史, 宇野正起), ダイバーシティ推進委員会(堀利栄), 環境・災害対応委員会-災害の委員(川畑大作), 環境・災害対応委員会-環境の委員(小荒井衛), 自然史学会連合(兼子尚知), 土質・地質技術者生涯学習協議会(CPD)(佐々木和彦), JABEE担当委員(竹内真司), 地球・資源分野JABEE委員(佐々木和彦, 金川久一, 坂口有人, 細矢卓志, 亀高正男), 地質の日事業推進委員会(委員長: 平田大二), 日本ジオパーク学術支援連合(JGASU): 委員・代表(天野一男), (NPO) 地学オリンピック日本委員会広報小委員会(坂口有人), 地震火山地質子どもサマースクール運営委員(柴田伊廣), 防災学術連携体連携委員(中澤努(常務理事), 松田達生(地質災害委員長))など。

6) その他報告事項(主に他学協会との共催・後援, 協賛行事など, 開催時期に関わらず2023年度内において承認したもの) ※そのほかはNews誌, HPに掲載の執行理事会議事録, 理事会議事録参照。

<他学協会などからの依頼>

・日本粘土学会「第66回粘土科学討論会」(9/12-13, 仙台市戦災復興記念館)の後援。

・新潟大学旭町学術資料展示館企画展「みんなの石」(7/19-8/31, あさひまち展示館)の後援。

・日本学術会議地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会公開シンポジウム「オープンサイエンス時代における学術データ・学術資料の保存・保管, 共有問題の現状と将来」(8/20オンライン)の後援。

・地学オリンピック日本委員会「2023年度地学オリンピック」への活動支援への協賛。

・地学オリンピック日本委員会オンラインシンポジウム「地学オリンピックと学校教育のこれから」(8/6)の後援。

・社会地質学会「第33回環境地質学シンポジウム」(11/24-25, 日本大学文理学部, ハイブリッド開催)の後援。

・こどものためのジオ・カーニバル企画委員会「第23回こどものためのジオ・カーニバル」(11/4-5, 大阪市立自然史博物館)の後援。

・「The 19th International Conference on Thermochronology (Thermo2025), 第19回国際熱年代会議」(2025/9/14-19, 金沢)の共催。

・石油技術協会令和5年度秋季講演会(11/8, 東京大学小柴ホール)の協賛。

・第61回アイソトープ・放射線研究発表会(2024/7/3-5, 日本科学未来館)の後援。

・蒲郡生命の海科学館「第14回惑星地球フォトコンテスト入選作品展」(2022/12/2-3/3, 後日4/7まで展示期間延長依頼あり)の共催。

・第39回ゼオライト研究発表会(11/30-12/1, タワーホール堀留(東京都江戸川区))の協賛。

・日本応用地質学会「令和5年度技術者倫理講習会」(2024/1/16, オンライン)の後援。

・日本学術会議「原子力総合シンポジウム2023」(2024/1/22, 学術会議講堂・オンライン)の後援。

・産経新聞「地盤技術フォーラム2024」(2024/9/18-20, 東京ビックサイト)への協賛。

・糸魚川ジオパーク協議会ジオパーク巡回展「地球時間の旅」(2024/3/2-2026/3/31, 全国のジオパーク拠点施設及び博物館(全30会場程度)を巡回予定)の後援。

・筑波大学朝永振一郎記念第19回「科学の芽」賞の後援(作品募集期間: 2024/8/19-9/17)。

・三浦半島活断層調査会観察会地質の日記念地層見学会「深海から生まれた城ヶ島」(2024/6/2)の後援。

・科学教育研究協議会「第70回全国研究大会・いわて花巻大会」(2024/8/7-9, 花巻中学校, 若葉小学校, 花巻市文化会館)の後援。

・日本科学技術振興財団「青少年のための科学の祭典2024」(2024/6/8-25/1/26, 全国各地30都道府県44会場)の後援。

<他学協会などへ依頼>

・第14回惑星地球フォトコンテストについて, 後援および協賛を依頼し承諾された。()は後援および協賛金。

後援: 日本ジオパークネットワーク(3万円), 深田研ジオ鉄普及委員会(1万円)

協賛: 株式会社ウィンディーネットワーク

(5万円)

・第131年学術大会(山形大会)の2つのトピックセッションについて, 共催を依頼し承諾された。

「T13. 堆積地質学の最新研究」: 日本堆積学会, 日本有機地球化学会, 石油技術協会探鉱技術委員会との共催。

・山形大学に対して, 山形大会への後援を申請し承認された。

7) 支部の活動

<北海道支部>

1. 支部例会・総会: 5/13(土)オンライン(ZOOM会議)にて総会を開催。6/17(土)北大理学部大講堂にて2023年度支部例会(個人講演会・招待講演会)を開催。

2. 幹事会: 3/1(金)オンライン開催, ほかメール会議。

3. 行事:

1) 『ライマン来道150周年・2023年度「地質の日」記念講演会』(5/27(土), 北海道大学総合博物館)。記念展示はなし。

2) 北海道地質百選検討グループ

・グループ構成員: 石井正之, 垣原康之, 重野聖之, 田近淳, 中川充, 宮坂省吾
・ウェブサイト運用: 北海道地質百選をウェブサイトで公開している。PC故障につき更新停滞中。

・「北海道自然探検 ジオサイト107の旅」出版および印税収入: 2023年度売り上げ53冊(出版以来の総売り上げ1,875冊)。

3) 巡検関係: 8/18(金)-19(土)「神居古潭巡検」を実施。参加者10名。

4) ジオパーク関係: 学術支援連合の会合への参加等, ジオパーク支援に関する活動を実施。

<東北支部>

1. 東北支部2023年度研究発表会・講演会・総会(2024/3/16(土), 福島大学共生システム理工学類・後援募金記念棟), 参加者16名。

1) 研究発表(口頭発表), 発表数9件。

2) 講演会「福島第一原発の地質・地下水と汚染水問題」(講師)柴崎直明会員

3) 支部総会: ①2023年度活動報告。2023年度活動会計報告。③2024年度東北支部活動案。

④2024年山形大会について(準備状況等の報告)。

2. 役員交代: 支部長: 本山 功会員(山形大学), 会計担当: 岩田尚能会員(山形大学)

<関東支部>

1. 支部総会(4/9(日), 大田区産業プラザPiO特別会議室, ハイブリッド形式での実施)。出席者数156名(会場19名, オンライン18名, 議決権行使書30名, 委任状89名), 議長: 緒方信一会員(中央開発(株))

2. 定例幹事会(オンラインかハイブリッド形式で月1回程度の間隔で開催)。4/18, 5/12, 6/23, 7/18, 8/31, 9/27, 10/24, 11/27, 12/26, 2024/1/24, 2/26, 3/14,

4/11.

3. 行事

①巡検

・アウトリーチ巡検「安房鴨川海岸の地質・地形観察」, 2024/2/18 (日), 事前申込制, 参加費2,000円, 参加者22名, 講師: 高橋直樹会員 (千葉県立中央博物館)

②学生・若手会員向けの実習・巡検

・学生・初級者向け「地質断面図」の書き方講座—布良海岸巡検—, 館山市布良海岸野外地質調査 (5/27 (土)), 地質断面図の作成作業 (5/28 (日), 北とびあ会議室), 事前申込制, 参加費: 学生6,000円, 一般10,000円, 参加者1名 (学生)

③講演会・シンポジウムなど (ハイブリッド形式)

・総会講演会, 4/9 (日) 14:00-16:45, 大田区産業プラザPiO 3階特別会議室, 共催: 一般社団法人関東地質調査業協会, 参加費無料, 事前申込制, 参加者: 65名 (会場21名, オンライン44名), 講師: 宇根 寛氏 (元国土地理院中央開発 (株)), 「Web地図を活用して災害リスクを理解する」

・サイエンスカフェ「リアル! 南極フィールドワーク!」, 5/14 (日) 15:00-16:45, ベルギービール アグリオ, 参加費: 1500円 +1ドリンク, 事前申込制, 参加者21名, ファシリテータ: 岡山悠子氏 (科博SCA), 講師: 菅沼悠介会員 (国立極地研究所)

・講演会「県の石—埼玉の岩石・鉱物・化石—」, 講演会後に埼玉県の岩石・鉱物・化石の見学 (展示室および野外) 7/8 (土) 13:00-16:00, 埼玉県立自然の博物館, 事前申込制, 参加費: 現地, 観覧料および保険料100円, オンライン, 無料, 参加者: 81名 (現地52名, オンライン29名), 講師: 本間岳史会員 (元埼玉県立自然の博物館), 「秩父青石の利用と宮澤賢治・保阪嘉内が歌に詠んだ岩石鉱物」, 北川博道氏 (埼玉県立川口の博物館), 「県立自然の博物館の世界—のPaleoパラドキシア化石コレクションとその研究」

・県の石—千葉の岩石・鉱物・化石—講演会, 2024/1/14 (日) 13:00-16:00, 千葉県立中央博物館講堂, 事前申込制, 参加費: 現地, 資料代300円, オンライン, 無料, 参加者数: 94名 (現地42名, オンライン52名), 講師: 高橋直樹会員 (千葉県立中央博物館), 「明治の近代化を支えた石材—房州石」, 門馬綱一氏 (国立科学博物館), 「天然ガスを含む鉱物—千葉石」, 伊左治鎮司氏 (千葉県立中央博物館) 「下総層群木下層の堆積環境と“木下貝層”の貝化石について」

④大正関東地震100年関連行事 (日本地質学会地質災害委員会と連携)

・講演会「関東地震から100年」, 後援: 一般社団法人関東地質調査業協会, 9/30 (土) 13:30-16:10, オンライン形式, 事前申込制, 参加費: 無料, 参加者: 80名, 講師: 井上公夫氏 (一般財団法人砂防フロンティア整

備推進機構), 「関東大震災と土砂災害」, 石渡明会員 (元地質学会会長・原子力規制委員会), 「将来の関東地震・南海トラフ地震と地震西進系列」

・震生湖巡検, 12/2 (土) 10:00-16:00頃, 事前申込制, 会費: 2000円, 参加者14名,

講師: 千木良雅弘会員 (深田地質研究所理事長), 笠間友博会員 (箱根ジオパーク推進室)

4. 支部顕彰 (支部功労賞選考委員長 山崎晴雄): 支部功労賞2件. 次の団体・個人に授与した. 那須野が原博物館, 米澤正弘会員

5. 幹事選挙: 関東支部選挙管理委員会 (委員長, 入野寛彦; 委員: 亀高正男, 河村知徳) による2024年度関東支部幹事選挙を実施.

<中部支部>

1. 2023年中部支部年会は信州大学松本キャンパスで以下のイベントを開催した.

①支部総会・幹事会, 研究発表会など (6/24 (土))

・中部支部総会: 2022年度活動報告, 次年度開催県 (富山県) の決定

(出席者7名, 議決権行使18名, 委任状14名)

・支部幹事会: 中部支部での巡検の実施方法などを検討 (出席者7名)

・シンポジウム: 「西南日本の白亜紀花崗岩類」 (参加者50名)

・個人講演 (ポスター): 発表者10数件

②巡検 (6/25 (日))

・大峰帯第四系と爺ヶ岳—白沢天狗カルデラ—黒部川花崗岩 (案内者: 吉田孝紀会員, 原山智会員, 参加者18名)

<近畿支部>

1. 地球科学講演会「日本海拡大時の日本列島の変動—地質と古地磁気の研究からどこまでわかっているか—」, 5/14 (日) 14:00-16:00, 大阪市立自然史博物館ホール・ハイブリッド開催, 会場聴講104名, オンライン聴講175名, 見逃し配信聴講1940名 (6/24まで実施). 講師: 星博幸会員 (愛知教育大学), 共催 大阪市立自然史博物館・地学団体研究会大阪支部

<四国支部>

1. 2023年度日本地質学会四国支部講演会・総会, 12/2 (土), 会場: 高知大学海洋コア国際研究所セミナー室, 講演会参加者62名, 【特別講演】 1件. 講師: 廣瀬大洋会員 (海洋研究開発機構高知コア研究所)

【一般講演】 口頭: 8件, ポスター: 18件. 学生賞: 計6件 (優秀講演賞〔口頭発表〕2件, 優秀ポスター賞4件), CPD単位発行: 1名

【支部総会】 総会参加者 (四国の地質学会会員): 約30名. ①2023年度決算, ②2024年度予算が承認された.

2. 役員交代: 支部長: 寺林優会員 (香川大学), 代表幹事・事務局長: 安間了会員 (徳島大学)

<西日本支部>

1. 「地質の日」企画『身近に知る「くまもとの大地」』 (共催), 5/21 (日), 熊本博物館, 来場者数400名以上.

2. 山陰海岸ジオパーク ジオパークの日記念 鳥取大学×鳥取県イベント「岩石から地球のヒミツを探る」 (後援), 8/19 (土), 鳥取大学広報センター CDL, 主催: 鳥取大学, 共催: 鳥取県・山陰海岸ジオパーク推進協議会, 参加者44名.

3. 山口大学理学部「サイエンスワールド2023 ~おいでよ! 科学の世界~」 (後援), 10/29 (日), 山口大学吉田キャンパス, 全30件の企画, 参加者833名.

4. 西日本支部令和5年度総会・第174回例会, 2024/3/4 (土), 薩摩川内市SSプラザせんだい, 参加者57名.

2. 執行理事会および理事会議決・承認事項

1) 理事会議長・副議長の選出

議長: 小松原純子, 副議長: 大橋聖和

2) IGC2024に関する会長メッセージを会員向けに公開した (7/24付).

3) 地質学雑誌の体裁等の変更を承認. ①文献欄の文字サイズを8から6ポイント程度に小さくする. ②コンプライアンス文章を論文末尾から削除し, J-STAGE地質学雑誌トップページへ掲載する. ③別枠の日本語要旨を論文末から冒頭に掲載する.

4) 地質学会News誌の送本について, 冊子内容のWEB公開の現状と経費削減を鑑み, 『送付不要』の選択も可能とし, 希望制とした.

5) 選挙管理委員会の選出: 2024年度代議員および役員選挙の選挙管理委員の承認. 委員長は互選. 委員氏名: 金澤直人 (委員長), 中里裕臣, 山口直文, 川上源太郎, 河村知徳.

6) 若手事業運営委員会の委員について, 副委員長 (1名) の推薦と新たに3名の委員追加を承認. 副委員長: 桑野太輔. 追加委員: 谷元瞭太, 柴田翔平, 高橋瑞季.

7) 委員会規則について, 総務委員会規則 (案) と地質技術者教育委員会規則 (案) を承認.

8) 地質技術者教育委員会委員の任期について, 現委員を2024年総会まで (任期1年) の再任を承認. 2024年度以降は他の委員会の委員任期に合わせることにする.

9) 定款・規則類の整理について, 規則等の管理者は総務委員会とし, 事業部に属する委員会, 活動度の高い委員会等の規則を優先して整備する. 各支部の規則整備は, 各支部の事情・意向を踏まえて, 適宜相談しつつ進める.

10) 巡検案内書ワーキンググループを設置した. (メンバー: 亀井淳志, 亀尾浩司, 里口保文, 山崎 誠, 小松俊文, 高嶋礼詩, 小宮剛, 松田達生, 杉田律子)

11) 巡検案地質JIS原案作成委員会委員として, 磯崎行雄前会長を推薦することとした.

12) 学術大会の保育料補助について, 基本保育料の60% (上限8,500円/日) を補助することとした.

13) 若手人材動向調査について, 地質系の若者の動向を知る上での基礎データとなるの

で、今後も継続して調査することとする。

14) ジュニアセッションの優秀賞・奨励賞の選考について、選考基準が明瞭に規定されていなかったが、表彰制度検討WGにより、フィールドワークの有無に関係なく得点順に優秀賞(上位20%)、奨励賞(優秀賞を除く上位25%)を目安に授与することとした。

15) 10月開催のジオパーク会議において、地質の日オンライン一般講演会(5月に実施)の有効性について報告することを承認。

16) 干渉色図表・偏光顕微鏡による鉱物鑑定表の下敷きの増刷について、1500枚の増刷を承認。原材料費高騰のため販売価格の改定(会員300円、非会員400円)も承認した。

17) 京都大会からインスタグラムの運用を開始した。

18) 地球惑星連合の2024年プログラム委員の推薦:(正)松崎賢史/(副)宇野正起

19) 海洋地質部会長、構造地質部会長より、執行理事会あてに各賞選考に関する質問状があり、回答した。各質問内容と回答は次の通り。

①今後選考結果の通知(落選の場合)行う予定があるか:推薦者には結果のみ簡潔に通知する方向で検討する。

②落選理由を推薦者に開示する予定はあるか:落選理由の開示はこれまで同様行わない。

③選考プロセスの透明性と公平性のための取り組みは行われているか:各賞選考規則第18条に則り、各賞選考委員会には「選考過程」を文書で理事会へ報告いただく。

20) 山形大会での「学生・若手のための交流会」開催について、若手活動運営委員会より大会前日に開催したいとの要望を受け、学術大会の企画の一部として前日開催を承認。

21) 行事委員の交代:(堆積地質部会選出委員)野田篤会員(産総研)→足立奈津子会員(大阪公立大学)へ交代。

22) 経済産業省資源エネルギー庁より、総合資源エネルギー調査会臨時委員の推薦依頼があり、会員1名を推薦した。

23) 地球・資源分野JABEE委員会より次期(2024.2025年度)運営委員および監事の推薦依頼に対し、地質学会から現委員の5名(委員4名、監事1名)を推薦した。

24) 地質技術者教育委員会より提案の「第4回JABEEシンポジウム」開催を承認。

25) 山形大会の巡検コース案(計8コース)を承認。プレ、ポスト日程、アウトリーチ巡検も含む。

26) 2025年以降の学術大会開催地は次の通り。

2025年 西日本支部:(会期)2025年9月14日(日)~16(火)、熊本大学(実行委員長:松田博貴,事務局:(主)小松俊文,(副)田中源吾,巡検担当:湯口貴史)

2026年 中部支部:金沢大学,会期等の詳細は未定。

2027年 関東支部を予定。

27) 2024年度総会の日程:2024年6月8日

(土)、オンラインで実施することを承認。

28) 研究奨励金規則の一部改正を承認。使用期限に関する条文を第10条として追加。(成果報告)の条文を第11条とし、以降の条文番号を順に下げる。

(使用期間の延長)第10条

被支給者は、病気・怪我、出産・育休等、やむを得ない事由で研究を中断せざるを得ない場合、執行理事会に延長願いを提出し承認を受けることで、使用期間を最大2年間延長することができる。

29) 名誉会員推薦委員会委員の選出を承認。委員長(星副会長:1名)、執行理事会選出の各階層(官公庁、小中高教員、会社、大学)別委員(4名)、職責委員(各支部長7名)、理事会推薦の委員(1名)、合計13名の委員を選出。

30) 名誉会員推薦申し合わせ事項の一部改正と申し合わせの名称変更を承認。①推薦プール制の削除と再推薦を妨げないことの追記。②項目名「名誉会員の資格」を「名誉会員の推薦」に修正。③「日本地質学会名誉会員の制度とのあり方と選考プロセスに関する申し合わせ」の名称を「日本地質学会名誉会員の選考に関する申し合わせ」に変更。

31) 各種委員会委員追加、再任の承認。→委員会一覧は学会HPを参照。

①地質学雑誌編集委員会(委員の追加):大友幸子会員(分野:文化地質)、任期:2023年12月9日-2024年6月総会まで。

②Island Arc編集委員会(委員長の再任):2023年12月末編集委員長任期(4年)満了につき、現編集委員長2名(狩野彰宏・辻森樹)を再任。任期:2024年1月-2027年12月末。

32) 外部監事(4年任期)の候補者について、現監事の山本正司氏(司法書士山本正司事務所)を推薦することとした。

33) 各賞選考委員会の下に各賞選考検討委員会を設置し(委員は、前、現会長、執行理事会より推薦された8名の委員により構成)、功績賞、都城秋徳賞、H.E.ナウマン賞、小澤儀明賞、欄山雅則賞の諮問をした。

・Island Arc賞については、Island Arc編集委員会に選考を諮問した。

34) 各賞選考委員会の「選考過程」について、理事会への報告事項は次の通りとする。

①選考過程における「会議の開催方法」「議論の進め方」「会議の開催日時、委員長名、出席者数」を理事会へ報告する(選考後2年間は委員名を公表しない)。

②選考結果については、これまで同様「受賞候補者名」「対象研究テーマまたは対象論文」「推薦理由」を報告する。

35) 選挙開票立会人として、坂田健太郎会員(産総研)、山内彩華会員(山口大学)を選出。

36) 防災学術連携体「令和6年能登半島地震・1ヶ月報告会」(2024/1/31(水)オンライン開催)について、地質学会からは岡村行信会員(産総研)を発表者として推薦し登録した。発表タイトル「能登半島周辺海域の活断

層」。

37) 2024年の「地質の日」に、オンライン一般講演会の実施(2024/5/12(日))を決定。講師:穴倉正展会員(産総研地質調査総合センター)、卜部厚志会員(新潟大学災害・復興科学研究所)

38) 街中ジオ散歩を2024/5/19(日)に開催することとした(東京都港区麻布(有栖川宮記念公園~麻布十番駅付近)。案内者:宮越昭暢氏(産総研)、林武司氏(秋田大学)。

39) 若手活動運営委員会より地質系業界オンライン交流会(2024年2月16日(金)開催)の企画提案があり、承認。

40) 地質技術者教育委員会より、「2022年度卒業生・修了生対象 地質系若手人材動向調査結果」をNews誌1月号に掲載した。

41) オンライン選挙システムについて、今年度実施の2024年度代議員および役員選挙から運用を開始した。正・副会長立候補意思表明者にたいする意向調査(12月13日~2024年1月10日まで)を実施したが、調査結果(総投票数)が思わしくなく、理事会から選挙管理委員会へ要請し意向調査期間を2024年2月7日(17時締切)まで期間延長した。会員への情報周知の方策を工夫する必要がある。

※10月23日からオンライン選挙システムの本運用(代議員立候補受付)を開始。代議員選挙は全国区、地方支部区ともに無投票当選となり、投票は行われなかった。

42) 2024年度山田科学財団研究助成について、2件の推薦を承認。

43) 科学技術振興機構(JST)「J-STAGE中長期戦略(改定)」に関する意見募集について、会員にたいしてメルマガで意見募集をおこない、取りまとめて回答した。画像PDFのテキスト化、検索機能の向上を求めた。

44) 能登半島地震に対する本学会の対応について、山形大会での地震関連シンポ、セッション等を開催する。トピックセッション世話人:石山達也会員(東京大)、山崎新太郎会員(京都大)に依頼。

45) 第15回惑星地球フォトコンテストの審査結果(応募総数208点):最優秀賞該当なし。優秀賞2点、ジオパーク賞1点、日本地質学会賞1点、ジオ鉄賞1点、スマホ賞1点、大学生・大学院生賞1点、入選4点、佳作8点を選出。

46) 大学入試センターにたいし「令和6年度大学入試共通テストの地学関連科目に関する意見書(2024/3/29付)」を提出。

47) 若手活動運営委員会主催の巡検企画(中部地方、日帰りバス巡検を計画)の提案があり、学生会員への参加費補助対象の巡検として承認。

48) ジオパーク支援委員会より提案の「大地と人の物語~地質学で読み解く日本の伝承~(仮)」の出版企画を承認。日本地質学会編とし、150ページ、オールカラー。初刷3000部を予定。電子出版も計画。ジオパーク支援委員会や企画出版委員会で編集委員会

を組織する。編集委員長は野村律夫会員。
49) 次の107名の会員を永年会員として顕彰することとした。

70年顕彰者：4名（1953年度入会者：2023年度会費まで納入済）石井良治・加藤定男・武井暁朔・山崎 允

60年顕彰者：5名（1963年度入会者：2023年度会費まで納入済）小池春夫・滝沢文教・戸野聡・平野英雄・吉田 勝

50年顕彰者：40名（1973年度入会者：2023年度会費まで納入済）相田喜久夫・天野一男・井内美郎・打江 進・岡中正秀・小田康則・角和善隆・我謝昌一・加戸敬亮・加藤真人・鹿野和彦・栗原俊己・黒田登美雄・酒井彰・坂本正夫・坂本 満・穴戸俊夫・嶋崎統五・清水岩夫・下平眞樹・菅谷政司・田切美智雄・竹内 章・田中俊廣・佃 栄吉・中川重紀・中原伸幸・長峰 智・中山 健・成田賢・西山忠男・廣井美邦・深沢徳明・堀江一教・三宅康幸・宮坂省吾・宮崎精介・宮田雄一郎・米澤正弘・渡辺拓美

40年顕彰者：58名（1983年度入会者：2023年度会費まで納入済）伊藤順一・今村哲己・江崎洋一・江間 学・大内一男・大曾根 修・大藤智明・岡野裕一・乙藤洋一郎・角縁進・加藤 徹・加藤幸弘・狩野彰宏・亀山正義・城井浩介・北沢久和・木原茂樹・倉本真一・小出和正・上阪佳史・此松昌彦・今野隆彦・五月女 寛・坂井敬一・坂井 充・佐脇貴幸・清水 智・瀬戸浩二・高見智之・滝本俊明・竹内圭史・竹内 誠・竹之内 耕・蓼本英史・田中 淳・田中竹延・寺井邦久・寺林 優・鳥居直也・中里裕臣・中野 俊・兒子修司・野坂俊夫・原 光宏・原澤宏和・備前貴俊・福地龍郎・布施圭介・星住英夫・本間直樹・班目芳光・松本和彦・松本茂喜・三田村宗樹・三戸 望・宮坂 晃・村松 武・茂庭隆彦

50) 研究奨励金選考委員会より、2023年度研究奨励金支給対象者の報告があり承認。次の6名の会員に支給する。

吉本剛瑠（神戸大学）、都丸大河（東北大学）、小坂日奈子（茨城大学）、小西拓海（茨城大学）、三村匠海（秋田大学）、金指由維（弘前大学）

51) 2023年度事業実績報告・決算案を承認した。【1号議案】

52) 2023年度事業計画および2024年度予算案を承認した。【3号議案、4号議案】

53) 名誉会員推薦委員会から候補者として提案された、加藤碩一会員、狩野謙一会員、鳥海光弘会員を総会に推挙することとした。【5号議案】

54) Island Arc Awardの廃止とそれに伴う運営規則の変更を承認。【6号議案】

55) Island Arc編集委員会委員の追加を承認。長谷川卓会員（金沢大学、専門：古生物）、任期は2024年6月総会まで。

56) 各賞選考委員会より提案された下記の各賞授賞者を承認した。（授賞理由は1号議案資料2参照）

・日本地質学会都城秋穂賞（1件）

Gregory F. Moore（アメリカ・ハワイ大学）
対象研究テーマ：南海トラフ周辺における地質構造の三次元イメージング研究

・日本地質学会H.E.ナウマン賞（1件）

岡本 敦（東北大学大学院環境科学研究科）
対象研究テーマ：岩石組織に基づく地殻・マントルにおける岩石-水相互作用のダイナミクスの解説

・日本地質学会小澤儀明賞（1件）

羽田裕貴（産業技術総合研究所）
対象研究テーマ：鮮新-更新統の超高時間分解能解析による北西太平洋古海洋・古地磁気変動の研究

・日本地質学会柵山雅則賞（1件）

奥田花也（海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門）

対象研究テーマ：沈み込みプレート境界断層の統合的すべり挙動の研究

・Island Arc Award（1件）

対象論文：Sawaki, Y., Asanuma, H., Abe, M., Hirata T., 2020, U-Pb ages of granitoids around the Kofu basin: Implications for the Neogene geotectonic evolution of the South Fossa Magna region, central Japan. *Island Arc*. 29. e12361.

・日本地質学会論文賞（1件）

対象論文：Nakajima, T., Sakai, H., Iwano, H., Danhara, T., & Hirata, T., 2020, Northward cooling of the Kuncha nappe and downward heating of the Lesser Himalayan autochthon distributed to the south of Mt. Annapurna, western central Nepal. *Island Arc*. 29. e12349.

・日本地質学会小藤文次郎賞（1件）

岡本 敦（東北大学大学院環境科学研究科）
対象論文：Okamoto, A., Oyanagi, R., Yoshida, K., Uno, M., Shimizu, H., Satish-Kumar, M., 2021, Rupture of wet mantle wedge by self-promoting carbonation. *Communications Earth & Environment*, 2, 151.

・日本地質学会地質学雑誌特別賞（1件）

対象論文：牛丸健太郎・山路 敦, 2020, 天草下島北部の中新世貫入岩体の方向と応力解析. *地質学雑誌*, 126 (11), 631-638.

・日本地質学会研究奨励賞（5件）

福島 諒（東北大学大学院理学研究科）

対象論文：Fukushima, R., Tsujimori, T., Aoki, S., and Aoki, K., 2021, Trace-element zoning patterns in porphyroblastic garnets in low-T eclogites: Parameter optimization of the diffusion-limited REE-uptake model. *Island Arc*, 30, e12394.

木下英樹（京都大学大学院理学研究科、応用地質株式会社）

対象論文：Kinoshita, H. and Yamaji, A., 2021, Arc-parallel extension in preparation of the rotation of southwest Japan: Tectonostratigraphy and structures of the Lower Miocene Ichishi Group. *Island Arc*, 30, e12418.

武藤 俊（産業総合研究所地質情報研究部門）
対象論文：Muto, S., Takahashi, S., & Yamakita, S., 2023, Elevated sedimentation of clastic matter in pelagic Panthalassa during the early Olenekian. *Island Arc*, 32, e12485.

渡部将太（茨城大学大学院理工学研究科）

対象論文：渡部将太・長谷川 健・小畑直也・豊田 新・今山武志, 2023, 福島県南部、二岐山火山の噴火史とマグマ供給系. *地質学雑誌*, 129 (1), 307-324.

吉田 聡会員（東北大学東北アジア研究センター）

対象論文：Yoshida, S., Ishikawa, A., Aoki, S., and Komiya, T., 2021, Occurrence and chemical composition of the Eoarchean carbonate rocks of the Nulliak supracrustal rocks in the Saglek Block of northeastern Labrador, Canada. *Island Arc*, 30, e12381.

・日本地質学会表彰（1件）

夏原信義氏（夏原技研）

表彰業績：実験装置の開発・製作による地質学への貢献

※学会賞、功績賞、フィールドワーク賞はいずれも該当なし。

57) 6月8日開催予定の総会議案の承認。

58) 一般社団法人国土デジタル情報研究所地質地盤情報の活用と法整備を考える会より、法人設立と会員継続（協力会員）の依頼があり、これを承認。

59) 宝石学会50周年行事（2024年7月14日、東京・上野）に關しての祝辞依頼を受け、地質学会から祝辞を贈ることとした。

60) 日本応用地質学会と共同開催で運営の『地質の日イベント「街中ジオ散歩」』について、協同開催に関する協定書を取り交わした。

61) 関東支部主催の城ヶ島巡検（2024/6/8（土）-9（日））および清澄フィールドキャンプ（2024/8/19（月）-24（土））について、学生会員への参加費補助適用の申請があり、承認。

62) 2023年度内にご寄付いただいた方は次の通り（敬称略）。謹んで篤志を受けることとした。磯崎行雄。

2024年度事業計画骨子

地球惑星科学系の中では国内最大規模を誇る学会として、地質学および関連学問分野の進化・発展に寄与するという本会の責務を全うするためには、豊かなダイバーシティのもと学術活動を進めると同時に、健全な経営を行う必要がある。このため以下に示す事業を実施する。

（1. 学術大会）

学会活動の中核をなす学術大会は、会員の研究成果発表と情報交換の場であるとともに、学問の発展に寄与する場である。2024年度は第131年学術大会を、山形大学小白川キ

キャンパス（山形市）を会場として9月8日（日）～10日（火）に開催する。

（2. 学術研究活動）

日本の研究を世界に発信するとともに、支部との連携を強化して研究発表機会の拡充や人的交流の活性化、野外調査技術の若い世代への伝承などを図る。また、学術大会における研究発表のみならず、ショートコースを年数回開催し、会員・非会員の誰もがさまざまな分野の基礎知識や最新知見を学べる場を提供する。これらの活動を通じて会員の満足度を高め、若手会員の定着とシニア会員の退会抑制を図る。さらに、本会が主体となって国内外の関連学術団体との連携を取りつつ、大型研究等の立案・推進に努め、地質学の継続的発展を目指す。

（3. 出版活動）

地質学雑誌およびIsland Arc誌における優れた論文の確保と安定した出版を目指し、年会等で発表された優れた研究をIsland Arcや地質学雑誌で円滑に論文として公表することを促進する。その結果としてダウンロード数および被引用数が増加することを期待するとともに、新規の特集号の企画も積極的に推進する。また投稿から掲載までの時間短縮に向け、不断の努力を行う。

地質学雑誌の出版については、中期的な出版・財務戦略を踏まえ、安定した出版体制を構築する。Island Arcについては、Wiley社と協力して存在感と注目度を高めるよう努力する。また新しい電子投稿システムを宣伝し、投稿数の増加を推進する。

公式広報誌「ジオルジュ」については、ジオパークや地学オリンピック、博物館、スポンサー等との連携と財務構造のさらなる改善を進め、安定的な発行を維持しつつ、さらに市民への広範な広報に努める。

ジオパーク支援委員会から提案の出版企画「大地と人の物語 ～地質学で読み解く日本の伝承～（仮）」について、出版に向け編集委員会を組織し、執筆・編集作業を進める。

（4. 地質災害対応）

地質災害の発生に迅速に対応する体制を維持し、地質学的観点からの緊急調査・研究を推進するとともに、学会公式ウェブサイトや地質災害ポータルからの情報発信に努める。

令和6年能登半島地震については、引き続き学会公式ウェブサイトからの情報発信に努めるとともに、山形大会では能登半島地震に関するシンポジウムを行う。

専門部会・支部、および防災学術連携体等における学会活動を通じて、災害に関する地質学的知識や情報を社会へ提供・発信する。また、地域の地形・地質特性や自然条件に根ざした地質災害の理解と防災・減災についての普及・啓発に努める。

（5. 広報・普及活動）

社会における本学会の認知度向上と新規会員獲得に資するよう、学会公式ウェブサイト（HP）の抜本的な刷新作業に着手し、必要な情報を探しやすく、分かりやすい形で発信できるHPを構築する。加えて、学会公式SNSの本格運用により社会への速報性を高める。これらの媒体を利用して、学術大会やショートコース、講演会、各種出版物、ウェブ教材、フォトコンテストなどの各種学会活動や地質災害に関する情報発信について、これまで以上に効果的・効率的に情報発信を行う。研究機関・大学・博物館・ジオパーク等と連携し、地質情報展や「地質の日」事業、その他普及イベントの開催を通じて、市民・地域レベルの啓蒙活動を推進する。「県の石」の普及を継続的にすすめる。

（6. 社会貢献）

国際層序委員会の国際年代層序表日本語版を随時更新するとともに、JISを含めた地質標準の普及を図る。地質学が社会の持続的発展に資することをプレスリリースや学会声明等をタイムリーに発信することで周知し、社会的プレゼンスの向上に努めると同時に産・官・学の連携を推進する。地質技術者に対する継続教育として、高等教育やCPD発行などの支援やサービスを継続して実施し、さらに発展させる。ジオパークについては、日本ジオパーク学術支援連合の活動を通じて学術面からの支援を行う。日本ジオパークネットワークおよび日本ジオパーク委員会への協力も引き続き行う。

（7. 地学教育）

令和7年度大学入試共通テスト（本試験）の地学関連科目の「地学基礎」および「地学」の問題を検討し、改善等が必要であれば

意見書として取り纏め、入試センターに送付するとともに公表する。次世代地質学者の育成および将来の新規会員獲得に資するよう、小中高校生を対象とした研究成果の発表の場として、学術大会において引き続きジュニアセッションを実施する。地学オリンピック、地震火山地質こどもサマースクール等への支援も継続して行う。「学生のための地質系業界説明会」や「地質系若手のためのキャリアビジョン誌」の発行を通して、地質系業界への門戸を広げる活動を継続する。

（8. 国際連携）

学術交流協定を締結している台湾地質学会、モンゴル地質学会、タイ地質学会、ロンドン地質学会を始め、諸外国の地質系学協会との間において、より実質的な学術活動の連携を図る。

（9. 会員サービス・学会運営）

新規会員獲得および学会定着率を向上させるため、学生・院生会費の減額などと同時に、就職支援、地質技術者の継続的な専門教育（CPD）に連携した地域型講演会・ワークショップ等の従来型事業を継続して実施し、若手研究者・技術者およびその予備軍である学生・院生会員の育成のための新企画や、若手活動運営委員会のもと、若手巡検・研究集会やオンライン交流会を開催し、若手会員同士の分野横断的な議論と交流の促進、若手会員層の拡充を図る。さらに、野外調査をベースとした若手地質研究者の育成事業を通じて、野外地質学の継承・発展を図るとともに、若手会員層の拡充に努める。今年度からはシニア会員の活躍の場について検討を開始し、提供できるよう努める。

学会組織については、各組織の業務内容・責任を明確化させる。併せて、学会活動の運営の基本となる定款・規則類の整理・整備を行う。学会事務局体制については、業務の整理・統合と効率化を一層進めることにより、事務局業務の安定化をはかる。昨年度導入された新たな会員システムについては、会員にさらなる周知をし、業務の合理化を図る。さらにダイバーシティ確保の観点から、学会運営に携わる委員会等における若手会員と女性会員の増加に努める。

以上

一般社団法人日本地質学会2023年度収支決算
(2023年4月1日～2024年3月31日)

科 目	2023年度予算	2023年度決算	差 異
I 事業活動収入の部			
1 事業活動収入 1)			
1) 基本財産運用収入	500	510	-10
基本財産利息収入	500	510	-10
2) 特定資産運用収入	500	1,122	-622
特定資産運用収入	500	1,122	-622
3) 会費収入 2)	35,720,000	36,546,500	-826,500
正会員会費収入	33,500,000	33,812,500	-312,500
学生会費収入(単年度、バッグ会費当年分)	720,000	909,000	-189,000
賛助会員会費収入	1,500,000	1,825,000	-325,000
4) 事業収入	23,164,400	19,549,188	3,615,212
① 出版事業収入 3)	5,234,000	5,208,633	25,367
雑誌販売収入	500,000	454,000	46,000
雑誌印刷負担金収入	920,000	657,400	262,600
別刷収入	369,000	457,930	-88,930
広報誌販売収入	50,000	40,700	9,300
論集収入	10,000	21,900	-11,900
リーフレット販売収入	200,000	217,920	-17,920
バックナンバー等売上収入	5,000	21,000	-16,000
その他出版物収入	20,000	10,255	9,745
広告料収入	300,000	370,000	-70,000
広報誌企画料	660,000	510,000	150,000
アワード・アンケート編集費・関連収入	2,000,000	2,263,403	-263,403
雑収入	200,000	184,125	15,875
② 年会開催事業収入 4)	6,480,000	7,158,801	-678,801
参加登録費収入	4,730,000	4,760,600	-30,600
懇親会参加費収入	600,000	798,000	-198,000
展示収入	950,000	1,238,050	-288,050
雑収入	200,000	362,151	-162,151
③ 普及事業収入 5)	3,300,000	3,838,178	-538,178
普及イベント参加費収入	500,000	434,678	65,322
普及イベント等販売収入	300,000	473,500	-173,500
雑収入	2,500,000	2,930,000	-430,000
④ 支部・部会等活動事業収入 6)	1,170,000	651,961	518,039
イベント参加費収入	800,000	527,913	272,087
資料等販売収入	250,000	0	250,000
負担金収入	40,000	0	40,000
雑収入	80,000	124,048	-44,048
⑤ 若手育成事業収入 7)	600,000	384,000	216,000
イベント参加費収入	600,000	384,000	216,000
⑥ 補助金・寄付金等収入 8)	140,000	221,271	-81,271
出版事業に係る補助金・寄付金収入	50,000	111,271	-61,271
年会開催事業に係る補助金・寄付金収入	0	0	0
広報・普及事業に係る補助金・寄付金収入	90,000	90,000	0
その他助成金収入	0	20,000	-20,000
⑦ 雑収入	200,400	101,744	98,656
貸付取り利息	200	334	-134
引当金取戻利息	200,000	129	71
その他の収入	200,000	101,281	98,719

科 目	2023年度予算	2023年度決算	差 異
⑩ 引当預金取崩し収入 9)	6,040,000	1,984,600	4,055,400
事業準備引当預金取崩し収入	2,000,000	0	2,000,000
年会開催引当預金取崩し収入	800,000	0	800,000
普及書出版引当預金取崩し収入	700,000	0	700,000
研究奨励引当預金取崩し収入	700,000	700,000	0
若手育成事業引当預金取崩し収入	1,840,000	1,284,600	555,400
【事業活動収入計】	58,885,400	56,097,320	2,788,080
【前年度繰越金】	25,705,222	25,705,222	0
【収入合計】	84,590,622	81,802,542	2,788,080

科 目	2023年度予算	2023年度決算	差 異
II. 事業活動支出の部			
1) 事業費支出 10)	44,553,100	41,879,482	2,673,618
① 出版事業 11)	22,941,100	22,030,884	910,216
a 給料手当支出	4,000,000	3,913,821	86,179
b 賞与支給支出	1,176,000	1,194,301	-18,301
c 退職掛け金支出	249,600	249,600	0
d 法定福利費支出	880,000	810,700	69,300
e 会議費支出	10,000	9,745	255
f 旅費交通費支出	220,000	115,045	104,955
g 通信運搬費支出	3,000,000	2,906,809	93,191
h 消耗什器備品費支出	180,000	164,855	15,145
i OOA機器・システム等保守管理費	144,000	174,280	-30,280
j 消耗品費支出	260,000	269,275	-9,275
k 光熱水料費支出	270,000	261,325	8,675
l 事務所賃借料支出	2,626,500	2,626,079	421
m 地質学雑誌印刷製本費支出	960,000	781,841	178,159
n News誌印刷製本費支出	4,000,000	4,224,590	-224,590
o 広報誌ほか印刷製本費支出	1,200,000	1,005,109	194,891
p 出版編集費	3,500,000	3,036,401	463,599
q 諸謝金支出	250,000	271,692	-21,692
r 雑支出	15,000	15,416	-416
② 年会開催事業 12)	11,711,400	11,922,495	-211,095
a 給料手当支出	1,000,000	978,451	21,549
b 賞与支給支出	294,000	298,574	-4,574
c 退職掛け金支出	62,400	62,400	0
d 法定福利費支出	220,000	202,671	17,329
e 臨時雇賃金支出	800,000	581,690	218,310
f 旅費交通費支出	120,000	133,460	-13,460
g 通信運搬費支出	400,000	37,688	362,312
h 機器賃借料支出	1,010,000	1,084,600	-74,600
i 消耗品費支出	100,000	20,083	79,917
j 演劇登録公開費	1,900,000	1,700,061	199,939
k 印刷製本費支出	10,000	4,610	5,390
l 会場賃借料支出	1,800,000	2,114,112	-314,112
m 会場設営・設備費支出	1,980,000	2,638,020	-658,020
n 懇親会実施支出	600,000	919,400	-319,400
o 保険料支出	15,000	14,490	510
p 委託費支出	800,000	874,695	-74,695
q 雑支出	300,000	199,449	100,551
r 巡検実施支出	300,000	58,041	241,959

科 目	2023年度予算	2023年度決算	差 異
③普及事業 13)	4,960,600	4,494,229	466,371
a 給料手当支出	1,000,000	978,451	21,549
b 賞与支給支出	294,000	298,574	-4,574
c 退職掛け金支出	62,400	62,400	0
d 法定福利費支出	220,000	202,671	17,329
e 会議費支出	5,000	4,872	128
f 旅費交通費支出	20,000	36,971	-16,971
g 通信運搬費支出	988,000	409,672	578,328
h 消耗什器備品費支出	40,000	36,632	3,368
i OA機器・システム等保守管理費	32,000	38,729	-6,729
j 消耗品費支出	137,000	124,703	12,297
k 印刷製本費支出	514,000	1,067,313	-553,313
臨時雇賃金支出	600,000	300,540	299,460
会場賃借料支出	90,000	110,000	-20,000
普及イベント実施支出	83,200	16,288	66,912
広告宣伝費	160,000	160,000	0
保険料支出	5,000	3,300	1,700
諸謝金支出	270,000	223,685	46,315
負債金支出	400,000	370,264	29,736
n 雑支出	40,000	49,164	-9,164
④支部・部会等活動事業 14)	2,000,000	831,975	1,168,025
旅費交通費支出	300,000	66,722	233,278
通信運搬費支出	50,000	34,818	15,182
機器賃借料支出	20,000	4,910	15,090
消耗品費支出	50,000	2,023	47,977
i 印刷製本費支出	50,000	4,538	45,462
臨時雇賃金	300,000	68,000	232,000
会場賃借料支出	200,000	11,820	188,180
イベント実施支出	600,000	500,439	99,561
保険料支出	40,000	8,000	32,000
諸謝金支出	240,000	72,390	167,610
負債金支出	50,000	0	50,000
n 雑支出	100,000	58,315	41,685
⑤若手育成事業支出 15)	1,840,000	1,675,459	164,541
旅費交通費支出	220,000	5,000	215,000
イベント実施費支出	350,000	484,023	-134,023
保険料支出	25,000	14,400	10,600
諸謝金支出	40,000	40,000	0
フィールドワーク費支出	200,000	200,000	0
研究奨励金支出	1,000,000	924,000	76,000
雑支出	5,000	8,036	-3,036
⑥研究奨励事業 16)	800,000	924,440	-124,440
雑支出	800,000	924,440	-124,440
⑦特別事業 17)	300,000	0	300,000
国際交流等事業費	200,000	0	200,000
緊急災害調査事業費	100,000	0	100,000
2) 管理費 18)	14,262,300	12,493,623	1,768,677
a 給料手当支出	4,000,000	3,913,844	86,156
b 賞与支給支出	1,176,000	1,194,305	-18,305
c 退職掛け金支出	249,600	249,600	0
d 法定福利費支出	880,000	810,719	69,281
e 会議費支出	35,000	892	34,108
f 旅費交通費支出	160,000	91,840	68,160
g 通信運搬費支出	2,020,000	813,479	1,206,521
h 消耗什器備品費支出	180,000	164,876	15,124

科 目	2023年度予算	2023年度決算	差 異
i OA機器・システム等保守管理費	729,000	757,281	-28,281
j 消耗品費支出	300,000	315,483	-15,483
k 印刷製本費支出	270,000	111,776	158,224
l 光熱水料費支出	270,000	261,330	8,670
m 事務所賃借料支出	2,626,500	2,626,091	409
n 諸謝金支出	396,000	396,000	0
租税公課支出	200	0	200
負債金支出	320,000	312,506	7,494
n 雑支出	650,000	440,385	209,615
3) 法人税等支出	70,000	70,000	0
4) 引当預金繰入支出 19)	0	1,122	-1,122
繰入支出	0	1,122	-1,122
【事業活動支出計】	58,885,400	54,444,227	4,441,173
【事業活動収支差額】	0	1,653,093	1,653,093
次期繰越収支差額	25,705,222	27,358,315	-1,653,093

<注>2023年度決算

- 1) 収入全体は前年度より前(引当金の取崩分を差し引いても収入増)。
- 2) 会費は依然減少傾向。収入には過年度分支払も含まれる。ただし、2023年度正会員会費までは会費額変更前(在会年数に応じた減額適用前)の金額。
- 3) 編集出版事業費はやや収入増。オンライン化後も印刷はある程度確保はオンライン冊子代のみ、特集等の販売収入など2023年度限りの収入による。リーフレット等の発行も回復傾向。アラインメントの回収はほぼ完了。
- 4) 普及事業は今年度計画にて開催。懇親会も実施。
- 5) 普及事業は今年度も増加。地質系業界説明会出席参加費、キャリアアワード2023年度の収入により収入増。紙物干渉色表新販下敷きの大口買取が収入増。
- 6) 支部・部会活動は前年度より収入増。支部行事の再開などによる。中部支部と西日本支部は主催イベントの余剰金があり、支部事業の収入に貢献。
- 7) 2023年度より開始の新事業。若手活動運営委員会主催「若手巡検・研究集会」の参加費。
- 8) 学名名義の出版物による印刷、フォトコン協賛金など。会費からの寄付あり。
- 9) 研究奨励事業引当金と若手育成事業引当金の取り崩しによる補てんのみ。その他は補てん不要とした。
- 10) 学会のさまざまな事業が再開したため、全体的に前年より支出増。
- 11) ①-③の各事業費の管理費(a-n)は②「管理費支出」の集分比例・各事業固有の費用。
- 12) 京都大会基礎につき、案分比例の管理費(a-n)を除いた各種費用を支出。会場資料などが支出増。
- 13) フォトリソグラフィ送料、キャリアアワード2023送料、地質情報展のアルバイド代、市民講演会の会場資料など。新版の下敷き作成費(1500枚作成の予定外)の支出もあり、全体的に支出増。
- 14) 支部・部会活動は前年度より支出増。支部行事の再開などによる。
- 15) 若手巡検・研究集会、北海道支部巡検および年會巡検参加費等に際する経費(学会からの補助費も含む)、フィールドワーク賞金、研究奨励金の支出など。
- 16) 各賞・顕彰に際する支出のみ。メダル(副賞)10個を作成。
- 17) 海外支部事業の招待費はなし。また、災害による活動費用はなし。
- 18) 種々の科目には削減はあるが、全体としては支出増。f「通信運搬費支出」はHPIリニューアル費用を予算計上したが、差注には至らず。
- 19) 引当預金繰入支出は引当金(定額預金)の利子分のみ。

収支計算書

〔 自 2023年 4月 1日 〕
〔 至 2024年 3月 31日 〕

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
(単位：円)				
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	500	510	△ 10	
特定資産運用収入	500	1,122	△ 622	
会費収入	35,720,000	36,546,500	△ 826,500	
事業収入				
出版事業収入	5,234,000	5,208,633	△ 25,367	
年会開催事業収入	6,480,000	7,158,801	△ 678,801	
普及事業収入	3,300,000	3,838,178	△ 538,178	
支部・部会等活動事業収入	1,170,000	651,961	△ 518,039	
若手育成事業収入	600,000	384,000	△ 216,000	
事業収入計	16,784,000	17,241,573	△ 457,573	
補助金・寄付金等収入	140,000	221,271	△ 81,271	
雑収入	200,400	101,744	△ 98,656	
事業活動収入計	52,845,400	54,112,720	△ 1,267,320	
2. 事業活動支出				
事業費支出				
出版事業費	12,910,000	12,226,442	△ 683,558	
年会開催事業費	10,135,000	10,380,399	△ 245,399	
普及事業費	2,122,200	2,251,390	△ 129,190	
支部・部会等活動事業費	2,000,000	831,975	△ 1,168,025	
若手育成事業費	1,840,000	1,675,459	△ 164,541	
研究奨励事業費	800,000	924,440	△ 124,440	
特別事業費	300,000	0	△ 300,000	
事業管理費 ^(注)	14,445,900	13,589,377	△ 856,523	
事業費支出計	44,553,100	41,879,482	△ 2,673,618	
管理費支出				
人件費	6,305,600	6,168,468	△ 137,132	
旅費交通費	160,000	91,840	△ 68,160	
事務所賃借料	2,626,500	2,626,091	△ 409	
事務諸費	4,520,200	3,166,839	△ 1,353,361	
雑費	650,000	440,385	△ 209,615	
法人税等支出	70,000	70,000	0	
管理費支出計	14,332,300	12,563,623	△ 1,768,677	
事業活動支出計	58,885,400	54,443,105	△ 4,442,295	
事業活動収支差額	△ 6,040,000	△ 330,385	△ 5,709,615	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
II. 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
事業準備引当預金取崩収入	2,000,000	0	△ 2,000,000	
年会開催補助費引当預金取崩収入	800,000	0	△ 800,000	
普及書出版引当預金取崩収入	700,000	0	△ 700,000	
研究奨励引当預金取崩収入	700,000	700,000	0	
若手育成事業引当預金取崩収入	1,840,000	1,284,600	△ 555,400	
投資活動収入計	6,040,000	1,984,600	△ 4,055,400	
2. 投資活動支出				
退職手当引当預金繰入支出	0	138	△ 138	
年会開催補助費引当預金繰入支出	0	132	△ 132	
普及書出版引当預金繰入支出	0	124	△ 124	
周年記念事業準備引当預金繰入支出	0	41	△ 41	
研究奨励引当預金繰入支出	0	262	△ 262	
若手育成事業引当預金繰入支出	0	425	△ 425	
投資活動支出計	0	1,122	△ 1,122	
投資活動収支差額	6,040,000	1,983,478	△ 4,056,522	
III. 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	1,653,093	△ 1,653,093	
前期繰越収支差額	25,705,222	25,705,222	0	
次期繰越収支差額	25,705,222	27,358,315	△ 1,653,093	

(注) 1. 各事業ごとの「事業管理費」を、抜き出して一括して表示している。

計算書類に対する注記 (2023年度)

1. 重要な会計方針

公益法人会計基準を採用している。

1) 引当金の計上について

- ・事業準備引当金：将来的な事業、前年度未完事業、大規模災害調査・研究などのために引当。
- ・年会開催補助費引当金：年会事業収支の余剰金を不足が生じた場合に備え引当。
- ・退職手当引当金：期末要支給額のうち、中途共掛け金を考慮した見込み額を引当。
- * 中退共の掛け金積立額：今期末で7,506,910円(利子含む：2名分)。
- ・普及書出版引当金：地質学会名で出版社から刊行した出版物の著者からの印税寄付金を以後の普及書出版に備え引当。
- ・周年記念事業準備引当金：周年事業のための引当。
- * 125周年記念事業準備引当金(2018年度にて事業終了)の残額を名称変更。
- ・研究奨励引当金：会員の研究奨励のために会員からの寄付金および必要に応じて引当。
- ・若手育成事業引当金：若手野外地質学者の育成事業のための引当。

2) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2. 基本財産の残高状況は次のとおりである。

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
預金	30,000,000	0	0	30,000,000
合計(基本財産)	30,000,000	0	0	30,000,000

(単位円)

収支計算書に対する注記 (2023年度)

1. 資金の範囲について

資金の範囲には現金、預金、仮払金、未収金、前払金、前払金、預り金、前受金を含める。

期末残高は下記に示すとおりである。

2. 次期繰り越し収支差額の内容は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期末残高
現金(印手残高含)	155,978	246,548
預金	56,005,433	56,362,444
仮払金	399,155	452,118
未収金	0	80,000
前払金	276,430	0
合計	56,836,996	57,141,110
未払金	1,143,248	1,220,488
預り金	944,526	1,136,307
前受金	29,044,000	27,426,000
合計	31,131,774	29,782,795
次期繰り越し収支差額	25,705,222	27,358,315

(単位円)

財産目録

2024年3月31日現在

科目	金額	金額
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金 (現金：199,892円、切手46,656円)	246,548	
	(56,362,444)	
三井住友銀行神田駅前支店(普通)1711424	22,883,529	
みずほ銀行神田駅前(普通) 2229416	12,707,392	
三菱UFJ銀行神田駅前(普通) 0108667	1,995,131	
ゆうちょ銀行振替口座 00140-8-28067	18,047,052	
ゆうちょ銀行(普通) 62073562	729,340	
仮払金(労働保険料2023年度賦算払いほか)	452,118	
未収金(学術大会ランチョン会費利用料)	80,000	
流動資産合計	57,141,110	
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
預金(みずほ銀行神田駅前支店(定期) 6558120-1, 2, 5, 6)	30,000,000	
基本財産合計	30,000,000	
(2) その他の固定資産		
敷金・保証金(井桁ビル預け)	2,000,000	
特定資産	(82,653,434)	
事業準備引当金(みずほ銀行神田駅前支店(定期) 6558120-9)	7,600,000	
退職手当引当金(三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期) 0022615-6, 7, 12)	8,132,928	
年会開催補助費引当金(三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期) 0022615-10, 14, 18)	7,719,648	
普及書出版引当金(三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期) 0022615-3, 11, 15, 16, 17)	7,236,851	
周年記念事業準備引当金(三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期) 0022615-19)	2,400,123	
研究奨励引当金(三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期) 0022615-26)	847,634	
若手育成事業引当金	48,716,250	
(三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期) 0022615-20, 21, 22, 23, 24, 25, 一部普通)		
その他の固定資産合計	84,653,434	
固定資産合計	114,653,434	
資産合計	171,794,544	
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	1,220,488	
預り金(社体料3月分、出版物印税著者分配ほか)	1,136,307	
前受金(2024年4月以降の会費)	27,426,000	
流動負債合計	29,782,795	
2. 固定負債		
引当金	(82,653,434)	
事業準備引当金	7,600,000	
退職手当引当金	8,132,928	
年会開催補助費引当金	7,719,648	
普及書出版引当金	7,236,851	
周年記念事業準備引当金	2,400,123	
研究奨励引当金	847,634	
若手育成事業引当金	48,716,250	
固定負債合計	82,653,434	
負債合計	112,436,229	
正味財産	59,358,315	

(単位：円)

貸借対照表

2024年3月31日現在

科 目	(単位:円)		増 減
	当年度	前年度	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	246,548	155,978	90,570
預 金	56,362,444	56,005,433	357,011
仮 払 金	452,118	399,155	52,963
未 収 金	80,000	0	80,000
前 払 金	0	276,430	△ 276,430
流動資産合計	57,141,110	56,836,996	304,114
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
預 金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(2) その他の固定資産			
敷金・保証金	2,000,000	2,000,000	0
特定資産	82,653,434	84,636,912	△ 1,983,478
事業準備引当預金	7,600,000	7,600,000	0
退職手当引当預金	8,132,928	8,132,790	138
年会開催補助費引当預金	7,719,648	7,719,516	132
普及書出版引当預金	7,236,851	7,236,727	124
周年記念事業準備引当預金	2,400,123	2,400,082	41
研究奨励引当預金	847,634	1,547,372	△ 699,738
若手育成事業引当預金	48,716,250	50,000,425	△ 1,284,175
その他の固定資産合計	84,653,434	86,636,912	△ 1,983,478
固定資産合計	114,653,434	116,636,912	△ 1,983,478
資産合計	171,794,544	173,473,908	△ 1,679,364
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,220,488	1,143,248	77,240
預り金	1,136,307	944,526	191,781
前受金	27,426,000	29,044,000	△ 1,618,000
流動負債合計	29,782,795	31,131,774	△ 1,348,979
2. 固定負債			
引当金			
事業準備引当金	7,600,000	7,600,000	0
退職手当引当金	8,132,928	8,132,790	138
年会開催補助費引当金	7,719,648	7,719,516	132
普及書出版引当金	7,236,851	7,236,727	124
周年記念事業準備引当金	2,400,123	2,400,082	41
研究奨励引当金	847,634	1,547,372	△ 699,738
若手育成事業引当金	48,716,250	50,000,425	△ 1,284,175
固定負債合計	82,653,434	84,636,912	△ 1,983,478
負債合計	112,436,229	115,768,686	△ 3,332,457
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	59,358,315	57,705,222	1,653,093
正味財産合計	59,358,315	57,705,222	1,653,093
負債及び正味財産合計	171,794,544	173,473,908	△ 1,679,364

正味財産増減計算書

(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

科 目	(単位:円)		増 減	備 考
	当年度	前年度		
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用収入	510	510	0	
特定資産運用収入	1,122	886	236	
会費収入	36,546,500	38,382,000	△ 1,835,500	
事業収入				
出版事業収入	5,208,633	5,002,410	206,223	
年会開催事業収入	7,158,801	5,258,595	1,900,206	
普及事業収入	3,838,178	3,576,819	261,359	
支部・部会等活動事業収入	651,961	213,055	438,906	
若手育成事業収入	384,000	0	384,000	
事業収入合計	17,241,573	14,050,879	3,190,694	
補助金・寄付金等収入	221,271	410,596	△ 189,325	
雑収入	101,744	61,844	39,900	
経常収益合計	54,112,720	52,906,715	1,206,005	
(2) 経常費用				
事業費				
出版事業費	12,226,442	12,550,125	△ 323,683	
年会開催事業費	10,380,399	5,626,929	4,753,470	
普及事業費	2,251,390	1,392,949	858,441	
支部・部会等活動事業費	831,975	441,397	390,578	
若手育成事業費	1,675,459	0	1,675,459	
研究奨励事業費	924,440	361,680	562,760	
事業管理費	13,589,377	15,614,857	△ 2,025,480	
事業費合計	41,879,482	35,987,937	5,891,545	
管理費				
人件費	6,168,468	6,596,580	△ 428,112	
旅費交通費	91,840	90,770	1,070	
事務所賃借料	2,626,091	2,487,876	138,215	
事務諸費	3,166,839	3,288,827	△ 121,988	
雑費	440,385	483,843	△ 43,458	
法人税等支出	70,000	70,000	0	
管理費合計	12,563,623	13,017,896	△ 454,273	
経常費用計	54,443,105	49,005,833	5,437,272	
当期経常増減額	△ 330,385	3,900,882	△ 4,231,267	

監査報告書

一般社団法人日本地質学会
会長 岡田 誠 殿

2024年5月15日

監事 山本 正司
監事 岩部 良子

私たち監事は、2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、役職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会に出席し、役職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその付属書類について検討いたしました。さらに、会計帳簿及びこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその付属明細書について精査いたしました。

2. 監査意見

(1)事業報告等の監査結果
① 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

③2023年度は学術大会(京都大会)が完全な形で現地開催され、様々な普及事業(シヨートコース、地質系業界説明会など)が実施され、クラウド版の会員システムも導入されたことは評価される。

④2024年度は学会ホームページの更新や規則の整備を進め、学会活動が行いやすい環境を整え、学会のさらなる発展に尽力されたい。

(2)計算書類及びその付属明細書監査結果

計算書類及びその付属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
研究奨励引当預金取崩収入	700,000	0	700,000	
若手育成事業引当預金取崩収入	1,284,600	0	1,284,600	
経常外収益計	1,984,600	0	1,984,600	
(2)経常外費用				
退職手当引当金繰入額	138	138	0	
年会開催補助費引当金繰入額	132	132	0	
普及書出版引当金繰入額	124	124	0	
周年事業準備引当金繰入額	41	41	0	
研究奨励引当金繰入額	262	26	236	
若手育成事業引当預金繰入額	425	425	0	
経常外費用計	1,122	886	236	
当期経常外増減額	1,983,478	△ 886	1,984,364	
当期一般正味財産増減額	1,653,093	3,899,996	△ 2,246,903	
一般正味財産期首残高	57,705,222	53,805,226	3,899,996	
一般正味財産期末残高	59,358,315	57,705,222	1,653,093	
II. 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III. 正味財産期末残高	59,358,315	57,705,222	1,653,093	

一般社団法人日本地質学会2024年度収支予算案
(2024年4月1日～2025年3月31日)

科 目	2023年度予算	2024年度予算案	前年度予算との増減
I 事業活動収入の部			
1. 事業活動収入			
1) 基本財産運用収入	500	500	0
基本財産利息収入	500	500	0
2) 特定資産運用収入	500	500	0
特定資産運用収入	500	500	0
3) 会費収入 1)	35,720,000	33,970,000	-1,750,000
正会員一般・シニア会費収入	33,500,000	31,200,000	-2,300,000
正会員学生会費収入(前年度・ハンク会費当年分)	720,000	1,020,000	300,000
賛助会員会費収入	1,500,000	1,750,000	250,000
4) 事業収入	23,164,400	22,684,400	-480,000
① 出版事業収入 2)	5,234,400	4,699,000	-535,000
雑誌販売収入	500,000	84,000	-416,000
雑誌印刷負担金収入	920,000	650,000	-270,000
別冊収入	369,000	460,000	91,000
広報紙販売収入	50,000	50,000	0
論集収入	10,000	10,000	0
リーフレット販売収入	200,000	220,000	20,000
バックナンバー等売上収入	5,000	5,000	0
その他出版物収入	20,000	10,000	-10,000
広告料収入	300,000	350,000	50,000
広報紙企画料	660,000	660,000	0
アイランドアーク編集費・関連収入	2,000,000	2,000,000	0
雑収入	200,000	200,000	0
② 年会開催事業収入 3)	6,480,000	6,350,000	-130,000
参加登録費収入	4,730,000	4,500,000	-230,000
懇親会参加費収入	600,000	750,000	150,000
展示収入	950,000	900,000	-50,000
雑収入	200,000	200,000	0
③ 普及事業収入	3,300,000	3,750,000	450,000
普及イベント収入	500,000	3,300,000	2,800,000
街中ジョイ散歩参加費収入		30,000	30,000
ジョイントコース受講料収入		470,000	470,000
地質業界説明会出席料収入		500,000	500,000
普及企画協賛費収入		2,300,000	2,300,000
普及資料等販売収入	300,000	450,000	150,000
雑収入	2,500,000	0	-2,500,000
④ 支部・部会等活動事業収入 4)	1,170,000	1,285,000	115,000
イベント参加費収入	800,000	1,160,000	360,000
資料等販売収入	250,000	15,000	-235,000
負担金収入	40,000	10,000	-30,000
雑収入	80,000	100,000	20,000
⑤ 若手育成事業収入 5)	600,000	260,000	-340,000
イベント参加費収入	600,000	260,000	-340,000
⑥ 補助金・寄付金等収入 6)	140,000	2,240,000	2,100,000
出版事業に係る補助金・寄付金収入	50,000	50,000	0
年会開催事業に係る補助金・寄付金収入	0	2,100,000	2,100,000
広報・普及事業に係る補助金・寄付金収入	90,000	90,000	0
その他助成金収入	0	0	0
⑦ 雑収入	200,400	200,400	0
受け取り利息	200	200	0
引当金受取利息	200	200	0
その他の収入	200,000	200,000	0

科 目	2023年度予算	2024年度予算案	前年度予算との増減
⑥ 引当預金取崩し収入 7)	6,040,000	3,900,000	-2,140,000
事業準備引当預金取崩し収入	2,000,000	2,000,000	0
年会開催引当預金取崩し収入	800,000	700,000	-100,000
普及書出版引当預金取崩し収入	700,000	0	-700,000
研究奨励引当預金取崩し収入	700,000	0	-700,000
若手育成事業引当預金取崩し収入	1,840,000	1,200,000	-640,000
【事業活動収入計】	58,885,400	56,655,400	-2,230,000
【前年度繰越金】	25,705,222	27,358,315	1,653,093
【収入合計】	84,590,622	84,013,715	-576,907
II. 事業活動支出の部			
1. 事業費支出 8)	44,553,100	42,803,400	-1,749,700
① 出版事業 9)	22,941,100	22,626,000	-315,100
a 給料手当支出	4,000,000	4,000,000	0
b 賞与支給支出	1,176,000	1,212,000	36,000
c 退職掛け金支出	249,600	288,000	38,400
d 法定福利費支出	880,000	840,000	-40,000
e 会議費支出	10,000	10,000	0
f 旅費交通費支出	220,000	220,000	0
通信運搬費支出	3,000,000	3,150,000	150,000
h 消耗什器備品費支出	180,000	170,000	-10,000
i OA機器・システム等保守管理費	144,000	270,000	126,000
j 消耗品費支出	260,000	170,000	-90,000
l 光熱水料費支出	270,000	270,000	0
m 事務所賃借料支出	2,626,500	2,488,000	-138,500
地質学雑誌印刷製本費支出	960,000	500,000	-460,000
News誌印刷製本費支出	4,000,000	4,240,000	240,000
k 広報紙印刷製本費支出	1,200,000	1,200,000	0
出版編集費	3,500,000	3,300,000	-200,000
諸謝金支出	250,000	270,000	20,000
n 雑支出	15,000	28,000	13,000
② 年会開催事業 10)	11,711,400	11,655,000	-56,400
a 給料手当支出	1,000,000	1,000,000	0
b 賞与支給支出	294,000	303,000	9,000
c 退職掛け金支出	62,400	72,000	9,600
d 法定福利費支出	220,000	210,000	-10,000
臨時雇賃金支出	800,000	600,000	-200,000
旅費交通費支出	120,000	120,000	0
通信運搬費支出	400,000	50,000	-350,000
機器賃借料支出	1,010,000	600,000	-410,000
消耗品費支出	100,000	30,000	-70,000
演題登録公開費	1,900,000	1,600,000	-300,000
印刷製本費支出	10,000	5,000	-5,000
会場賃借料支出	1,800,000	600,000	-1,200,000
会場設営・設備費支出	1,980,000	2,850,000	870,000
懇親会実施支出	600,000	900,000	300,000
保険料支出	15,000	15,000	0
委託費支出	800,000	2,400,000	1,600,000
雑支出	300,000	200,000	-100,000
巡検実施支出	300,000	100,000	-200,000

科 目	2023年度予算	2024年予算案	前年度予算との増減
③普及事業 11)	4,960,600	4,603,000	-357,600
a 給料手当支出	1,000,000	1,000,000	0
b 賞与支給支出	294,000	303,000	9,000
c 退職掛入金支出	62,400	72,000	9,600
d 法定福利費支出	220,000	210,000	-10,000
e 会議費支出	5,000	5,000	0
f 旅費交通費支出	20,000	60,000	40,000
g 通信運搬費支出	988,000	673,000	-315,000
h 消耗什器備品費支出	40,000	38,000	-2,000
i OOA機器・システム等保守管理費	32,000	60,000	28,000
j 消耗品費支出	137,000	100,000	-37,000
k 印刷製本費支出	514,000	770,000	256,000
臨時雇賃金支出	600,000	400,000	-200,000
会場賃借料支出	90,000	11,000	-79,000
普及イベント実施支出	83,200	17,000	-66,200
広告宣伝費	160,000	160,000	0
保険料支出	5,000	4,000	-1,000
諸謝金支出	270,000	270,000	0
負担金支出	400,000	400,000	0
n 雑支出	40,000	50,000	10,000
④支部・部会等活動事業 12)	2,000,000	1,688,000	-312,000
旅費交通費支出	300,000	300,000	0
通信運搬費支出	43,000	43,000	0
機器賃借料支出	20,000	10,000	-10,000
消耗品費支出	50,000	70,000	20,000
印刷製本費支出	50,000	25,000	-25,000
臨時雇賃金	300,000	180,000	-120,000
会場賃借料支出	200,000	130,000	-70,000
イベント実施支出	600,000	600,000	0
保険料支出	40,000	10,000	-30,000
諸謝金支出	240,000	150,000	-90,000
負担金支出	50,000	70,000	20,000
雑支出	100,000	100,000	0
⑤若手育成事業支出 13)	1,840,000	1,501,400	-338,600
旅費交通費支出	220,000	12,000	-208,000
イベント実施費支出	350,000	480,000	130,000
保険料支出	25,000	24,000	-1,000
諸謝金支出	40,000	20,000	-20,000
フィールドワーク費支出	200,000	0	-200,000
研究奨励金支出	1,000,000	960,000	-40,000
雑支出	5,000	5,400	400
⑥研究奨励事業 14)	800,000	430,000	-370,000
雑支出	800,000	430,000	-370,000
⑦特別事業 15)	300,000	300,000	0
国際交流等事業費	200,000	200,000	0
緊急災害調査事業費	100,000	100,000	0
2) 管理費 16)	14,262,300	13,782,000	-480,300
a 給料手当支出	4,000,000	4,000,000	0
b 賞与支給支出	1,176,000	1,212,000	36,000
c 退職金掛入金支出	249,600	288,000	38,400
d 法定福利費支出	880,000	840,000	-40,000
e 会議費支出	35,000	35,000	0
f 旅費交通費支出	160,000	160,000	0
g 通信運搬費支出	2,020,000	2,580,000	560,000

科 目	2023年度予算	2024年予算案	前年度予算との増減
h 消耗什器備品費支出	180,000	170,000	-10,000
i OOA機器・システム等保守管理費	729,000	270,000	-459,000
j 消耗品費支出	300,000	210,000	-90,000
k 印刷製本費支出	270,000	110,000	-160,000
l 光熱水料費支出	270,000	270,000	0
m 事務所賃借料支出	2,626,500	2,488,000	-138,500
諸謝金支出	396,000	396,000	0
租税公課支出	200	13,000	12,800
負担金支出	320,000	320,000	0
n 雑支出	650,000	420,000	-230,000
3) 法人税等支出	70,000	70,000	0
4) 月当預金繰入支出	0	0	0
繰入支出	0	0	0
【事業活動支出計】	58,885,400	56,655,400	-2,230,000
【事業活動収支差額】	0	0	0
次期繰越収支差額	25,705,222	27,358,315	1,653,093

<注>2024年度予算案
 1) 会費は依然減少傾向、前年よりやや減額。正会員会費は在会年数に応じた減額措置による収入減も考慮し計上。
 2) 雑誌等の購読はオンライン印刷注文分のみ、オンライン化後も著者負担金(掲載超過ページ代、改版代)や別刷りの注文は収入あり。
 3) 年会は口頭・ポストカードともに完全前面にて開催。参加者数は前年より増え目に見え、ほか、企業展示の収入。
 4) 各支部、部会からの予算案を計上。
 5) 若手育成事業費収入は若手の会主催の巡検参加費を計上。
 6) 山形県ペンションビューローからの助成金(10万円)を認定、ほか、学会名義による出版物印刷の寄付収入、フォトコン協賛金など。
 7) 目的に応じた引当準備金の取崩しを予定。
 8) ①～⑧の各事業費の管理費(α～m)は、【管理費支出】上の案分比例+各事業固有の費用。
 9) 『広報運搬費』はNews誌等の送料増上げを踏まえ、『地質学雑誌印刷費』は、雑誌印刷、オンライン注文注文分を計上。
 『広報誌印刷費』は城ヶ島たんけんマップ(3000部)の増刷を予定。
 10) 年会支出のうち、案分比例の管理費(α～d)を除き、今期も収支は相殺を計上しない。
 11) 普及事業、部会からの予算案を計上。
 12) 各支部、部会からの予算案を計上。
 13) 若手活動推進委員会主催、日帰り巡検「若手地質巡検2024」の経費、年会巡検参加費補助など。
 14) 国際交流費による交流学会との経費、部会(部会)費(旧、国際費)返負等の招待にかかる経費も計上。
 15) 国際交流費による交流学会との往來の車賃を認定し念のため計上(現時点では予定なし)。
 16) 管理費のうち「通信費」はホームページリニューアル費用を計上。また、郵送費の増上げ、サーバー利用料などの通信にかかる各費用の増上げを想定し増額。

永年（50年）会員顕彰

1973年度入会者：2023年度会費まで納入済

相田喜久夫・岡市正秀・小田康則・角和善隆・我謝昌一・酒井 彰・坂本正夫・坂本満・宍戸俊夫・下平眞樹・中川重紀・中原伸幸・長峰 智・中山 健・深沢徳明・堀江一教・三宅康幸・宮田雄一郎・渡辺拓美（40名、敬称略）



天野一男



井内美郎



加戸敬亮



加藤真人



鹿野和彦



栗原俊己



黒田登美雄



清水岩夫



菅谷政司



田切美智雄



竹内 章



田中俊廣



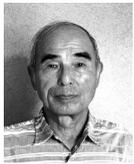
佃 栄吉



西山忠男



廣井美邦



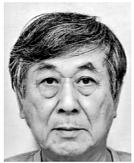
宮崎精介



米澤正弘



打江 進



嶋崎統五



成田 賢



宮坂省吾

2024年度名誉会員候補者推薦理由

名誉会員推薦委員会
委員長 星 博幸

2024年度名誉会員として3名を推挙いたしました。推薦理由は以下の通りです。

加藤 碩一 会員

(かとう ひろかず)

1947年9月14日生（76歳）

産業技術総合研究所名誉リサーチャー

加藤碩一会員は東京教育大学理学部および同大学大学院で地質学を専攻し、1975年4月に通商産業省工業技術院地質調査所に入所した。地質部層序構造課長、国際協力室国際地質課長、首席研究官、企画室長、環境地質部長などを歴任し、1999年から地質調査所次長、2001年から産業技術総合研究所地球科学情報研究部門長、2003年から東北センター長、2006年から理事、2008年からフェロー・地質調査総合センター代表を務めた。2009年に退職後、産業技術総合研究所名誉リサーチャー、応用地質株式会社顧問、東・東南アジア地球科学計画調整委員会（CCOP）Honorary Advisorなどを務めている。この間、1977年に東京教育大学より理学博士の学位を取得、2022年秋に瑞宝中綬章を受章した。

加藤会員は本州中部の新第三系と第四系の地質学研究で多くの成果を挙げた。地質調査所の基幹業務である地質図類作成に大きく貢献し、特に主要フィールドである北部フォッサマグナの5万分の1地質図幅「坂城」、「粟島」、「長野」、「大町」、「信濃池田」を単独または筆頭で作成した。加藤会員が作成に関わった地質図類は28枚に及ぶ、それらと並行して1983年度から1985年度にかけてトルコ・アナトリア断層地域の地震・活断層・地殻変動の研究を主導した。また、CCOPに1998年から2012年まで参加し、プロジェクト推進や共同研究の調整など多国間の国際協力を貢献した。さらに、関係者の協力を受けて2003年に「Eastern Asia Geological Hazards Map」を出版した。その成果に対して2005年に日本自然災害学会から「ハザード2000国際賞」が授与された。

加藤会員は国や地方自治体の多くの専門委員などを務め、社会的に大きな功績を残した。海洋研究開発機構や防災科学技術研究所、資源・環境観測解析センターなどの運営にも外部委員として協力した。他にも、日本列島地質百選選定委員会委員、日本ジオパーク委員会委員などの委員を務め、委員活動を通じて地質学の発展に寄与した。また、大学では長年非常勤講師として人材育成に努めた。さらに、加藤会員が著した多くの書籍は地質学の教育と普及に貢献している。2000年以降はライフワークとして宮沢賢治に関する地質学的観点からの研究を続けており、それについての著作も多い。2007年には岩手県花

巻市から「第17回宮沢賢治賞奨励賞」が授与されている。

加藤会員の本学会に対する功績もたいへん大きい。1994年から地質学雑誌の編集委員長を1年間務め、2002年9月から2006年5月までは副会長として学会運営に貢献した。また、本学会の日本地方地質誌（朝倉書店）刊行委員会委員長として全巻出版（2006年「中部」から2017年「東北」まで）を成し得た指導力と調整力も特筆に値する。

以上のように、加藤碩一会員は学術研究、教育、普及、社会貢献、そして学会運営に多大な功績を残しており、本学会の名誉会員として相応しい人物と判断し、ここに推薦する。



狩野 謙一 会員

(かの けんいち)

1947年6月2日生（77歳）

静岡大学名誉教授・静岡大学防災総合センター客員教授

狩野謙一会員は東京大学理学部地学科および同大学大学院理学系研究科で地質学を専攻し、1974年10月に東京大学理学部に助手として着任した。1979年に東京大学より理学博士を授与され、同年4月に静岡大学教育学部講師に着任、1983年助教、1988年に理学部へ転任、1993年より教授を務め、2013年に定年退職し静岡大学名誉教授の称号を授与された。この間、1992年10月から1年間Auckland University of Technology客員教授を務めた。現在、静岡大学防災総合センター客員教授を務めている。

狩野会員は、専門である構造地質学の観点から、西南日本内帯美濃帯の構造解析、およびそれをもとにした日本海拡大と伊豆弧衝突による大小スケールの屈曲構造形成を含む地殻構造変遷の理解に大きく寄与した。また、静岡県と隣接地域にまたがる赤石山地を中心とした詳細な地質調査を行い、付加体とそれを切る断層・構造帯の形成と運動過程を実証的に示した。これらの研究成果は日本列島の地質構造発達史の理解を大きく前進させた。このように狩野会員の研究成果は日本の地質学の発展に寄与しただけでなく、静岡県の20万分の1地質図をはじめてとした多くの図幅や教科書に採用され、今なお確固とした学術的基盤を形成している。

狩野会員は「歩いて調べる野外地質学」の研究者・教育者として、静岡大学在任中に多くの優秀な学生を育成した。卒業生・大学院修了生の多くは地質コンサルタントなど専門分野を生かした分野で活躍している。また、狩野会員は多くの専門書・普及書を著し、それらは地質学の教育と普及に役立っている。特に、豊富な実例を提示し構造地質学分野で日本初とも言える実践的教科書となった『構造地質学』（朝倉書店）は、プレート沈み込み帯の地質を理解する上で不可欠である付加体、メランジュ、断層と地震、褶曲等の項目

2024年度 日本地質学会各賞授賞理由

各賞選考委員会
委員長 三田村宗樹

2024年度の各賞の授賞候補者、授賞候補論文および授賞理由について、下記の通り報告いたします。

日本地質学会都城秋徳賞 (1件)



授賞者: Gregory F. Moore氏 (アメリカ・ハワイ大学)
対象研究テーマ: 南海トラフ周辺における地質構造の三次元イメージング研究

米国ハワイ大学の Gregory F. Moore 名誉教授は、世界各地の付加体の地質構造や発達過程などについて、主に地質学的・地球物理学的アプローチによって多くの重要な成果をあげてこられた。Moore 氏の研究対象は、日本周辺をはじめ、スマトラ島沖、モルッカ海、台湾周辺、北米オレゴン沖、中米バルパドス、コスタリカ沖、ヒクランギ沖など世界各地に広がっている。ただし Moore 氏の研究の多くは南海トラフ周辺海域に集中しており、研究論文の3分の1以上が南海トラフ関係となっている。なかでも特筆すべき研究成果は、南海トラフ周辺で実施された、反射法地震探査やIODP等の海底掘削のコア試料の解析による南海トラフ付加体の構造を日米共同で解明したことであり、デコルマ面（プレート境界）やメガスプレー断層の三次元地質構造を含む、現世付加体の構造を世界に先駆けて鮮明に描き出したことである。例えば、紀伊半島沖では、南海トラフ付加体内の巨大分岐断層が、付加体の下位にあるプレート境界断層から海底面まで連続し、前面の付加体内の低角断層群を切る様子を世界に先駆けて詳細に明らかにし、巨大分岐断層の役割について詳しい議論を行っている。また四国沖では、デコルマ面を境に上盤側では海溝充填堆積物が分岐断層によるスラストや褶曲を伴いながら、付加体が形成されてゆくのに対して、下盤側では半遠洋性堆積物が非変形のまま海洋地殻とともに沈み込むさまを見事に描き出した。

南海トラフ周辺の現世付加体の詳細な地質構造描出による収束境界の地質構造やテクトニクスに関する研究では、多くの日本人研究者との共同研究において Moore 氏はリーダーシップを発揮してこられた。また、日本の若手研究者の育成に貢献するとともに、日本における現世付加体の研究が世界で認められる上で、一つの重要な役割を果たされた。Moore 氏とその共同研究者が明らかにした現世付加体の地質構造は、日本の地質基盤の主要な要素の一つである陸上付加体の研究にも多大な影響を与えている。

により、1978年に日本地質学会奨励賞、2009年に日本地質学会賞を受賞した。2016年には日本地球惑星科学連合フェローに選出された。

鳥海会員は長年にわたり変成岩岩石学を中心として多くの後進を育てるとともに、卓越した数理解科学の知識を背景に非平衡・非線形系・データ駆動科学の導入を地質学においていち早く提唱し、常に地質学界に刺激を与え続けてきた。鳥海会員が研究者育成および地質学の活性化に果たした功績は大変大きいと認められる。また、地質学に関する専門書や一般書籍の執筆・監修は30冊近くにのぼり、放送大学でも講義を担当するなど、地質学の教育、普及、啓発に積極的に取り組んできた。

鳥海会員は地質学雑誌編集委員会委員を5年間務めた後、1998年からの2年間は同雑誌編集長として雑誌の安定した出版と発展に尽力した。また、2000年から2002年にかけては評議員として本学会の運営に大きく貢献した。

以上のように、鳥海光弘会員は学術研究、教育、普及、社会貢献、そして学会運営に多大な功績を残しており、本学会の名誉会員として相応しい人物と判断し、ここに推薦する。

に関する詳細かつ平易な解説によって高く評価され、韓国版に翻訳されるなど地球科学系の書籍としては広く普及した名著となった。この「教科書の発行と構造地質学の普及への貢献」に対して、2012年に本学会から学会表彰を受けた。また、狩野会員は国や地方自治体の数多くの委員も歴任した。

狩野会員の本学会の運営と発展に対する功績も大きい。2002年から3期6年間にわたり現在の執行理事に相当する役職である執行委員および理事、2008年から2年間は法人化後の理事を務めた。構造地質部会会長や各賞選考委員会委員長なども歴任した。また、2003年から2008年まで地質学雑誌編集委員長として雑誌の安定した出版と発展に尽力した。

以上のように、狩野謙一会員は学術研究、教育、普及、社会貢献、そして学会運営に多大な功績を残しており、本学会の名誉会員として相応しい人物と判断し、ここに推薦する。



鳥海 光弘 会員

(とりうみ みつひろ)

1946年12月22日生 (77歳)
東京大学名誉教授

鳥海光弘会員は東京大学理学部地学科および同大学大学院理学系研究科

で地質学を専攻し、1973年に東京大学総合研究資料館助手に着任した。その後、1977年愛媛大学理学部助教授、1985年東京大学理学部助教授、1991年同教授を経て、1998年から同大学大学院新領域創成科学研究科教授を務め、2010年に定年退職し東京大学名誉教授の称号を授与された。この間、1995年東京大学総長補佐、2005年新領域創成科学研究科副研究科長などを歴任した。2008年からは海洋開発研究機構上席研究員、2011年同機構地球内部ダイナミクス領域長、2013年同海洋地球生命史研究分野長などを務めた。

鳥海会員は既存の学問の枠にとらわれず数理解科学および物理化学的なアプローチを駆使することで、地質学的諸問題に対して顕著な功績をあげてきた。その功績は変成岩岩石学からマントルレオロジー、造山運動、大陸のダイナミクス、地震活動の数理解析まで多岐に渡る。変成岩岩石学では、従来の化学平衡の枠を超えて流体力学や粉体力学を導入し、変成帯の構造や変形組織から歪みや応力を定量化する先駆的な研究を行った。放散虫の変形解析による歪み・応力の定量化、曹長石変晶やざくろ石変晶の幾何学解析による鉱物粒子の移動、包有物の形状解析による加熱時間や歪み速度の定量化などである。また、実験岩石学的手法により鉱物の再結晶特性を決定することでマントルレオロジーの定量化を行ったほか、応力計を考案した。さらに、非平衡・非線形系科学およびデータ駆動科学を導入することで、変成反応と流体流れの相互作用やクラック形成メカニズム、地震発生の空間相関性などを明らかにした。これらの功績

以上のように、国際的に顕著な業績を残し、南海トラフを中心とした日本の取東境界の地質学的发展と研究者育成に多大な功績を残したMoore名誉教授に、日本地質学会都城秋穂賞に値すると判断した。

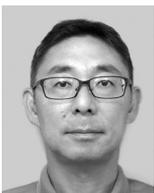
Island Arc Award (1件)



対象論文: Yusuke Sawaki, Hisashi Asanuma, Mariko Abe, Takafumi Hirata, 2020, U-Pb ages of granitoids around the Kofu basin: Implications for the Neogene geotectonic evolution of the South Fossa Magna region, central Japan. Island Arc. 29. e12361.

本論文は、甲府盆地周辺の新生代花崗岩類について多数のジルコンU-Pb年代測定を行い、複数の火成活動時期を特定することによって、南部フォッサマグナ地域の新第三紀以降の構造発達史の理解に再考をうながすものである。甲府盆地周辺は伊豆-小笠原-マリアナ (IBM) 弧と南西本州弧との衝突による複雑な地質構造を持つが、著者らは貫入時期が異なる複数の花崗岩活動期に注目し、系統的なジルコンU-Pb年代測定を試みた。その結果、同地域の花崗岩活動が約15.5Ma、約13Ma、約10.5Ma、そして約4Maの4時期に分けられることを明示した。同地域で最古の約15.5Ma花崗岩形成がIBM弧内でのマグマ活動であったのに対して、約13Maの花崗岩類が本州弧とIBM弧との境界をまたいで貫入したことを突き止め、2つの島弧系の衝突開始時期を15~13Maの間と制限した。また約10.5Maの火成活動はIBM弧の背弧拡大に、そして最も新しい約4Maの花崗岩形成は島弧衝突に伴う急速なマグマ形成に各々関係したと解釈した。南部フォッサマグナ地域については、これまでにIBM弧の衝突時期とプレート三重点の挙動などを想定した複数のプレート運動学モデルと古地理図が提唱されてきたが、本研究は既存の理解に再考を迫ることになった。この著しい貢献はIsland Arc賞にふさわしいと判断した。

日本地質学会H.E.ナウマン賞 (1件)



授賞者: 岡本 敦 会員
(東北大学大学院環境科学研究所)
対象研究テーマ: 岩石組織に基づく地殻・マントルにおける岩石-水相互作用のダイナミクスの解説

マントル岩石の岩石-水相互作用に関する研究で岡本会員は、岩石組織の詳細な観察を基礎として、マントル岩石の加水反応や炭酸塩化反応が自己促進的に進行するメカニズム

を数値モデリングを通じて明らかにしている。さらに、マントル岩石のナノスケールから数百メートルスケールにわたる反応帯組織の解析を行い、従来理解が困難であった流体活動の時間スケールを推定することに成功した。そして、地球内部の流体活動と地震活動の時間スケールが整合的であることを明らかにした。これらの研究成果は、地球規模の水・炭素循環や地震活動に関する更なる研究と議論を国際的に推進することに大きな役割を果たしている。

また、岡本会員は、地震発生時の急激な減圧効果を示すとされる鉍ウ脈の形成過程を、独自に設計した装置を駆使した水熱反応実験により再現することに成功した。この成果は、露頭規模で観察される岩石組織と地震活動を結びつける点で極めて重要であり、地震活動と流体活動の時間サイクルに関して、新たな視点からの制約条件を提供するものでもある。また、これらの実験的アプローチは、理学のみならず、地熱発電開発など工学分野の研究にも寄与するものと期待できる。

岡本会員は、これまでに数多くの論文を発表するとともに、国際学会において招待講演や基調講演を行い、国内外の学界に大きなインパクトを与えてきた。そして、上記のように数値モデリングと水熱反応実験の両面から、地殻-マントルにおける流体挙動に関する研究を推進してきた点は特筆される。このような業績と今後期待されるさらなる国際的かつ学際的活躍は日本地質学会H.E.ナウマン賞に値するものである。したがって、岡本会員は、日本地質学会H.E.ナウマン賞に値すると判断した。

日本地質学会小澤儀明賞 (1件)



授賞者: 羽田裕貴 会員
(産業技術総合研究所)
対象研究テーマ: 鮮新-更新統の超高時間分解能解析による北西太平洋古海洋・古地磁気変動の研究

羽田裕貴会員は、緻密な野外調査を行い、鮮新-更新統の精密年代層序の構築と、高時間分解能での有孔虫酸素同位体および古地磁気分析によって、日本列島周辺海域を含む北西太平洋における古海洋変動・地磁気変動の研究において顕著な成果を挙げた。特に、下部-中部更新統境界の国際標準模式層断面とポイント (Global Boundary Stratotype Section and Point, GSSP) に批准された千葉セクションを含む一連の海成更新統 (千葉複合セクション) においては、表層・亜表層・底生有孔虫化石を、平均160年間隔で分析することにより、超高時間分解能での酸素同位体層序を構築した。そして、数ある間水期の中でも、現在の完新世と地球の軌道要素が、過去100万年間で最も類似している海洋酸素同位体ステージ19を精査し、海洋性と陸源性有機物の混合比や底層水酸素濃度が水期

間水期サイクルと一致していることを示した。さらに、羽田会員は、磁気反転が77万2900 (±5400) 年前であること、78万3000年前から76万3000年にかけての2万年間に古磁気方位が数度にわたり不安定となり、これが古磁気強度の減少を伴っていたことをつきとめた。これらの研究は、GSSP、海洋酸素同位体ステージ19、松山-ブルンの地磁気逆転境界という地質学における重要なテーマに大きな貢献をしたと高く評価される。

羽田会員は、これらの手法を精力的に発展させ、沿岸堆積物や湖成層を用いた鮮新-更新世の古地磁気層序の構築や火成岩礫の磁気分析などを行い、新領域の研究分野にも取り組んでいて、すでに成果の一部を発表している。これらの研究は、国内外の多くの研究者との協力を通じて実施されてきたが、羽田会員は、若手のリーダーとしての役割をきちんと果たしてきた。古地磁気と古環境の両研究は、地球の内部と表層で起こる地球システムの理解の上で本質的なテーマで、羽田会員の研究には今後の一層の発展が期待される。以上の羽田裕貴会員の業績と将来性は、日本地質学会小澤儀明賞に値すると判断した。

日本地質学会榊山雅則賞 (1件)



授賞者: 奥田花也 会員
(海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門)
対象研究テーマ: 沈み込みプレート境界断層の統合的すべり挙動の研究

奥田花也会員は、プレート沈み込み帯地震の発生機構解明に向け、断層の摩擦特性に関する実験的研究で顕著な成果をあげてきた。プレート沈み込み帯で採取されたコア試料や陸上のアナログ岩石、模擬物質についての変形実験、および第一原理計算に基づく原子スケールの数値実験などにに基づき、海溝からマントルウェッジに至るプレート境界断層物質および関連する鉱物の物性を系統的に明らかにした。

奥田会員はまず、付加体から採取されたコア試料やその模擬物質を用い、プレート沈み込み境界の幅広い深度領域における摩擦特性を解明し、海溝型巨大地震や浅部スロー地震の発生理解に貢献した。また、地震発生領域に対応する温度・圧力下での摩擦実験に基づいて、海洋地殻を構成する変質した玄武岩が、実際の断層運動に近いと考えられる間欠的な変位挙動を生じ易く、また、スロー地震発生領域に存在する可能性のあるブルース石が、不安定滑りを起こしうることを示し、海洋地殻やマントルの変質プロセスで形成される岩石や鉱物が断層運動に重要な役割を果たす可能性を示した。さらにまた、断層強度を左右すると考えられる粘土鉱物内部の摩擦が、原子スケールでどのように働くかを第一原理計算に基づく数値シミュレーション

によって明らかにし、結晶構造の差異による摩擦強度や特性の違いを評価することに成功した。これらの成果により、多様な物質・鉱物で構成されると考えられる実際の断層やプレート境界の強度や特性を、変形実験や数値シミュレーションに基づいて推定可能であることが示された。

このように、奥田会員は、多様な手法をもちいて幅広い空間スケールでの断層挙動メカニズムの研究に取り組んでいる。また、国内外を問わず、複数の研究者・研究室と積極的に協力して先端的研究および地質学-地震学の融合的研究を行っており、今後、さらなる国際的・学際的な活躍が期待される。以上の奥田会員の業績と将来性は、日本地質学会榊山雅則賞に値すると判断した。

日本地質学会論文賞 (1件)

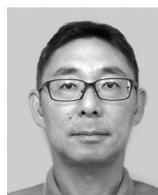


授賞論文: Nakajima, T., Sakai, H., Iwano, H., Danhara, T., & Hirata, T., 2020, Northward cooling of the Kuncha nappe and downward heating of the Lesser Himalayan autochthon

distributed to the south of Mt. Annapurna, western central Nepal. *Island Arc*. 29, e12349.

著者らはネパールに分布する高度・低度の変成岩類と現地性堆積物にまたがる南北セクションから12試料を採取し、ジルコンのフィッシュン・トラック年代測定を行った。その結果、約240°Cへの冷却時期は、大規模衝上断層の存在に影響されず、南方(下位)の約12Maから北方(上位)の1.6Maへと連続的に若くなることが示された。また3試料についてヒマラヤ地域で初めてトラック長解析を行い、高速侵食が見込まれる北方山岳地域において、南部地域よりも有意に大きな冷却速度が導かれることを示し、その予測を裏付けた。さらに、南方の低度変成岩から得られた457Maという不完全な若返り年代は、変成作用の熱源が上盤側にあったこと、つまり同地域全体が12Maよりも前に一度、高度変成岩の衝上に伴う熱変成を受けたことを示唆する。すなわち、この衝上イベントの後、上下盤が一体化してから剝削されるという構造発達史が明確化した。本論文のデータは、世界的に注目度の高いヒマラヤ造山運動に強い制約を与えるものであることから、この貢献を高く評価し、本論文が日本地質学会論文賞の授賞にふさわしいと判断した。

日本地質学会小藤文次郎賞 (1件)



授賞者: 岡本 敦会員 (東北大学大学院環境科学研究所)

対象論文: Okamoto, A., Oyanagi, R., Yoshida, K., Uno, M., Shimizu, H., Satish-Kumar, M., 2021, Rupture of wet mantle

wedge by self-promoting carbonation. *Communications Earth & Environment*, 2, 151.

本論文は関東山地三波川変成帯、樋口蛇紋岩体において、炭素が沈み込み帯のマントルウェッジに固定される過程を解明した。著者らは同岩体内の炭酸塩鉱物脈に関して、野外観察と岩石試料解析、炭酸塩鉱物の安定同位体分析、熱力学計算を行い、炭酸塩鉱物脈が、変成堆積岩中の炭質物起源の炭酸ガスによって形成されたこと、および蛇紋岩化プロセス中に生成する流体と岩石間の相互作用の詳細を説明した。特に、蛇紋岩化過程における炭酸化反応が自己促進的に、かつ断続的に進行し、固体系積の減少、流体圧の増大、脱水反応、元素移動を伴うことを示した。蛇紋岩化したマントルウェッジ内の炭酸塩脈の形成は、沈み込みによる地球深部への物質循環やテクトニックな活動と密接に関連しており、それらの過程を理解する上で重要な手がかりを提供する。本論文は、マントルウェッジの蛇紋岩化過程における炭酸化反応が、その熱力学的および物理的性質に大きな影響を与えることを論理的に指摘し、その学術的なインパクトは大きい。以上のことから、本論文の筆頭著者である岡本 敦会員が日本地質学会小藤文次郎賞の授賞にふさわしいと判断した。

日本地質学会地質学雑誌特別賞 (1件)



授賞論文: 牛丸健太郎・山路 敦, 2020, 天草下島北部の中新世貫入岩体の方向と応力解析. *地質学雑誌*, 126巻, 11号, 631-638.

本研究は、熊本県天草下島に分布する14~17Maに形成された板状貫入岩体(76枚)の方位を網羅的に調査し、応力解析を実施した。日本海拡大期には、島弧に直交する引張応力が働いたと一般に考えられている。天草下島では、琉球弧に直交する西北西-東南東引張を示す大規模な流紋岩岩脈の存在が指摘されていたが、このような岩脈を代表的トレンドとすることには危険性があることを指摘し、テクトニックな評価が行えるよう、多数の小規模な貫入岩体の方位分布を用いて応力解析を行っている。傾動補正前後の応力方向の検討を行い、始新統の褶曲に参加している

かについて、得られた応力方向は褶曲形成とは不調和で、貫入岩体は褶曲後に生じた可能性が高いとした。検出された南北引張応力が通説と一致しないことを示したが、広域テクトニクスの議論には慎重であり、局所的な放射状岩脈群の一部を観測した可能性も指摘している。検出された応力の解釈を丁寧に行っていること、レターの限られた紙面にフィールド調査、年代評価、応力解析結果の吟味、既存資料に対する議論をコンパクトにまとめた論文構成は高く評価できる。以上のことから、本論文が地質学雑誌特別賞の授賞にふさわしいと判断した。

日本地質学会研究奨励賞 (1/5件)



授賞者: 福島 諒会員 (東北大学大学院理学研究科)

対象論文: Fukushima, R., Tsujimori, T., Aoki, S., and Aoki, K., 2021, Trace-element zoning

patterns in porphyroblastic garnets in low-T eclogites: Parameter optimization of the diffusion-limited REE-uptake model. *Island Arc*, 30, e12394.

化学組成データとモデル計算を統合し、変成岩中のザクロ石から造山運動の時間規模などの地質情報を抽出しようとする研究は古くからあるが、その具体的な方法論は開発途上の段階と言える。近年の微量元素スポット分析技術の進歩に注目し、著者らはまず、ギリシャ産とグアテマラ産の低温エクロジイト中のザクロ石を、結晶中心を通る面で精密切断し、LA-ICP-MSでのラスタ分析を行った。そして、独自開発した2次元信号処理法を駆使し、ザクロ石の中心部から最外縁部に至るMnと希土類元素についての濃度プロファイルを取得した。このデータは最近の海外研究者らの論文で引用されるなど、注目を集めている。さらに著者らは2006年に提唱された「拡散律速取り込みモデル」を再検討し、本論文で得られた濃度プロファイルとの比較を行うことで、ある組成累帯構造から一意に定まるパラメータ群を整理し、それらを基に拡散律速または界面律速といった、地質帯ごとの変成カインテックスの差異を議論できる可能性を新たに論じた。以上の貢献から、本論文の筆頭著者である福島 諒会員が日本地質学会研究奨励賞の授賞にふさわしいと判断した。

日本地質学会研究奨励賞 (2/5件)



授賞者: 木下英樹会員 (京都大学大学院理学研究科, 応用地質株式会社)

対象論文: Kinoshita, H. and Yamaji, A., 2021, Arc-parallel extension in preparation of the rotation of southwest Japan:

Tectonostratigraphy and structures of the Lower Miocene Ichishi Group. Island Arc, 30, e12418.

日本海拡大時、西南日本はほぼ「一枚岩」として移動したとされ、当時のグラーベンの規模の小ささはそのことと調和的だとされている。しかし近年、規模の大きなグラーベンが重力探査により知多半島付近で発見されるなど、グラーベンの多様性から多方向の島弧内リフティングがあったことが指摘されてきた。そこで、背弧拡大時における島弧内変形の詳細なプロセスを解き明かす目的で、筆者らは伊勢湾西部の下部中新統一志層群の地質調査を行い、高精度の地質図を作成した結果、地質図規模の断層のスリップ方向から島弧と平行な東北東-西南西方向の引張応力を検出し、正断層と左横ずれ断層によるグラーベンが形成されたことを示した。また、整合一連とされてきた同層群中に不整合を発見して、それを境にブロック状の差別的昇降から広範囲のサグ状沈降に移行したことを示した。さらに、これらを基に、島弧と平行な引張りによって伊勢湾周囲にグラーベンの集合体が形成され、最終的にはフォッサマグナの深いリフト帯の形成をもたらすとともに17.5 Ma頃からの西南日本の急速な回転につながったことを提示した。これらの成果は、Supporting Informationに含まれる豊富な露頭写真からも裏付けられるように、詳細な地質調査に基づく岩相層序の観察と構造地質学的な解析から初めて明らかになったものであり、日本海拡大時における島弧内変形のプロセスの理解に大きく貢献する研究として高く評価される。以上のことから、本論文の筆頭著者である木下英樹会員が日本地質学会研究奨励賞の授賞にふさわしいと判断した。

日本地質学会研究奨励賞 (3/5件)



授賞者：武藤 俊会員（産業総合研究所地質情報研究部門）

対象論文：Muto, S., Takahashi, S., & Yamakita, S., 2023, Elevated sedimentation of clastic matter in pelagic

Panthalassa during the early Olenekian. Island Arc, 32, e12485.

過去の超海洋で数千万年以上にわたって継続的に堆積した遠洋深海チャートには、ペルム紀末大量絶滅直後の下部三畳系に限定された珪質粘土岩が挟まれる。本研究は、岩手県安家地域に産するこの特徴的な粘土岩について、高分解能のコノドント生層序年代に基づき堆積速度を復元し、その堆積速度が通常の層状チャートよりも明らかに高いことを示した。粘土岩が持つ高い堆積速度は、従来の放散虫生産性の低下という解釈では説明できず、超海洋中央部への細粒碎屑物（おそらく風成塵）フラックスの増加が示唆される。その原因として、グローバルスケールの陸域環境の変化、特に広域の乾燥化もしくは乾期の

強化が考察されており、特徴的な粘土岩が世界でも稀な貴重な堆積記録であることが明示された。本論文は、粘土岩からのコノドント抽出における独自の工夫および詳細な露頭観察に基づく着実な観察・記載を行った結果、卓抜した新解釈を導いており、また洗練された英文執筆能力が伺えることから、今後の若手研究者にとっての好見本となると判断される。以上のことから、本論文の筆頭著者である武藤 俊会員が日本地質学会研究奨励賞の授賞にふさわしいと判断した。

日本地質学会研究奨励賞 (4/5件)



授賞者：渡部 将太会員（茨城大学大学院理工学研究科）

対象論文：渡部将太・長谷川 健・小畑直也・豊田新・今山武志, 2023, 福島県南部、二岐山火山の噴火史とマグマ供給系。

地質学雑誌, 129, 307-324.

本論文は、那須火山群の二岐山火山について、空中写真や地形図などを用いた地形判読、現地調査、試料採取と岩石記載、全岩化学組成分析、および熱ルミネッセンス年代測定を行い、層序、噴出率の時間変化、マグマの生成・供給系の評価を総合的におこなったものである。従来3つに大別されていた噴出物を、溶岩と火砕物からなる11のユニットに新たに分類し、その層序区分に基づいて熱ルミネッセンス年代測定を行い、マグマ噴出率の時間変化を評価した。また、岩石記載と全岩化学組成データから、噴出物を6つの岩石タイプに区分し、鉱物組み合わせおよび組成の多様性の成因を議論した。さらに、層序、年代値、噴出率変化と成因論を組み合わせ、二岐山火山におけるマグマ生成・供給系と火山発達史を実証的かつ総合的に議論している。このように本論文は、多様な手法と結果を有機的に結び付けて、マグマの成因から火山形成史までを統合的に論じたもので、火山発達史の理解に大きく資すると同時に、その総合的な取り組み方は他の火山にも適用可能な一般性を有する。以上のことから、本論文の筆頭著者である渡部将太会員が日本地質学会研究奨励賞の授賞にふさわしいと判断した。

日本地質学会研究奨励賞 (5/5件)



授賞者：吉田 聡会員（東北大学 東北アジア研究センター）

対象論文：Yoshida, S., Ishikawa, A., Aoki, S., and Komiya, T., 2021, Occurrence and chemical composition of

the Eoarchean carbonate rocks of the Nulliak supracrustal rocks in the Saglek Block of northeastern Labrador, Canada. Island Arc, 30, e12381.

カナダ・ラブラドル地方のサグレック岩体は世界最古の堆積岩を含む極めて重要な地質体である。本研究では、ここに分布する原太古代の炭酸塩岩の地質学的産状を記述し、計54試料の主要・微量元素を分析した。地質学的産状や高いシリカ等の含有量から、炭酸塩岩は珪化作用による変質を受けていると考えられたが、変質の影響を慎重に吟味することで、当時の海水組成を反映する成分が抽出された。また、特定の希土類元素に見られる濃度異常が鉄酸化物の沈澱によるものであり、サグレック岩体の炭酸塩岩が塩基性熱水の影響を受けていたことが示された。本研究は、太古代の最も古い時代の堆積岩に関するデータの価値に加え、変質した炭酸塩岩から海水組成の復元につながる研究が可能であることを示した点で意義が大きい。本論文の筆頭著者である吉田会員は本研究を主体的に進めており、彼の今後の研究が地球史の海洋環境や物質循環の理解に大きく貢献すると期待できる。以上のことから、吉田 聡会員が日本地質学会研究奨励賞の授賞にふさわしいと判断した。

日本地質学会表彰 (1件)



表彰者：夏原信義氏（夏原技研）

表彰業績タイトル：実験装置の開発・製作による地質学への貢献

夏原氏は大阪大学基礎工学部の技官として、精度良い加工を施した川井

型マルチアンビルを作成し、超高压地球科学の発展初期段階での研究進展を支援した。夏原技研を創業後、日本の古地磁気学分野の各種実験装置の開発・製作と改良を一手に担い、夏原氏の岩石磁力計や消磁装置は、日本のほとんどの古地磁気学研究室に導入されるほか、地球深部探査船「ちきゅう」や諸外国の大学にも導入され、国際的にもその評価が高い。交流消磁装置付全自動スピナー磁力計は世界に類のない実験装置であり、古地球磁場強度推定の研究に大きく貢献している。さらに開発機器は、岩石ドリル、堆積物用プラスチックキューブ、ピストンコアラーと多岐にわたり、古地磁気学に限らず岩石学、層序学、古環境学や考古学などのサンプリングにおいて国内外で広く使用されている。夏原氏のこうした実験装置類とサンプリング機器類は、研究者との対話と共同作業によって開発、実用化され、研究者の要求に応じて改良・修理もされてきた。夏原氏がこれらの開発・製作によって地質学の発展に果たした貢献はきわめて大きいことから、夏原信義氏は日本地質学会表彰を受けるにふさわしいと判断した。

一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003年9月19日 日本地質学会総会制定

2009年12月5日 一般社団法人日本地質学会制定*

日本地質学会の会員は、科学的真理を明らかにする事を目的として、誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う。その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り、もって社会の発展と人類の福祉に貢献する。会員は、基本的人権を守り、良識かつ品位のある行動をとる。

1. 科学者としての倫理：会員は、専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る。研究と調査においては、法を遵守し、社会的良識に従って行動する。科学的事実に対しては常に謙虚、誠実でなくてはならない。研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し、公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する。

2. 知的交流の確保：会員は、国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに、研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める。

3. 人類と社会への責務：会員は、その専門知識と技術を適切に活用し、研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する。

日本地質学会

4. 地球環境への責務：会員は、地球システムの諸現象についての専門家として、地質災害の予知と防止、地球環境の将来予測、資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに、専門知識を活かして環境の保全と改善に努める。自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する。

5. 次世代への責務：会員は、地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展、次世代を支える人材の育成を図る。研究や調査の成果物、重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める。

*2009年12月5日法人理事会において、一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定。

地質情報展2024
やまがた

山と盆地をつくる

大地のヒミツ

2024.

9/6~8日

楽しく地球を学べる3日間!

時間

6,7日 9:30~17:00

8日 9:30~16:00

※最終入場は終了時刻の30分前

入場無料



Webをチェック

会場

山形テルサ 3F アプローチ

JR山形駅西口徒歩10分 駐車場(有料あり)

展示

山形の地質や地震、火山、資源の解説パネル

実験・体験



石割り体験

火山噴火実験

水路堆積実験 ほか

講演

9/7日

GSJ研究者3名による
山形の地震、火山、地下水のお話
1F大会議室 14:00~16:00 事前申込不要



国立研究開発法人産業技術総合研究所

主催: 地質調査総合センター・東北センター・

福島再生可能エネルギー研究所、日本地質学会

共催: 鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会

後援: 山形県立博物館、山形市教育委員会、日本ジオパークネットワーク、東北地質調査業協会、NHK山形放送局、山形新聞・山形放送、エフエム山形
協力: リトルリバーリサーチ&デザインジャパン

お問い合わせ
事務局

TEL : 029-861-3540 (平日昼のみ)

Email : M-johoten2024-ml@aist.go.jp

URL : <https://www.gsj.jp/event/johoten/>

背景写真: 山形県広報写真ライブラリー